


System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center バージョン 7.2 ユーザーズ ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: 本書について	8
本書で変更された内容.....	8
対象読者.....	8
章 2: System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) について	9
OMIMSSC アーキテクチャの概要.....	10
OMIMSSC の主要機能.....	10
OMIMSSC アプライアンスの利点.....	11
OMIMSSC と DSMPS の機能の比較.....	11
OMIMSSC 7.2 の新機能.....	12
章 3: OMIMSSC ライセンスの購入と管理	14
OMIMSSC のライセンス タイプ.....	14
OMIMSSC のライセンス対象機能.....	14
OMIMSSC のライセンス不要機能.....	14
OMIMSSC ライセンスの購入.....	14
OMIMSSC ライセンスの使用状況の確認.....	15
章 4: OMIMSSC アプライアンスのポート情報と通信マトリックス	16
章 5: サポートマトリックス	18
OMIMSSC を使用するために必要なユーザー役割.....	20
章 6: OMIMSSC アプライアンスの導入と設定	21
サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード.....	22
Hyper-V または ESXi に OMIMSSC を導入する前に.....	22
Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定.....	22
OMIMSSC アプライアンスが Hyper-V でホストされていることの確認.....	23
ESXi での OMIMSSC の導入と設定.....	23
OMIMSSC アプライアンスの設定.....	24
OMIMSSC VM のネットワーク設定.....	24
章 7: デバイス管理のための OMIMSSC および SCOM インターフェイス	26
OMIMSSC 管理ポータルへのログイン.....	26
章 8: OMIMSSC への管理サーバーの登録	28
Dell EMC OMIMSSC Configuration Management Pack のダウンロード.....	28
SCOM での OMIMSSC 構成管理パックの手動インポートと手動インストール.....	28
OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録.....	29
章 9: OMIMSSC 管理ポータルで実行できるタスク	30
OMIMSSC アプライアンスの現在のバージョン、ホスト名、IP アドレスの表示.....	30
OMIMSSC 管理ポータルを使用した登録済み管理サーバーのログイン認証情報のアップデート.....	30

OMIMSSC に登録されている SCOM コンソールに関するデータの表示と更新.....	30
OMIMSSC デバッグ ログの表示.....	31
章 10: SCOM コンソールからの OMIMSSC の管理.....	32
OMIMSSC バージョン 7.1.1 から SCOM コンソールに機能管理パックをインポートして導入する.....	32
SCOM コンソールを使用した OMIMSSC の起動.....	32
新しい IP アドレスを使用した現在の OMIMSSC IP アドレスのオーバーライド.....	33
OMIMSSC の認定資格プロフィール.....	33
OMIMSSC に SCOM コンソールを登録するための Windows 認定資格プロフィールの作成.....	34
OMIMSSC でのデバイス認定資格プロフィールの作成.....	34
OMIMSSC での認定資格プロフィールの変更.....	35
OMIMSSC での認定資格プロフィールの削除.....	35
SCOM コンソールでのタスクの実行.....	35
デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド.....	35
章 11: OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能を使用した PowerEdge サーバーの検出とモニタリング.....	37
PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション向けの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の概要.....	37
OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の拡張可能エディションおよび詳細エディション.....	37
ホストオペレーティングシステムを使用し、WS-Man または iDRAC アクセスを使用した PowerEdge サーバーおよびワークステーションの検出と分類.....	38
Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング (ライセンス対象) を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件.....	38
OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用する PowerEdge サーバーの検出.....	38
SCOM コンソールを使用した PowerEdge サーバーの検出.....	39
WS-Man を使用したオブジェクトの検出.....	40
PowerEdge サーバーをモニタリングする SNMP Services のインストール.....	40
SCOM コンソールでの PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング.....	41
モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラートビュー.....	41
モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラムビュー.....	41
PowerEdge サーバーのパフォーマンスと電源のモニタリングの表示.....	42
PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビューの表示.....	42
章 12: OMIMSSC を使用した Dell EMC シャーシの検出とモニタリング.....	43
シャーシの検出と分類.....	43
OMIMSSC を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出.....	44
SCOM を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出.....	44
OMIMSSC のシャーシモニタリング機能.....	44
SCOM コンソールのモニタリング対象シャーシビュー.....	45
シャーシモジュラー型サーバー関連機能.....	47
シャーシモジュラー型サーバー関連機能を使用して検出されたオブジェクト.....	47
章 13: OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワークスイッチの検出とモニタリング.....	48
ネットワークスイッチの検出と分類.....	48
プロパティを上書きしてネットワークスイッチの検出プロセスをカスタマイズする.....	48
OMIMSSC 管理ポータルから検出するためのネットワークスイッチ管理パックのインポート.....	48
OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワークスイッチの検出.....	49
SCOM を使用した Dell EMC ネットワークスイッチの検出.....	49
OMIMSSC のネットワークスイッチモニタリング機能.....	50

SCOM コンソールのモニタリング対象ネットワーク スイッチ ビュー.....	50
章 14: OMIMSSC アプライアンスを使用した Dell EMC デバイスの管理.....	52
OMIMSSC を使用して登録された SCOM で検出されたデバイスのデータを同期する.....	52
OMIMSSC からの Dell EMC デバイスの削除.....	52
章 15: OMIMSSC 管理ポータルと OpenManage Integration Dashboard でのジョブの表示.....	53
OMIMSSC でのジョブのステータス.....	53
OMIMSSC でのジョブの表示.....	53
OMIMSSC でのアプライアンス関連のログの表示.....	54
OMIMSSC での汎用ログの表示.....	54
OMIMSSC ジョブのキャンセル.....	54
章 16: OMIMSSC モニタリング機能用の SCOM コンソールでのタスクの実行.....	55
SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行.....	55
OMIMSSC モニタリング機能を使用した Dell EMC デバイス上で実行されるタスク.....	55
ノードへの接続の確認.....	56
PowerEdge サーバーの保証情報の表示.....	56
SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでの OMSA の起動.....	56
SCOM コンソールを使用した iDRAC の起動.....	56
SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでのリモート デスクトップの起動.....	56
リモート iDRAC のハード リセット操作の実行.....	57
Embedded Server Management (ESM) ログのクリア.....	57
電源管理関連のタスク.....	57
Dell CMC コンソールの起動.....	58
章 17: OMIMSSC アプライアンスのアップグレード.....	59
サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョンのアップグレード.....	59
サービス パックを使用して OMIMSSC アプライアンスのバージョンをアップグレードするための一般的な手順.....	59
OMIMSSC サービス パックのリポジトリへの保存.....	60
オフラインまたはオンラインで保存されたサービス パックを使用した OMIMSSC のアップグレード.....	60
OMIMSSC アプライアンス データのバックアップと復元.....	61
OMIMSSC 7.1 および OMIMSSC 7.1.1 のデータのバックアップ.....	61
OMIMSSC 管理ポータルを使用した OMIMSSC 7.2 のデータのバックアップ.....	61
OMIMSSC データのリストア.....	62
IP アドレスを使用した OMIMSSC 7.1 および 7.1.1 バージョンのデータのリストア.....	63
CIFS 共有を使用した OMIMSSC 7.2 のデータのリストア.....	63
章 18: OMIMSSC に登録されている管理サーバーの登録解除 (登録解除)	66
SCOM コンソールの登録解除ステータスの表示.....	66
章 19: OMIMSSC VM の削除.....	67
章 20: トラブルシューティング.....	68
OMIMSSC アプライアンスの導入後、OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられない.....	68
OMIMSSC アプライアンスを導入した後、OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録が失敗するか、管理パックが正常にインストールされない.....	68
SCOM コンソールで OpenManage Integration Dashboard を起動できない.....	68

OMIMSSC アプライアンスに接続できない.....	69
ローカル アカウントとドメイン アカウントのユーザー名は一致しているにもかかわらずパスワードが異なる場合に発生した問題.....	69
OMIMSSC による Dell EMC デバイスのデータ同期の問題の解決.....	69
登録解除中にアクセスできなくなった SCOM コンソールの手動クリーンアップ.....	70
OMIMSSC と SCOM コンソール間の接続ができない.....	71
Mozilla Firefox ブラウザーを使用して OMIMSSC 管理ポータルにログインできない.....	71
デバイスを検出するために OMIMSSC で実行しているジョブが5時間を過ぎても進行状態のままになる.....	71
OMIMSSC の再起動後にデバイスを検出および監視できない.....	71
イベント ID 33333 : SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する.....	72
Dell EMC Feature Management Dashboard での問題の解決.....	72
章 21: リファレンストピック.....	74
OMIMSSC でサポートされているモニタリング機能.....	74
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能.....	74
Dell EMC シャーシ モニタリング機能.....	77
Dell EMC シャーシ モジュール型サーバー関連機能.....	78
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能.....	80
Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC のモニタリング機能の設定.....	81
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のインポート.....	81
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のアップグレード.....	82
拡張可能エディションおよび詳細エディション対応の Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のカスタマイズ.....	83
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能の削除.....	83
検出されたデバイスの重要度レベル.....	84
OMIMSSC での PowerEdge サーバーのライセンス対象モニタリングの主要機能.....	84
iDRAC9 PowerEdge サーバーのシステム設定ロックダウン モード.....	84
iDRAC9 PowerEdge サーバーの iDRAC グループ マネージャー.....	84
イベント自動解決.....	85
iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーの容量計画.....	85
障害が発生した CMC または OpenManage Enterprise-Modular のステータスの検出と復元.....	85
iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーのポート接続情報.....	86
OMIMSSC によって監視されているサーバーおよびラック型ワークステーションのハードウェア コンポーネント.....	86
OMIMSSC によるモニタリング対象シャーシのハードウェア コンポーネント.....	87
OMIMSSC によって監視されるネットワーク スイッチのハードウェア コンポーネント.....	88
OMIMSSC モニタリング機能によって提供される表示オプション.....	89
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー.....	89
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー.....	92
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビュー.....	92
OMIMSSC のユニット モニター.....	93
PowerEdge サーバーとワークステーションの OMIMSSC および DSMPS のライセンス対象モニタリング機能のユニット モニター.....	93
Dell EMC シャーシ モニタリング機能のためのユニット モニター.....	95
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能のユニット モニター.....	96
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって使用されるイベント ルール.....	96
章 22: 追加リソース.....	98

章 23: Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス	99
章 24: デル・テクノロジーズへのお問い合わせ	100
付録 A: 用語集	101
付録 B: 追加トピック	102
トラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするための SCOM の設定.....	102
SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成.....	102
複数の Run As アカウントの関連付け.....	103
Web Services Management (WS-Man) と SMASH デバイス テンプレートのインストール.....	103
Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタ リング機能.....	103

本書について


本書では、System Center Operations Manager (SCOM) 向けの Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) アプライアンスを使用して、データセンター内の Dell EMC デバイスとアプリケーションの導入、構成、効率的なモニタリングを行う方法について説明します。本書では、Microsoft によって提供される SCOM のドキュメントをサポートしており、SCOM のさまざまな機能を使用して実行できるすべての操作について説明することはありません。ただし、本書では、OMIMSSC モニタリング機能を使用して Dell EMC デバイスをモニタリングおよび管理するために SCOM で実行できるタスクについて説明します。本書に加えて、OMIMSSC アプライアンスの修正と既知の問題について、サポート サイトの OMIMSSC リリース ノートの最新バージョンを参照してください。

トピック：

- 本書で変更された内容
- 対象読者


本書で変更された内容

- これまでは、インストール ガイドで提供されていた OMIMSSC アプライアンスのインストールおよび構成手順は、このユーザーズ ガイドに統合されるようになりました。OMIMSSC アプライアンスの導入、構成、使用、およびトラブルシューティングについては、このガイドを参照してください。
- リファレンス トピック セクションには、各タスクのトピックに関連する概念および参照情報が一覧表示されます。
- 読みやすさとわかりやすさを向上させるために、OMIMSSC アプライアンスのさまざまな機能のインフォグラフィックとアプライアンスのスクリーンショットが提供されています。
- System Center Operations Manager 向けの Dell EMC Server Management Pack Suite (DSMPS) に固有の詳細情報は、すべて別のガイドとして使用できるようになりました。デル・テクノロジーのサポート サイトにある『Dell EMC Server Management Pack Suite for Microsoft System Center Operations Manager ユーザーズ ガイド』を参照してください。
- OMIMSSC を使用してノードの拡張性を向上させるために、プロキシ管理サーバーのセットアップと設定に関する情報 (今後は Dell EMC Alert Relay Server と呼ばれます) をテクニカル ホワイト ペーパーとして使用できるようになりました。デル・テクノロジーのサポート サイトにある『System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) による拡張性』テクニカル ホワイト ペーパーを参照してください。

 **メモ:** 本書では、プロキシ管理サーバーという用語は、今後は Dell EMC Alert Relay Server と呼びます。

対象読者

この OMIMSSC ユーザーズ ガイドは、サーバーおよびデータセンターの管理者を対象としています。

 **注意:** 本書の読者には、Microsoft SCOM およびその他のデバイス モニタリング アプリケーションに関する実用的な知識があることが想定されています。SCOM や他のモニタリング アプリケーションの使用経験がないと、データが失われる可能性があります。

System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) について

Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) を使用して、データセンター内のデバイスとアプリケーションを監視することができます。Dell EMC は、Operations Manager 向け OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) アプライアンスと Dell EMC Server Management Pack Suite (DSMPS) の両方で管理パックを提供します。これを使用することで、管理者は、Microsoft System Center - Operations Manager (SCOM) コンソールという1つのインターフェイスを使用して、Microsoft デバイスと Dell EMC デバイスを管理できます。Dell EMC OMIMSSC アプライアンスは Microsoft SCOM と統合されます。これにより、WS-Man、シャーシまたはモジュラー型システム (PowerEdge MX7000 を含む)、およびネットワーク スイッチを使用して iDRAC を介して検出された、Dell EMC PowerEdge サーバーおよびラック ワークステーションの検出、インベントリ、正常性のモニタリング、およびパフォーマンス メトリックとアラートの生成を行います。OMIMSSC アプライアンスは、WS-Man、シャーシ、ネットワーク スイッチを使用し、iDRAC を介した Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのエージェント フリーのモニタリングを提供します。従来型の管理パックを使用し、WMI または OMSA エージェントを使用する iSM を使用して PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのエージェントベースのモニタリングを実行することができます。

OMIMSSC は、以下のいずれかでホストされている VM です。

- VHD ファイルを使用している Hyper-V。
- OVA ファイルを使用している VMware ESXi。

OMIMSSC は、ZIP ファイル パッケージで使用可能なアプライアンス ベースのソリューションです。アプライアンスでサポートされているファイル形式は 2 種類あり、次の zip パッケージから抽出できます。

- OMIMSSC_SCOM_7.2.0.xxxx_VHD.zip。ここで、xxxx はビルド バージョンであり、VHD ファイル形式に抽出できます。
- OMIMSSC_SCOM_7.2.0.xxxx_OVA.zip。ここで、xxxx はビルド バージョンであり、OVA ファイル形式に抽出できます。

上記の両方の圧縮パッケージには、次のものが含まれています。

- VHD ファイルまたは OVA ファイル。
- PowerShell スクリプト - **DellEMC-Proxy-MS-Configuration-Script.ps1** は、レジストリーファイル (**DellEMC-SCOM-Agent-Registry.reg**) を使用して、プロキシ管理サーバー (今後 Dell EMC Alert Relay Server と呼ばれます) 上に特定のレジストリー エントリーを構成します。
- ドキュメント フォルダーには、readme.txt と、OMIMSSC ユーザーズ ガイドの PDF バージョンが含まれています。

Dell EMC OMIMSSC アプライアンスは、CentOS に基づいており、Dell EMC デバイスと通信します。

デバイスとの通信でサポートされるプロトコルは次のとおりです。

- Web Services-Management (WS-Man)
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)
- Redfish

 **メモ:** ポート接続の詳細については、[OMIMSSC アプライアンスのポート情報と通信マトリックス](#)、p. 16 を参照してください。

トピック :

- [OMIMSSC アーキテクチャの概要](#)
- [OMIMSSC の主要機能](#)
- [OMIMSSC アプライアンスの利点](#)
- [OMIMSSC と DSMPS の機能の比較](#)
- [OMIMSSC 7.2 の新機能](#)

OMIMSSC アーキテクチャの概要

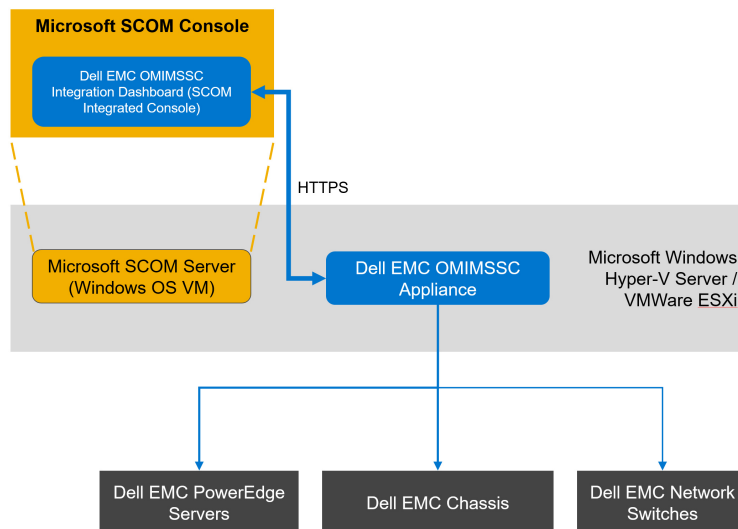


図 1. OMIMSSC アプライアンスのアーキテクチャ

OMIMSSC の主要機能

表 1. OMIMSSC の主要機能と説明

機能	説明
ライセンスセンター	Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルから OMIMSSC ライセンスを管理します。
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション(ライセンス対象)のモニタリング機能	<p>OpenManage Integration Dashboard を使用した次のサポート：</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下を介した、第 12 世代、第 13 世代、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、サポートされている Dell Precision ラックのライセンス ベースの検出およびモニタリング。Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーおよび Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェア モニタリング。 <ul style="list-style-type: none"> WS-MAN を使用した iDRAC ホスト オペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセス Windows Management Instrumentation(WMI)を使用した iSM 第 12 世代、第 13 世代、iDRAC9 ベース PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックの検出およびモニタリング。iDRAC を使用した Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーおよび Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェア モニタリング。 iSM を使用した第 12 世代、第 13 世代、および iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーの検出およびモニタリング。サポートされるサーバーの完全なリストについては、サポートサイトにある『iDRAC サービス モジュール インストール ガイド』の「対応プラットフォーム」を参照してください。

表 1. OMIMSSC の主要機能と説明 (続き)

機能	説明
	<ul style="list-style-type: none"> サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能の WS-Man を使用して検出されたデバイスの SNMP トラップ。
Dell EMC シャーシ モニタリング機能	<p>OpenManage Integration Dashboard を使用した次のサポート :</p> <ul style="list-style-type: none"> Dell EMC シャーシ、および Dell OEM Ready シャーシ デバイスの検出とモニタリング。 CMC シャーシのサーバーモジュールとシャーシスロットサマリの検出。 シャーシデバイス用の SNMP トラップ。
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能	<p>OpenManage Integration Dashboard を使用した次のサポート :</p> <ul style="list-style-type: none"> Dell EMC ネットワーク スイッチ デバイスの検出とモニタリング。 Dell EMC ネットワークスイッチデバイスの SNMP トラップ。
DRAC モニタリング機能	<p>次をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応 iDRAC デバイスの検出とモニタリング — 第 12 世代および第 13 世代のみ。 DRAC デバイスの SNMP および PET トラップ。 <p>DRAC モニタリング機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーでは廃止されています。デル・テクノロジーズでは、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーを監視するために、エージェントフリー Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) のモニタリング機能を使用することをお勧めします。</p>

OMIMSSC アプライアンスの利点

- OMIMSSC と SCOM コンソールを統合することによって、データセンターの動作をシンプルにします。
- PowerEdge サーバーのエージェントフリーのモニタリングアーキテクチャを使用します。
- 管理ダッシュボードを使用してデバイスのモニタリングを簡易化します。
- 運用コストを削減し、有効性を高めるとともに、管理者が付加価値のあるタスクを実行できるようにします。
- 管理グループでプロキシ管理サーバーを設定することによって、モニタリング機能による拡張を可能にします。
- VHD または OVA ファイル形式を使用して、Hyper-V または ESXi のどちらかに導入できます。

OMIMSSC と DSMPS の機能の比較

- 提示ソリューションの比較。**
 - OMIMSSC アプライアンスが提供するソリューション : OMIMSSC は、PowerEdge サーバー、PowerEdge シャーシ、ネットワークスイッチなど、Dell EMC デバイスのエージェントフリーモニタリングを行う SCOM と統合されています。
 - DSMPS が提供するソリューション : Dell EMC Server Management Pack Suite は、Dell EMC PowerEdge サーバーのためのエージェントベースのモニタリングソリューションを提供します。
- 検出機能とモニタリング機能の比較。**
 - OMIMSSC アプライアンスが行う検出およびモニタリング : 次のプラットフォームの iDRAC エージェントフリーの検出とモニタリングを行います。
 - サーバーおよびラック型ワークステーション
 - シャーシおよびモジュラー型システム
 - ネットワークスイッチ

- DSMPS が行う検出およびモニタリング：ソフトウェア ベースのエージェント (OMSA) または iSM を使用するサーバーおよびラック型ワークステーションの検出とモニタリングを行います (iSM ベースの検出の場合、iDRAC のライセンスはノードごとの iDRAC コンソールにインポートされます)。

i **メモ:** iSM ライセンス対象の検出は、このモニタリング機能に対応する DSMPS 管理パックを使用した SCOM のネイティブ検出と同じままです。

- **ライセンス対象機能の比較。**

- OMIMSSC アプライアンスのライセンス機能：OMIMSSC アプライアンスには、iDRAC エージェント フリーおよび iSM を使用する Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能のライセンスがあります。

i **メモ:** エージェント ベースのライセンス対象サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能(iSM WMI ベース) は、OMIMSSC アプライアンス コンソールから直接サポートされません。iSM ライセンス対象の検出は、このモニタリング機能に対応する DSMPS 管理パックを使用した SCOM のネイティブ検出と同じままです。

- DSMPS のライセンス機能：DSMPS には、iSM を使用する Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能のライセンスがあります。

- **ライセンス不要機能の比較。**

- OMIMSSC アプライアンスのライセンス不要機能：

- Dell EMC シャーシ モニタリング機能
- Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー モニタリング機能
- Dell EMC シャーシおよびモジュラー型サーバー関連機能
- Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能

- DSMPS のライセンス不要機能：

- OMSA (ライセンス不要) を使用した Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能
- Dell Remote Access Controller (DRAC) モニタリング機能

- **ライセンスタイプの比較**：OMIMSSC アプライアンスと DSMPS の両方のバージョンに、次のライセンスタイプがあります：

- 評価ライセンス - 最大 5 つのノードをサポートするライセンスの試用版。
- 製品ライセンス - モニタリング対象のノード数に基づいて Dell EMC から製品ライセンスを購入できます。SCOM の OMIMSSC で管理されます。

- **OMIMSSC と DSMPS でのプロキシ管理サーバー (今後は Dell EMC Alert Relay Server と呼ばれます) の必要性**

- OMIMSSC アプライアンスにはプロキシ管理サーバーが必要ですか？ - はい。詳細については、サポート サイトの『System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) による拡張性』テクニカル ホワイト ペーパーを参照してください。
- DSMPS にはプロキシ管理サーバーが必要ですか？ - 必要ありません。

- **サポートするノード数の比較。**

- OMIMSSC アプライアンスがサポートするノード数は、1,000 台のデバイス単位で 600 ノード以上です。プロキシ管理サーバーの構成の詳細については、サポート サイトの『System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) による拡張性』テクニカル ホワイト ペーパーを参照してください。
- DSMPS がサポートするノード数はデバイス 600 台までです。

DSMPS の詳細については、サポート サイトの『Dell EMC Server Management Pack Suite for Microsoft System Center—Operations Manager ユーザーズ ガイド』を参照してください。

OMIMSSC 7.2 の新機能

- VHD ファイルを使用して Hyper-V に OMIMSSC を導入するための既存のサポートに加え、OVA ファイルを使用して VMware ESXi バージョンに OMIMSSC 7.2 を導入できます。サポートされている ESXi バージョンの詳細については、[サポートマトリックス](#)、p. 18 を参照してください。
 - SCOM 2019 対応アップデート ロールアップ 1。
 - SCOM 2016 対応アップデート ロールアップ 8。
 - SCOM 2016 対応アップデート ロールアップ 9。
 - ゲートウェイ サーバーとともに SCOM が導入された環境、つまり、SCOM 管理サーバーとプロキシ管理サーバー、OMIMSSC、iDRAC が同じ管理ネットワークに属する環境のサポート。
 - 次の最新の iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーのサポート。
 - PowerEdge R6515
 - PowerEdge R6525
 - PowerEdge R7515
 - PowerEdge R7525
 - PowerEdge C6525
- iDRAC9 ベース PowerEdge サーバーの詳細については、「[iDRAC9 ベース PowerEdge サーバー](#)」を参照してください。

- サーバーおよびラック型ワークステーション（ライセンス対象）を使用した PowerEdge Xe2420 サーバーのハードウェア モニタリング（iDRAC エージェント フリー モニタリング）のサポート。
- OMIMSSC アプライアンスに関するデータのバックアップおよび復元のサポート。
- サービス パックのアップデート機能が強化され、事前に SCOM コンソール、アプライアンスのカーネル RPM、およびアプリケーション RPM にインポート済みの適切な Dell EMC 管理パックの自動アップデートをサポート。OMIMSSC は、オンライン リポジトリーを使用してアップデートできます。
- 中程度の重要度のセキュリティ修正 - NFS へのアクセスは登録済み SCOM サーバーのみに制限されています。旧バージョンで問題発生している場合は、最新バージョンへのアップグレードを推奨します。

OMIMSSC ライセンスの購入と管理

OMIMSSC の Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能はライセンスの対象です。ライセンスは、監視するノード数に応じて購入する必要があります。ノードとは、iDRAC IP (エージェント フリー、WS-Man を使用) または iSM (エージェント ベース、WMI を使用) を使用してモニタリングされるサーバーです。

トピック：


- OMIMSSC のライセンス タイプ
- OMIMSSC のライセンス対象機能
- OMIMSSC のライセンス不要機能
- OMIMSSC ライセンスの購入
- OMIMSSC ライセンスの使用状況の確認

OMIMSSC のライセンス タイプ

- 評価ライセンス - 最大5つのノードをサポートするライセンスの試用版。デフォルトでは、OMIMSSC アプライアンスには、最大5つのノードを検出してモニタリングできる評価ライセンスが付属しています。
- 本番ライセンス - OMIMSSC によってモニタリングするノード数に基づいて購入します。ライセンス購入の詳細については、[OMIMSSC ライセンスの購入](#)、p. 14 を参照してください。

OMIMSSC のライセンス対象機能

OMIMSSC アプライアンスには、iDRAC エージェント フリーと iSM を使用する Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能のライセンスがあります。

 **メモ:** iSM ライセンス対象検出は、OMIMSSC アプライアンス コンソールではサポートされていません。

OMIMSSC のライセンス不要機能

- Dell EMC シャーシ モニタリング機能
- Dell EMC シャーシ モジュール型サーバー モニタリング機能
- Dell EMC シャーシおよびモジュール型サーバー関連機能
- Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能

OMIMSSC ライセンスの購入

Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能を利用するには、デル・テクノロジーズから (管理対象ノードの必要数に応じて) ライセンスを購入する必要があります。ご注文の確認とライセンスが、[**マイ アカウント—Dell**] で指定した E メール アドレスに送信されます。購入したライセンスは、<https://www.dell.com/support/software/us/en/04> の Dell Digital Locker ポータルからもダウンロードできます。ライセンスをダウンロードできない場合は、<https://www.dell.com/support/incidents-online/in/en/inbsd1/ContactUs/Dynamic> にアクセスして、デル・テクノロジーズのカスタマーサポートに E メールを送信してください。

ライセンスは、製品エンドユーザー ライセンス契約 (EULA) と同じ条件で規定されています。更新された最新のライセンス条件は、[Dell.com/learn/us/en/uscorp1/terms?s=corp](https://www.dell.com/learn/us/en/uscorp1/terms?s=corp) にあります。詳細については、デル・テクノロジーズの営業およびサポートにお問い合わせください。

OMIMSSC ライセンスの使用状況の確認

SCOM の Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能によって管理される PowerEdge サーバーを表示するには、次のようにします。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** の順に展開します。

使用されているノード数がノードの**合計数**列に表示されます。

OMIMSSC アプライアンスのポート情報と通信マトリックス

OMIMSSC によって監視する必要のあるアプリケーションとデバイスを OMIMSSC アプライアンスに接続するには、OMIMSSC と SCOM 管理サーバーで特定のポート、プロトコル、および通信ネットワークが使用可能であり、有効になっていることを確認する必要があります。

表 2. OMIMSSC アプライアンスのポート情報

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
デバイスからの正常性、メトリック、インベントリ収集	443	TCP	出力	OMIMSSC アプライアンス	iDRAC、CMC、またはネットワークデバイス	WS-Man、Redfish、または SNMP を使用します。
SCOM への正常性またはメトリックのアップデート	5985 および 5986	TCP	出力	OMIMSSC アプライアンス	SCOM 管理サーバー	Windows イベントは、リモート PowerShell を使用して作成されます。 Dell EMC 管理パック ルールは、イベントを監視して SCOM DB をアップデートします。
SCOM へのインベントリまたは正常性のアップデート	111 および 2049	TCP および UDP	入力	SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	アプライアンスは NFS 共有を許可して、インベントリの詳細を管理パックに共有します。
DNS	53	TCP	出力	OMIMSSC アプライアンス	DNS Server (DNS サーバー)	アプライアンスの DNS 解決。
SCOM ビューからの GUI 操作	443	TCP	入力	SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	SCOM コンソールから起動された OMIMSSC ダッシュボードを使用した GUI 操作。

表 3. SCOM 管理サーバーのポート情報

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
SNMP トラップ	162	UDP	入力	iDRAC、CMC、ネットワークデバイス	すべての SCOM 管理サーバーおよびプロキシ管理サーバー	OMIMSSC は、デバイス全体をすべてのプロキシ管理サーバーに分散させます。 プロキシ MS はアラートを受信し、Windows イベントに変換します。
SCOM への正常性またはメトリックのアップデート	5985 および 5986	TCP	入力	OMIMSSC アプライアンス	すべての SCOM 管理サーバー	PowerShell コマンドはアプライアンスから開始されます。
SCOM へのインベントリまたは正常性のアップデート	111 および 2049	TCP および UDP	出力	すべての SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	アプライアンスは NFS 共有を許可して、インベントリの詳細を管理パックに共有します。

表 3. SCOM 管理サーバーのポート情報 (続き)

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
GUI 操作	443	TCP	出力	すべての SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	SCOM コンソールから起動された OMIMSSC ダッシュボードを使用した GUI 操作。

表 4. Dell EMC デバイスのポート情報 (iDRAC、CMC、OME-Modular、ネットワークスイッチ)

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
SNMP トラップ	162	UDP	出力	iDRAC、CMC、またはネットワークデバイス	プロキシ管理サーバーまたは管理サーバー	OMIMSSC は、デバイス全体をすべてのプロキシ管理サーバーに分散させます。 プロキシ管理サーバーはアラートを受信し、Windows イベントに変換します。
デバイスからの正常性、メトリック、またはインベントリー収集	443	TCP	入力	OMIMSSC アプライアンス	iDRAC、CMC、またはネットワークデバイス	WS-Man、Redfish、または SNMP を使用します。

サポートマトリックス

OMIMSSC アプライアンスを導入して設定する前に、次のソフトウェアとハードウェアの要件が満たされていることを確認します。

表 5. サポートマトリックス

対応ソフトウェアおよびハードウェア	要件とバージョン
Microsoft System Center—Operations Manager (SCOM)	<p>次の SCOM ビルド番号のいずれかが、管理サーバーにすでにインストールされている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SCOM 1807 ● SCOM 1801 ● SCOM 2012 R2 ● SCOM 2016 ● SCOM 2019 <p>i メモ: Windows Server 2016 オペレーティングシステムの Nano Server バージョンを実行しているシステムでは、Microsoft サポート技術情報 KB3190029 に記載されている <i>Microsoft System Center 2016 - Operations Manager 用アップデート ロールアップ1</i> を適用します。詳細については、https://support.microsoft.com/en-us/help/3190029/update-rollup-1 を参照してください。</p> <p>Microsoft のガイドラインに従って、以前のバージョンから SCOM の最新バージョンにアップグレードすることができます。サポートされているアップグレードシナリオの詳細については、Microsoft System Center のマニュアルを参照してください。</p>
Microsoft Hyper-V マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows Server 2019 上 : Microsoft Corporation Version : 10.0.17763.1 ● Windows Server 2016 上 : Microsoft Corporation Version : 10.0.14393.0 ● Windows Server 2012 R2 上 : Microsoft Corporation Version : 6.3.9600.16384
VMware ESXi	6.5、6.7、または 7.0
ブラウザ	<p>OMIMSSC 管理ポータルを起動するには、次のブラウザのいずれかを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Microsoft Internet Explorer 11 以降 ● Mozilla Firefox 30 以降 ● Google Chrome 23 以降 ● Microsoft Edge
SCOM コンソールを使用して管理サーバーに OMIMSSC を導入するための Windows の要件	<ul style="list-style-type: none"> ● 次の Windows ファイアウォールルールを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ○ SCOM SNMP Response ○ SCOM SNMP トラップ リスナー ○ SCOM Ping 応答 ● Windows PowerShell 3.0 以降 (システムで Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムを実行している場合)。
OMIMSSC アプライアンス用 RAM	最小サイズ : 8 GB
OMIMSSC アプライアンス用のプロセッサ コア	4
OMIMSSC アプライアンス VM が導入されているシステム上のハードドライブ。	最小サイズ : 40 GB

表 5. サポートマトリックス (続き)

対応ソフトウェアおよびハードウェア	要件とバージョン	
OMIMMSC の機能		
管理サーバー (MS) の要件	-	
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> SCOM 2019 については、https://www.docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/?view=sc-om-2019 を参照してください。 SCOM 2016 については、https://www.docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/?view=sc-om-2016 を参照してください。 SCOM 2012 R2 については、https://docs.microsoft.com/en-us/previous-versions/system-center/system-center-2012-R2/hh546785(v=sc.12) を参照してください。 シャーシの詳細と拡張可能エディションは、SCOM 2019、SCOM 2016、SCOM 2012 R2 でのみサポートされています。	
管理下システム要件	-	
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)	Lifecycle Controller 搭載の iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー	ファームウェア バージョン 4.20.20.20 以前のバージョン
	Lifecycle Controller 搭載の iDRAC8 ベースの PowerEdge 第 13 世代サーバー	ファームウェア バージョン 2.xx.xx.xx
	iDRAC7 ベースの PowerEdge 第 12 世代サーバー	ファームウェア バージョン 1.6x.6x および 2.xx.xx.xx
iDRAC サービス モジュール (iSM) のモニタリング機能	iDRAC9 ベースおよび第 13 世代 PowerEdge サーバー用 iSM	3.5.1 および 3.4.0
Dell EMC シャーシ モニタリング機能	Dell EMC PowerEdge FX2/FX2s	ファームウェア バージョン 2.21 および 2.20
	Dell EMC PowerEdge VRTX	ファームウェア バージョン 3.21 および 3.20
	Dell EMC PowerEdge M1000e	ファームウェア バージョン 6.21 および 6.20
OpenManage Enterprise - Modular モニタリング機能	Dell EMC PowerEdge MX7000	ファームウェア バージョン 1.10.20 および 1.10.10
DRAC モニタリング機能	Lifecycle Controller 搭載 iDRAC8 モジュラー型およびモノリス型	ファームウェア バージョン 2.xx.xx.xx
	iDRAC7 モジュラー型およびモノリス型	ファームウェア バージョン 2.xx.xx.xx および 1.6x.6x
	iDRAC6 モノリス型	ファームウェア バージョン 2.92 および 2.85
	iDRAC6 モジュラー型	ファームウェア バージョン 3.80 および 3.65
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能	N Series のネットワーク スイッチ	ファームウェア バージョン 6.6.xx.xx および 6.5.xx.xx
	M、S、および Z Series のネットワーク スイッチ	ファームウェア バージョン 9.14.xx.xx および 9.13.xx.xx

シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能

シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能は、シャーシ スロットのモジュラー型ブレードとの関連に使用されます。モジュラー型ブレードは、サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能、またはサーバーおよびラック型ワークステーションのモニ

タリング (ライセンス対象) 機能を使用して検出することができます。サポートされている Dell EMC シャーシ、iDRAC、iSM、および OMSA バージョンについては、それぞれの対応するファームウェア バージョンのセクションを参照してください。

メモ: OMIMSSC でプロキシ管理サーバーを使用する場合は、サポート サイトの『System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) による拡張性』テクニカル ホワイト ペーパーを参照してください。また、www.docs.microsoft.com も参照してください。

メモ: OMIMSSC は、グループ内のいずれかの管理サーバーの登録を通じて、1つの管理グループの登録をサポートします。

メモ: ゲートウェイ サーバーの場合、デバイスを検出するには、OMIMSSC アプライアンスから iDRAC にアクセスできる必要があります。

トピック :

- [OMIMSSC を使用するために必要なユーザー役割](#)

OMIMSSC を使用するために必要なユーザー役割

- Windows 認定資格プロフィール ユーザー アカウントを作成します。
- ユーザーは次のメンバーである必要があります。
 - ドメイン ユーザー グループ。
 - 管理サーバーおよびプロキシ管理サーバー上のローカル管理者グループ。
 - SCOM 管理グループ。

OMIMSSC アプライアンスの導入と設定

データセンター内の Dell EMC デバイスやその他のモニタリングアプリケーションを監視するために、OMIMSSC アプライアンスと統合することで、Microsoft System Center—Operations Manager (SCOM) を共通のインターフェイスとして使用することができます。管理者は、OMIMSSC を導入して設定した後、関連付けられている管理サーバーを登録する必要があります。

OMIMSSC アプライアンスの導入プロセスの概要：

- Hyper-V または ESXi に OMIMSSC を導入します。
- OMIMSSC コマンドライン インタフェース (CLI) を使用して、管理者として初めてログインします。
- 初回ログインの後に、OMIMSSC VM を設定します。
- Dell EMC OMIMSSC Configuration Management Pack を手動でダウンロードしてインポートします。
- OMIMSSC を使用して管理サーバーを登録します。

- メモ:** OMIMSSC を使用して管理サーバーを正常に登録して、管理パックをインストールするには、次の手順を実行します。
- OMIMSSC の導入時に、VM でゲスト時間とホスト オプションの同期が有効になっていることを確認します。
 - OMIMSSC VM ネットワークの設定中に、IPv4 構成で固定 IP アドレスを割り当てる場合は、IP アドレスを入力して変更を保存します。CLI で [ネットワークの設定] オプションを再度開いて、ホスト名を変更します。[OMIMSSC VM のネットワーク設定](#)、p. 24 を参照してください。

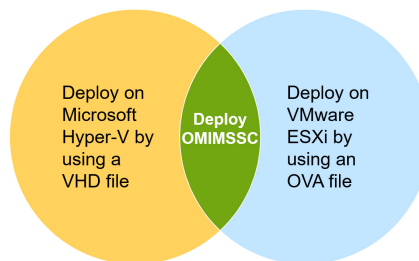


図 2. OMIMSSC の導入

デル・テクノロジーズでは、OMIMSSC の導入を開始する前に、次を読んでおくことを推奨しています。

- このガイドの「サポート マトリックス」セクション。サポートされているハードウェアとソフトウェアの要件を確認してください。
- サポート サイトで入手可能な最新の OMIMSSC リリース ノート。OMIMSSC の新機能、制限事項、既知の問題に関する情報を確認してください。

トピック：

- [サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード](#)
- [Hyper-V または ESXi に OMIMSSC を導入する前に](#)
- [Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定](#)
- [ESXi での OMIMSSC の導入と設定](#)
- [OMIMSSC アプライアンスの設定](#)

サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード

1. デル・テクノロジーのサポート サイトから OMIMSSC の ZIP ファイルをダウンロードします。

メモ: ライセンス キーをダウンロードできない場合は、www.dell.com/support/softwarecontacts にアクセスして、デル・テクノロジーのサポートに問い合わせてください。製品について、地域のデル・テクノロジーのサポート 電話番号を探します。

2. VHD または OVA ファイルを解凍して、OMIMSSC アプライアンスをセットアップします。

メモ: VHD ファイルを解凍する前に、OMIMSSC アプライアンスを導入するシステムに 60 GB 以上のディスク空き容量を確保するようにしてください。

Hyper-V または ESXi に OMIMSSC を導入する前に

Hyper-V または ESXi のいずれかによる方法を使用して OMIMSSC を導入する前に、次のことを確認するようにしてください。

- 仮想スイッチまたは VM ネットワークが管理グループのネットワーク内で有効になっており、OMIMSSC アプライアンスおよび管理サーバーと通信できる。
- Hyper-V と ESXi ホストのいずれかの VM で推奨されるメモリー容量がある。サポートマトリックス、p. 18 を参照してください。

OMIMSSC アプライアンスの導入は、次の方法のいずれかで行います。

- Hyper-V を使用している場合は、VHD ファイルを使用して VM を導入します。Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定、p. 22 を参照してください。
- VMware ESXi を使用している場合は、OVA ファイルを使用して VM を導入します。ESXi での OMIMSSC の導入と設定、p. 23 を参照してください。

NTP サーバーをセットアップして、Hyper-V ホストまたは ESXi ホストと SCOM 管理サーバーの間で時刻を同期させることができます。

Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定

Hyper-V Manager UI を使用して、Hyper-V に OMIMSSC を導入することができます。

前提条件：

- ソフトウェアとハードウェアの要件が満たされており、必要なユーザーの役割が設定されていることを確認します。サポートマトリックス、p. 18 を参照してください。
- 必要な OMIMSSC ZIP ファイルがサポート サイトからダウンロードされ、VHD ファイルが導入用に抽出されます。サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード、p. 22 を参照してください。
- Hyper-V または ESXi に OMIMSSC を導入する前に、p. 22 のガイドラインに従っていることを確認します。

OMIMSSC を Hyper-V に導入するには、次の手順を実行します。

1. Hyper-V Manager で、アクションメニューから新規 > 仮想マシンの順にクリックします。
仮想マシンの新規作成ウィザードが表示されます。
 - a. 始める前にセクションで、手順を読み、次へをクリックします。
 - b. 名前と場所の指定セクションで、VM の名前を入力し、次へをクリックします。
VM を別の場所に保存する場合は、仮想マシンを別の場所に格納するチェック ボックスを選択します。参照をクリックし、新しい場所を選択します。
 - c. 世代の指定セクションで、第 1 世代を選択してから、次へをクリックします。
 - d. メモリーの割り当てセクションで、新しく作成された VM のディスク領域を割り当てます。例えば、8,192 MB。サポートマトリックス、p. 18 を参照してください。
 - e. ネットワークの設定セクションで、接続ドロップダウン メニューから、新しい VM に使用するネットワークを選択します。
 - f. 次へをクリックします。
 - g. 仮想ハード ディスクの接続セクションで、既存の仮想ハード ディスクを使用するを選択します。
 - h. OMIMSSC VHD ファイルが保存されている場所を参照し、ファイルを選択します。
 - i. サマリーセクションで、入力したデータを確認し、終了をクリックします。
2. 仮想プロセッサの数の値を 4 に設定します。デフォルトでは、プロセッサの数が 1 に設定されています。プロセッサ数を設定するには次のようにします。
 - a. VM のリストで、OMIMSSC を右クリックしてから設定を選択します。

- b. **設定** ダイアログ ボックスの左ペインで、**プロセッサ** を選択します。
 - c. **仮想プロセッサ数** ボックスで、4 を入力または選択します。
 - d. **OK** をクリックします。
3. Hyper-V でホストされている VM で**時刻同期オプション**を有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. Hyper-V 上にホストされている VM を選択します。
 - b. VM を右クリックして、**設定** を選択します。
 - c. **管理 > 統合サービス > 時刻同期**の順にクリックします。
Hyper-V および SCOM 管理サーバーの時間が同期されます。

OMIMSSC アプライアンスが Hyper-V でホストされていることの確認

OMIMSSC を Hyper-V に導入した後、必要な構成で OMIMSSC が Hyper-V でホストされていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC アプライアンス VM を右クリックし、**設定** をクリックします。
2. メモリ スペースとプロセッサ数が推奨どおりであることを確認します。[サポートマトリックス](#)、p.18 を参照してください。
 - a. 要件を満たしていない場合、スタートアップ RAM にメモリーを増設し、**適用** をクリックします。
3. プロセッサ数が推奨どおりであることを確認します。
 - a. 要件を満たしていない場合は、**プロセッサ数の仮想プロセッサ数**にプロセッサ数を指定します。
4. **IDE コントローラー: IDE コントローラー 0** > **ハード ドライブ**の順にクリックして、**仮想ハードディスクフィールド**が OMIMSSC ファイルを示していることを確認します。
 - a. 示していない場合は、**参照** をクリックして、OMIMSSC の抽出されたファイルを選択します。
 - b. **適用** をクリックします。
5. 仮想スイッチが物理 NIC に接続されていることを確認します。
 - a. 接続されていない場合は、NIC を構成し、**仮想スイッチドロップダウン** メニューから適切な NIC を選択します。
 - b. **適用** をクリックします。
6. **Hyper-V マネージャー**メニューで、アプライアンス VM を右クリックし、次の手順を実行します。
 - a. **接続** をクリックし、**起動** をクリックします。
選択されたアプライアンスの VD で新たに作成された VM がカーネル パニック例外で起動しない場合は、VM の設定を編集します。VM の動的メモリー オプションを有効にします。

ESXi での OMIMSSC の導入と設定

ESXi を使用して OMIMSSC を導入する前に、圧縮された ZIP ファイルからローカル ドライブに OVA ファイルが解凍されていることを確認します。OMIMSSC を ESXi に導入するには、次の手順を実行します。

1. IP アドレスを使用して ESXi を起動します。
VMware ESXI のログインページが表示されます。
2. ユーザー名とパスワードを入力して、**ログイン** をクリックします。
3. 左ペインで、**仮想マシン** を選択します。
4. 仮想マシンを作成するには、**VM の作成/登録** を選択します。
仮想マシンの新規作成ウィザードが表示されます。
 - a. **作成タイプの選択**で **OVF** または **OVA** ファイルから**仮想マシンを導入**を選択します。
 - b. **次へ** をクリックします。
 - c. **OVF および VMDK ファイルを選択**セクションで、作成する仮想マシンの名前を入力します。
 - d. **ファイルをクリックして選択**または**ドラッグ/ドロップ**をクリックします。
 - e. **OMIMSSC_xx.ova** ファイルをダブルクリックします。OVA 管理パックがインストール プロセスにアップロードされます。
 - f. **次へ** をクリックします。
 - g. **ストレージの選択**セクションで、設定ファイルと VD ファイルを保存するストレージまたはデータストアを選択します。
 - h. **次へ** をクリックします。
 - i. **導入オプション**セクションで、必要なネットワーク マッピングを選択します。
 - デフォルトでは、ディスク プロビジョニング機能はシンとして選択されています。
 - 仮想マシンの電源を自動的にオンにするオプションが有効になります。
 - j. **次へ** をクリックします。
 - k. **終了準備完了**セクションで、指定した設定を確認し、**終了** をクリックします。

仮想マシンの作成プロセスが開始されます。**最近のタスク**ペインでステータスを確認できます。

5. ESXi でホストされている VM の [**ゲスト時刻とホストを同期**] オプションを有効にします。
 - a. 仮想マシンを選択して、**編集オプション**をクリックします。
 - b. **VM オプション**を選択します。
 - c. **VMware ツール > 時刻 > ゲスト時刻をホストと同期**の順に選択します。

OMIMSSC アプライアンスの設定

OMIMSSC アプライアンスを導入した後、初めて OMIMSSC に管理者としてログインするときには、次の手順を実行します。

1. VM のリストで、**OMIMSSC** を右クリックしてから**接続**を選択します。
デフォルトでは、VM は電源オフ モードです。
2. メニューバーで**起動記号**をクリックします。
3. ログインを試行する前に、すべてのサービスが開始されるまで5分間待ちます。
4. CLI で、次のように入力します。
 - localhost login=**admin**
 - Enter new Admin password=**安全で強力なパスワード**を入力します。
 - Please confirm new Admin password=**同じパスワード**を再度入力します。

メモ: デル・テクノロジーズでは、アプライアンス管理者ユーザーおよび OMIMSSC ダッシュボードのログイン ページを認証するために強力なパスワードを設定して使用することをお勧めします。
5. Enter を押します。
コマンドライン インターフェイス (CLI) が表示されます。

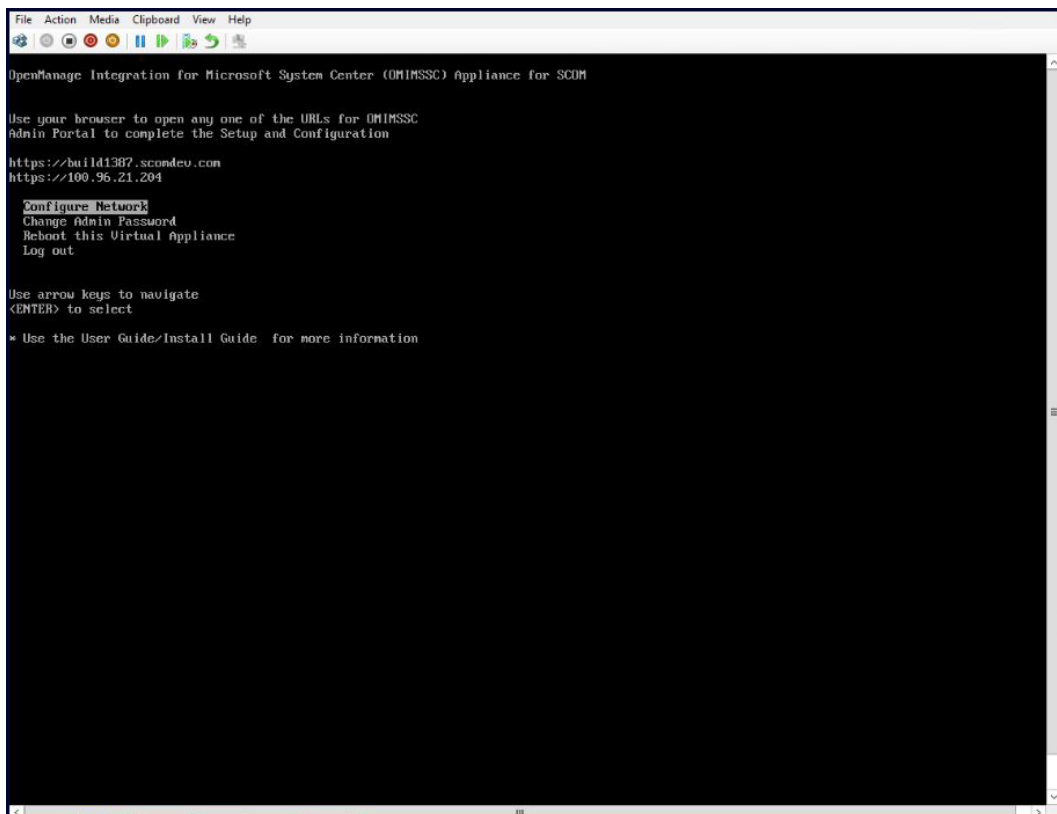


図 3. OMIMSSC コマンドライン インターフェイス

OMIMSSC VM のネットワーク設定

OMIMSSC に最初にログインした後に、SCOM 管理サーバーを使用して OMIMSSC ネットワーク設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. CLI で、**ネットワークの設定**を選択し、Enter を押します。
2. [**ネットワーク マネージャー**] セクションで、次の操作を実行します。
 - a. **接続の編集**を選択し、Enter を押します。
 - i. Ethernet 接続 - eth0 を選択し、**編集**を選択します。
 - ii. Enter を押します。
 - b. IPv4 アドレスを入力するには、**IPv4 設定**を選択し、次のいずれかを選択します。
 - 自動割り当て：デフォルトでは、**自動**が選択され、DHCP で割り当てられた IPv4 アドレスが自動的に入力されます。
 - 手動割り当て：オプションを**手動**に変更し、静的な IPv4 アドレスを入力します。Enter を押します。
 - c. DNS サーバーで DNS の IP アドレスを入力し、Enter を押します。
 - d. **戻る**を選択して CLI に戻り、**ネットワークの設定**を選択して、Enter を押します。
 - e. **システムホスト名の設定**を選択して ENTER を押します。
 - f. **ホスト名**ボックスに、ホストシステムの FQDN を入力し、**OK** を押します。
たとえば、**HostName.DomainName.com** などです。
 - g. 確認を求めるプロンプトが表示されたら、**Enter** を押します。
3. CLI から、新しく導入した OMIMSSC アプライアンスの管理ポータル URL を書き留めます。
 - i **メモ**: SCOM 管理サーバーに OMIMSSC アプライアンスからアクセスできることを確認してください。[OMIMSSC アプライアンスのポート情報と通信マトリックス](#)、p. 16 を参照してください。
 - i **メモ**: ホスト名：
 - 英数字 (a~z と 0~9)、ハイフン (-)、ピリオド (.) を使用できます。
 - 先頭にハイフンまたはピリオドを使用することはできません。
 - アンダースコア (_) などの他の特殊文字を含めることはできません。
 - i **メモ**: **デバイス構成**オプションを選択すると、OMIMSSC の IP アドレスを変更できます。これ以降、アプライアンスのホスト名は変更しないでください。
4. **終了**を選択して、Enter を押します。

デバイス管理のための OMIMSSC および SCOM インターフェイス

OMIMSSC アプライアンスの場合は、実行するデバイス管理タスクのタイプに基づいて、以下でモニタリング操作を実行する必要があります。

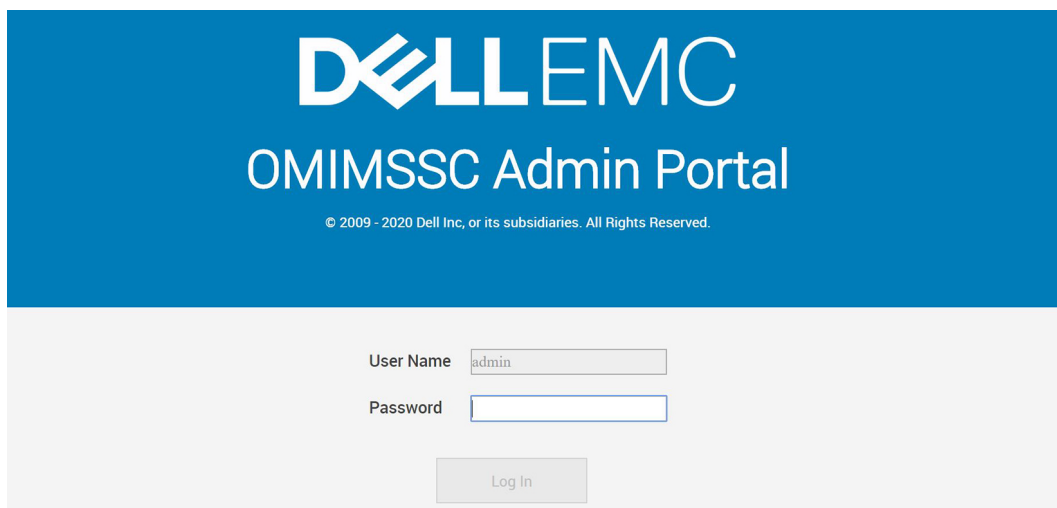
- **OMIMSSC 管理ポータル** - サポートされている Web ブラウザーを介してアクセスする管理ポータルでは、管理者としてログインして、さまざまなユーザーによって Dell EMC OMIMSSC で開始されたすべてのジョブを表示したり、ライセンスの詳細およびコンソールの詳細を表示したりすることができます。また、SCOM コンソールの OMIMSSC への登録や、Dell EMC OMIMSSC のアップグレードを実行することもできます。
- **SCOM コンソール** - SCOM コンソールは、コンソールで検出されたオブジェクトを表示するための Dell EMC 状態ビュー、ダイアグラム ビュー、パフォーマンス メトリック ビューを提供します。
- **Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** - SCOM コンソール内にビューとして表示されます。このページは、Dell EMC デバイスの検出、モニタリング、およびパフォーマンス モニタリングに使用します。たとえば、SCOM コンソールからの OpenManage Integration Dashboard の起動、Dell EMC デバイス (WS-Man を使用した PowerEdge サーバー、ラック型ワークステーション、シャーシ、ネットワーク スイッチ) の検出、認定資格プロフィールの管理、ジョブの管理などに関連するタスクです。


トピック：

- [OMIMSSC 管理ポータルへのログイン](#)

OMIMSSC 管理ポータルへのログイン

1. サポートされているブラウザを起動して、OMIMSSC の IP アドレスを入力します。
OMIMSSC の IP アドレスまたは URL の詳細を知るには、[OMIMSSC VM のネットワーク設定](#)、p. 24 を参照してください。
2. OMIMSSC 管理ポータルの [ログイン](#) ページで、管理者パスワードを入力します。
管理者パスワードは、OMIMSSC アプライアンスの構成時に設定します。[OMIMSSC アプライアンスの設定](#)、p. 24 を参照してください。




OMIMSSC Admin Portal
© 2009 - 2020 Dell Inc, or its subsidiaries. All Rights Reserved.

User Name
 Password

図 4. OMIMSSC 管理ポータル - ログイン ページ

3. [ログイン](#) をクリックします。
OpenManage Integration for Microsoft System Center - 管理ポータル ページが表示されます。

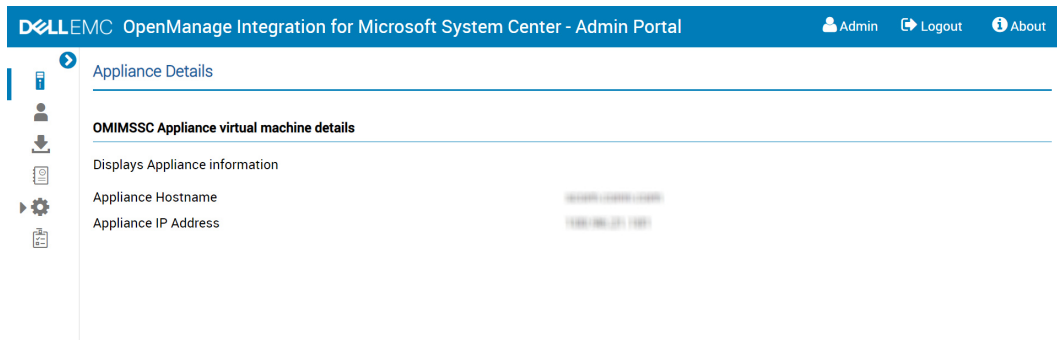


図 5. OMIMSSC 管理ポータル

OMIMSSC への管理サーバーの登録

OMIMSSC にログインして、SCOM 管理サーバーでネットワークのプロパティを設定した後、OMIMSSC アプライアンスで管理グループに管理サーバーを登録するには、次の手順を実行します。

- SCOM コンソールで、管理サーバーに OMIMSSC 構成管理パックをダウンロードします。
- OMIMSSC 構成管理パックを SCOM に手動でインポートしてインストールします。
- OMIMSSC を使用して管理サーバーを登録します。

トピック：

- [Dell EMC OMIMSSC Configuration Management Pack のダウンロード](#)
- [SCOM での OMIMSSC 構成管理パックの手動インポートと手動インストール](#)
- [OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録](#)

Dell EMC OMIMSSC Configuration Management Pack のダウンロード

1. OMIMSSC アプライアンスを登録するために使用する SCOM がインストールされているシステムで、Web ブラウザーを起動します。
2. OMIMSSC に最初にログインした後に取得した OMIMSSC 管理ポータル URL を入力します。[OMIMSSC アプライアンスの設定](#)、p. 24 を参照してください。
3. OMIMSSC ログイン ページで、正しいパスワードを入力してデフォルトの管理者としてログインします。
4. 左ペインを展開し、**ダウンロード**を選択します。
5. 作業中のペインで、OMIMSSC Configuration Management Pack の下で、**MP のダウンロード**を選択します。
6. これらの構成管理パックをダウンロードして、既知の場所に保存します。
これらの管理パックは、SCOM にインポートし、その後で管理サーバーを OMIMSSC アプライアンスに登録するために必要です。

SCOM での OMIMSSC 構成管理パックの手動インポートと手動インストール

管理サーバーを OMIMSSC に登録するには、まず次のように、構成管理パックを SCOM コンソールにインポートしてインストールする必要があります。

1. SCOM がインストールされているシステムに OMIMSSC 構成管理パックをダウンロードします。詳細については、[Dell EMC OMIMSSC Configuration Management Pack のダウンロード](#)、p. 28 を参照してください。
2. SCOM コンソールを起動します。
3. 左側のペインで、**管理 > 管理パック > インストール済み管理パック**をクリックします。
SCOM にインストールされているすべての管理パックのリストが表示されます。
4. OMIMSSC 管理パックをインポートするタスクを実行するには、[**タスク**] ペインで**管理パックのインポート**をクリックします。
[**管理パックのインポート**] ウィザードが表示されます。
5. **追加リストでディスクから追加**を選択します。
 - a. 不足している管理パックのオンライン カタログの検索を求められた場合は、適切にクリックします。
6. ダウンロードした管理パック ファイルをダブルクリックします。
7. *Dell.EMC.OMIMSSC.Configuration.mp* ファイルを選択して、**インストール**をクリックします。
選択した管理パック ファイルがインポート (ダウンロード) され、SCOM に展開されます。構成管理パックをダウンロードして SCOM コンソールにインポートすると、管理サーバーを OMIMSSC アプライアンスに登録することができます。管理パックは、SCOM が構成されている管理サーバー上で次のアクションを実行します。

- NFS クライアントを有効にします。
- リモート PowerShell を有効にします。
- WinRM ルールをファイアウォールに追加します。
- WinRM クライアントおよびサーバーの認証を有効にします。

8. 閉じる をクリックします。

ダウンロードした設定管理パックが、インストール済み管理パックリストに表示されるようになりました。

メモ: Windows のイベント ビューアーで、**Windows ログ > アプリケーション**の下にイベント ID 71 の情報イベントが生成されます。このイベントには、管理サーバーで設定される前提条件に関する情報が入っています。

OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録

前提条件：

登録する前に、以下のものがあることを確認してください。

- ダウンロードされた Dell EMC OMIMSSC 構成管理パック。Dell EMC OMIMSSC Configuration Management Pack のダウンロード、p. 28 を参照してください。
- SCOM コンソールに手動でインポートおよびインストールされた構成管理パック。SCOM での OMIMSSC 構成管理パックの手動インポートと手動インストール、p. 28 を参照してください。

SCOM コンソールを使用して Dell EMC デバイスを管理および監視するには、最初に、管理グループの All Management Server Resource Pool (AMSRP) にある管理サーバーを OMIMSSC に登録する必要があります。管理サーバーを OMIMSSC に登録するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザーで、OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスを入力し、OMIMSSC 管理者ユーザーとしてログインします。
2. 左ペインで、**設定 > コンソール登録**をクリックします。
3. 作業ペインで、**登録**をクリックします。
4. **Microsoft System Center Operations Manager** コンソールの**登録**ダイアログ ボックスで、次の操作を行います。
 - a. OMIMSSC アプライアンスに登録する (関連付ける) SCOM コンソール名を入力します。
 - b. **名前と説明**ボックスに、コンソールの名前と説明を入力します。
 - c. **サーバー FQDN** ボックスに、任意の管理サーバーの FQDN を入力します。
 - d. **認証情報**ドロップダウン メニューから、Windows 認定資格プロファイルを選択します。
認定資格プロファイルを作成するには、[OMIMSSC に SCOM コンソールを登録するための Windows 認定資格プロファイルの作成](#)、p. 34 を参照してください。
 - e. OMIMSSC と SCOM の間の接続を確認するには、**テスト接続**をクリックします。
しばらく待ちます。正常に接続されると、次のメッセージが表示されます。Test connection is successful.
5. **登録** をクリックします。

SCOM コンソールを使用した管理サーバーは、OMIMSSC アプライアンスに正常に登録され、[**コンソール登録**] ページに一覧表示されます。

- しばらく待ちます。すべての OMIMSSC (関連する管理パック) が SCOM コンソールにインポートされるまで、10~15 分かかる場合があります。イベント ID 71 が生成されます。構成の変更の詳細については、OMIMSSC ログを参照してください。
- 登録時または登録後の問題をトラブルシューティングするには、ユーザーズ ガイドの[トラブルシューティング](#)、p. 68 のセクションを参照してください。
- SCOM 管理グループがカスタム リソース プールで構成されている場合は、カスタム リソース プールに属している MS でプロキシ MS をホストするようにしてください。

管理グループ内に複数の管理サーバーがある場合は、このプロセスによってその管理グループ内のすべての管理サーバーが登録されます。管理サーバーが管理グループに追加または削除されている場合は、OMIMSSC データを SCOM コンソールと同期します。

[OMIMSSC に登録されている SCOM コンソールに関するデータの表示と更新](#)、p. 30 を参照してください。

Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードのリンクは、SCOM コンソールの **モニタリング > Dell EMC > Dell EMC OpenManage Integration** ビューペインの下に表示されます。これで、Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードまたは SCOM コンソールを使用して、デバイスの検出とモニタリングを開始できるようになりました。

警告: 別の OMIMSSC アプライアンスにコンソール (管理グループ) を登録する前に、現在のアプライアンスからそれらを登録解除してください。Dell EMC ビュー内のデバイスがクリアされ、管理パックが SCOM コンソールから削除されるまで待ってから、操作を再試行します。この操作にかかる時間は、デバイスの数と選択されたモードによって異なる場合があります。

OMIMSSC 管理ポータルで実行できるタスク

トピック：

- OMIMSSC アプライアンスの現在のバージョン、ホスト名、IP アドレスの表示
- OMIMSSC 管理ポータルを使用した登録済み管理サーバーのログイン認証情報のアップデート
- OMIMSSC に登録されている SCOM コンソールに関するデータの表示と更新
- OMIMSSC デバッグ ログの表示

OMIMSSC アプライアンスの現在のバージョン、ホスト名、IP アドレスの表示

1. 管理者として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. OMIMSSC アプライアンスのバージョンを表示するには、右上隅のバージョン情報をクリックします。OMIMSSC アプライアンスの導入したビルドとバージョンが表示されます。
3. 管理ポータルで左ペインを展開し、アプライアンスの詳細をクリックします。アプライアンスのホスト名と IP アドレスが作業中のペインに表示されます。

OMIMSSC 管理ポータルを使用した登録済み管理サーバーのログイン認証情報のアップデート

OMIMSSC 管理ポータルから SCOM 管理者の認証情報を変更することができます。SCOM アカウントを使用している場合は、OMIMSSC でアカウントを変更する前に、Active Directory (AD) で認証情報を変更してください。

OMIMSSC 管理ポータルに登録されている管理サーバーに使用する認証情報を変更するには、次の手順を実行します。

1. 管理者として、OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. 左ペインを展開し、設定を選択します。
3. コンソール登録をクリックします。登録済みコンソールが表示されます。
4. 編集するコンソールを選択して、編集をクリックします。
5. **Microsoft System Center Center Operations Manager** コンソールの登録ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a. パスワードを入力します。
 - b. テスト接続をクリックして、SCOM コンソールと OMIMSSC の間の接続をテストします。
 - c. 終了をクリックします。

OMIMSSC に登録されている SCOM コンソールに関するデータの表示と更新

OMIMSSC に登録されているコンソールをすべて効果的に管理するために、OMIMSSC 管理ポータルを使用して、コンソールに関するデータを表示して更新することができます。次の手順に従って、データを表示して更新します。

1. 管理ポータルで、設定をクリックします。
2. コンソール登録をクリックします。登録されているすべてのコンソールが表示されます。
3. 登録されているコンソールの最新のリストを表示するには、更新をクリックします。

OMIMSSC デバッグ ログの表示

1. 管理者として、OMIMSC 管理ポータルにログインします。
2. 左ペインを展開し、**設定**を選択します。
3. **ジョブとログセンター** > **アプライアンス ログ** > **汎用ログ**をクリックします。

ログ ファイルは別のウィンドウで表示されます。

SCOM コンソールからの OMIMSSC の管理


OMIMSSC アプライアンスの主な機能は、SCOM コンソールを単一の共通インターフェイスとして使用することで、デバイスをモニタリングおよび管理できるようにすることです。SCOM コンソールを使用してデバイスを管理するには、OMIMSSC から SCOM コンソールに特定の管理パックをインポートして導入する必要があります。


トピック：

- OMIMSSC バージョン 7.1.1 から SCOM コンソールに機能管理パックをインポートして導入する
- SCOM コンソールを使用した OMIMSSC の起動
- OMIMSSC の認定資格プロフィール
- SCOM コンソールでのタスクの実行
- デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド

OMIMSSC バージョン 7.1.1 から SCOM コンソールに機能管理パックをインポートして導入する

前提条件：

 **メモ:** サービス パックのアップデートを適用済みであることを確認します。

 **注意:** SCOM 1801、1807、または 2019 のビルド番号を使用している場合は、このトピックの次の手順を実行して **Feature Management Pack** をアップデートし、サービス パック アップデート機能を使用して **OMIMSSC** をバージョン 7.1 から 7.1.1 にアップグレードします。

SCOM コンソールを使用して、デバイスのモニタリングと管理のための OMIMSSC 機能を管理することができます。SCOM コンソールで OMIMSSC を使用するには、次の手順を実行して、Feature Management Pack をインポートしてインストールします。

1. FTP ツールを使用してアプライアンスのファイル システムに接続します。たとえば、WinSCP を起動し、アプライアンスの IP アドレスと読み取り専用のユーザー資格情報を入力します。
 - Username=**readonly**
 - Password=OMIMSSC 管理者のパスワード
2. 次のフォルダーの場所にあるアプライアンス ディレクトリーを参照します。/usr/share/webapps/spectre/Spectre/WEB-INF/classes/com/dell/tejas/ig/ps/command/DellManagementPacks
3. *Dell.FeatureManagement.Pack.mp* ファイルをローカル フォルダにコピーします。
4. *Dell.FeatureManagement.Pack.mp* ファイルを右クリックし、**ダウンロード**を選択します。
5. SCOM コンソールで、**管理 > 管理パック > インストール済み管理パック**をクリックします。
6. **管理の概要**から**管理パックのインポート**を選択します。
7. **管理パックの選択**ウィザードで、**追加 > ディスクから追加**の順にクリックします。
8. ドロップダウンメニューから、管理パックがダウンロードされたフォルダを選択します。
9. インポートするダウンロード ファイルを選択し、**開く**をクリックします。
10. *Dell.FeatureManagement.Pack.mp* を選択して、**インストール**をクリックします。
11. **閉じる**をクリックします。
Feature Management Pack バージョン 7.2 が導入されます。

SCOM コンソールを使用した OMIMSSC の起動

デバイスを検出して管理するには、SCOM コンソールを使用して Dell EMC OpenManage Integration Dashboard にログインします。OMIMSSC の現在の IP アドレスを変更した場合は、**新しい IP アドレスを使用して現在の OMIMSSC IP アドレスをオーバーライド**することができます。

メモ: OMIMSSC を起動する場合は、デフォルトの Web ブラウザーのセキュリティ設定で**信頼済みサイト**に追加するゾーンを選択し、**暗号化されたページをディスクに保存しないオプション**をオフにして、詳細設定を変更します。

SCOM コンソールから OpenManagement Integration Dashboard を起動するには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択し、**Dell EMC > Dell EMC OpenManagement Integrationビュー > OpenManagement Integration Dashboard**の順に展開します。
Dell EMC OMIMSSC のログイン ページが表示されます。
2. OMIMSSC 管理者の認証情報を使用してログインします。
[**Dell EMC OpenManagement Integration Dashboard - 概要**] ページが表示されます。

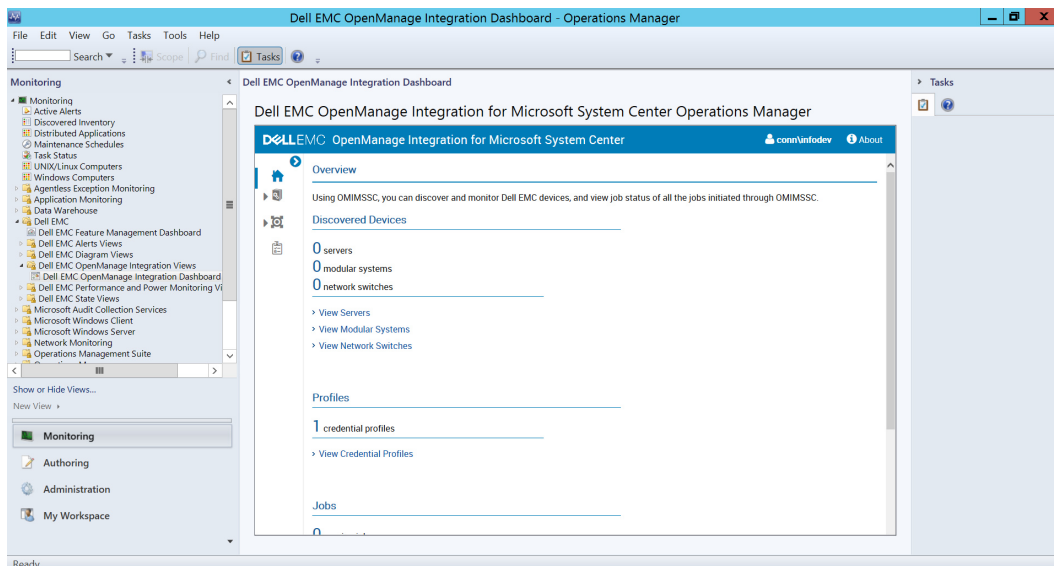


図 6. [Dell EMC OpenManagement Integration Dashboard - 概要] ページ

新しい IP アドレスを使用した現在の OMIMSSC IP アドレスのオーバーライド

1. SCOM コンソールの左ペインで、**オーサリング**を選択し、**管理バック オブジェクト > モニター**の順に展開します。
2. **検索対象**フィールドで、**アプライアンス**を検索し、**管理サーバー > Dell EMC SDK Override Appliance IP**までスクロールまでスクロール ダウンします。
3. **Dell EMC Appliance IP**の下で、**オーバーライド**値を新しい IP アドレスに変更します。
4. **Dell EMC SDK Appliance IP override** 管理パックに上書きされた情報を保存します。

OMIMSSC の認定資格プロフィール

認定資格プロフィールは、ユーザーのロール ベースの機能を認証することにより、ユーザー資格情報の使用と管理を簡素化します。各認定資格プロフィールには、単一ユーザー アカウントのユーザー名とパスワードが含まれています。OMIMSSC は、デバイス認定資格プロフィールを使用して、管理下システムの iDRAC、CMC、OpenManagement Enterprise Modular、またはネットワーク スイッチに接続します。

OMIMSSC で、次の認定資格プロフィールを作成することができます。

- **Windows 認定資格プロフィール** — このプロフィールは、OMIMSSC によるコンソールの登録に使用されます。Windows シャーシ認定資格プロフィールの作成の詳細については、**OMIMSSC に SCOM コンソールを登録するための Windows 認定資格プロフィールの作成**、p. 34 を参照してください。
- **デバイス認定資格プロフィール** — このプロフィールは、iDRAC コンソール、Chassis Management Controller、OpenManagement Enterprise Modular、またはネットワーク スイッチ管理コンソールへのアクセスに使用される資格情報、SNMP コミュニティー文字列、HTTPS ポート番号、および SNMP ポート番号のフィールドで構成されます。表示されるフィールドは、選択したプロトコルに応じて異なります。たとえば、HTTP には、ユーザー名、パスワード、ポート番号のオプションがあります。

メモ: デバイス認定資格プロフィールは、サーバー、モジュラー型システム、またはネットワーク スイッチの検出に使用されます。

OMIMSSC に SCOM コンソールを登録するための Windows 認定資格プロフィールの作成

Windows 認定資格プロフィールを作成するには、次の手順を実行します。

1. SCOM で1つまたは複数の管理サーバーを登録する場合は、**コンソール登録**ページで**新規作成**をクリックします。
2. **プロフィールの作成**ダイアログボックスで、次のデータを入力または選択します。
 - a. **認定資格プロフィール** タイプドロップダウンメニューから、**Windows 認定資格プロフィール**を選択します。
 - b. 新しく作成された認定資格プロフィールの名前を入力します。
 - c. SCOM 管理サーバーを OMIMSSC に登録するユーザーのユーザー資格情報を入力します。
 - d. この SCOM に関連付けられている管理サーバーのドメイン名を入力します。
 - e. **終了**をクリックします。
Windows 認定資格プロフィールを作成するには、手順7に進みます。
3. 管理サーバーの登録後に SCOM コンソールで Windows 認定資格プロフィールを作成するには、**Dell EMC OpenManage Integrations** ビューで **OpenManage Integration Dashboard** を選択します。
Dell EMC OpenManage Integration Dashboard が表示されます。
4. Dell EMC OMIMSSC にログインします。
5. 左ペインで、**プロファイルと設定** > **認定資格プロフィール**を選択して、**作成**をクリックします。
6. 手順2で説明されているアクションを実行します。
7. ジョブに固有の名前を入力し、**終了**をクリックします。

新しい Windows 認定資格プロフィールが正常に作成され、**認証情報**ドロップダウンメニューに表示されます。

OMIMSSC での デバイス 認定資格プロフィールの作成

1. SCOM の左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC** > **Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** を展開します。
3. OMIMSSC 管理者の認証情報を入力して、OpenManage Integration Dashboard にログインします。
4. 左ペインを展開し、**プロファイルと設定** > **認定資格プロフィール**を選択します。
使用可能な認定資格プロフィールが作業中のペインに一覧されます。
5. **作成**をクリックします。
6. **認定資格プロフィール**ダイアログボックスで、次のデータを入力または選択します。
 - a. **認定資格プロフィール** タイプドロップダウンメニューから、**デバイス認定資格プロフィール**を選択します。
 - b. 新しい認定資格プロフィールの名前と説明を入力します。
7. デバイス認定資格プロフィールを作成するには、次の手順を実行します。
 - PowerEdge サーバー、シャーシ、モジュラー型システム：
 - a. プロトコルとして HTTP を選択します。
 - b. 認証情報を入力します。
 - c. 必要に応じて、WS-Man または Rest のポート番号を変更します。
 - ネットワーク スイッチ：
 - a. プロトコルとして SNMP を選択します。
 - b. コミュニティー文字列と SNMP ポート番号を入力します。
8. **デフォルト プロファイル**ドロップダウンメニューから、SCOM で検出されたデバイスを同期するには、次のいずれかを選択し、それを選択した認定資格タイプのデフォルト プロファイルとして設定します。
OMIMSSC は、デフォルト プロファイルを使用して、ネイティブの SCOM コンソールで検出されたデバイスを検出します。
 - iDRAC - サーバーのデフォルト プロファイル。
 - CMC - Chassis Management Controller または OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) のデフォルト プロファイル。
 - ネットワーク スイッチ - ネットワーク スイッチのデフォルト プロファイル。
 - なし - このプロファイルをデフォルト プロファイルとして設定しません。
デフォルトの iDRAC プロファイルは、デバイスの検出時、または同期化の実行時にデバイスにアクセスするために使用されません。
9. **終了**をクリックします。

デバイス認定資格プロフィールが作成され、**認定資格プロフィール**リストに表示されます。リストを更新するには、**更新**をクリックします。

OMIMSSC での認定資格プロフィールの変更

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **モニタリング**ペインで、**Dell EMC OpenManage Integration** ビュー > **OpenManage Integration Dashboard** の順にクリックします。
3. 管理者として OMIMSSC にログインします。
4. **プロフィールと設定** > **認定資格プロフィール** をクリックします。
5. 編集するプロフィールを選択し、**削除** をクリックします。
6. 設定を変更して、**保存** をクリックします。

OMIMSSC での認定資格プロフィールの削除

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **モニタリング**ペインで、**Dell EMC OpenManage Integration** ビュー > **OpenManage Integration Dashboard** の順にクリックします。
3. 管理者として OMIMSSC にログインします。
4. 左ペインで、**プロフィールと設定** > **認定資格プロフィール** の順にクリックします。
5. 削除するプロフィールを選択し、**削除** をクリックします。

SCOM コンソールでのタスクの実行

1. SCOM の左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC** を展開します。
3. **ダイアグラム ビュー**、**状態ビュー**、または**アラート ビュー**のいずれかを展開します。
4. タスクを実行するデバイスを選択します。
デバイスによって使用されるモニタリング機能を使用して実行可能なタスクのリストが、SCOM コンソールの**タスク**ペインに表示されます。
5. **タスク**ペインで、実行するタスクをクリックします。
タスクが開始され、タスクが正常に実行されると、タスクの概要が表示されます。

デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド

検出パラメーター、パフォーマンス、正常性メトリックを上書きすることで、Dell EMC デバイスの検出をカスタマイズできます。検出パラメーター、パフォーマンス、および正常性メトリックをオーバーライドするには、OMIMSSC ダッシュボードで次の手順を実行します。

1. SCOM の左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **Dell EMC** > **Dell EMC OpenManage Integrations** ビュー > **Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** をクリックします。
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. OMIMSSC ダッシュボードを表示するための認証情報を入力してから、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を **domain\username** の形式で入力します。
4. 左ペインで、**プロフィールと設定** をクリックします。
5. **プロフィールと設定** を選択します。
検出、**モニタリング**、および**パフォーマンスの上書き** ページが表示されます。使用可能なデバイス タイプに設定された検出タイプとモニタリング間隔が表に示されます。
6. **編集** をクリックします。
検出、**モニタリング**、および**パフォーマンス間隔の上書き** ダイアログ ボックスが表示されます。
7. フィールドでデータを選択または入力して、モニタリング設定をカスタマイズします。
 - a. オーバーライドの必要があるモニタリング プロパティを含むデバイス タイプに対応するチェック ボックスを選択します。
 - b. 検出タイプとして、**詳細**または**拡張可能**のいずれかを選択します。すべてのデバイス タイプの検出タイプが詳細または拡張可能のいずれかに設定されていることを確認します。

- c. デバイス検出および正常性ステータス ジョブを自動的に実行するための時間頻度を入力します。
- d. メトリックの収集を有効にするには、ドロップダウン メニューからはいを選択し、メトリックを収集する必要がある間隔を入力します。
- e. **適用** をクリックします。

OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能を使用した PowerEdge サーバーの検出とモニタリング

トピック：

- PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション向けの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の概要
- ホストオペレーティングシステムを使用し、WS-Man または iDRAC アクセスを使用した PowerEdge サーバーおよびワークステーションの検出と分類
- Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング (ライセンス対象) を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件
- OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用する PowerEdge サーバーの検出
- SCOM コンソールを使用した PowerEdge サーバーの検出
- WS-Man を使用したオブジェクトの検出
- PowerEdge サーバーをモニタリングする SNMP Services のインストール
- SCOM コンソールでの PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング

PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション向けの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の概要

Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング (ライセンス対象) 機能は、次のデバイスの検出とモニタリングの方法に基づいて、詳細または拡張可能インベントリを提供します。

- YX2X、YX3X、および iDRAC9 - ベース PowerEdge サーバー
- PowerVault サーバ
- Dell Precision ラック
- Dell ブランドの OEM サーバー
- Dell OEM Ready サーバー
- Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノード

これは、ライセンス付きの機能です。これらのデバイスのインベントリおよびモニタリングは、モニタリング設定に基づいて、次の方法のいずれかで管理下 Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションにインストールされた iDRAC または iDRAC サービス モジュール (iSM) から実行できます。

- iDRAC WS-Man
- ホストオペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセス
- iSM-WMI

OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の拡張可能エディションおよび詳細エディション

拡張可能エディション

- iSM-WMI を使用してライセンスされたモニタリング機能に対してのみ、個別のグループレベルまでインベントリを生成します。
- 拡張可能エディションでは、インスタンスレベルまでのインベントリを使用できます。
- サーバー、ラック型ワークステーション、コンポーネントグループレベルでの正常性モニタリング。

詳細エディション

- 個々のコンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。
- 電源、温度、NIC、プロセッサ、メモリー、Compute Usage per Second (CUPS)、PCIe SSD 摩耗率、および I/O パフォーマンス メトリックを表示します。

ホストオペレーティングシステムを使用し、WS-Man または iDRAC アクセスを使用した PowerEdge サーバーおよびワークステーションの検出と分類

OMIMSSC アプライアンスを使用すると、PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの検出と分類を行うことができます。次の表は、iDRAC-WS-Man を使用した Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング (ライセンス対象) 機能によるハードウェア検出とグループ化の詳細の一覧を示しています。

表 6. PowerEdge サーバーの検出とグループ化

グループ	ダイアグラムビュー	ハードウェアタイプ
Dell EMC PowerEdge サーバ	<ul style="list-style-type: none">● Dell EMC モノリス型サーバー● Dell EMC モジュラー型サーバー● Dell EMC Sled グループ	<ul style="list-style-type: none">● Dell PowerEdge システム● Dell PowerVault システム
Dell EMC ラック型ワークステーション	Dell EMC ラック型ワークステーションのダイアグラム	Dell Precision ラック

Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング (ライセンス対象) を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件

- 共通の前提条件：
 - Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング (ライセンス対象) 機能を使用して Dell EMC PowerEdge サーバーを検出する前に、Microsoft SMASH ライブラリー (MPB) ファイルをインストールします。Microsoft SMASH ライブラリー (MPB) ファイルのインストールの詳細については、[Web Services Management \(WS-Man\)](#) と [SMASH デバイス テンプレートのインストール](#)、p.103 を参照してください。
- ホストオペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセスの場合：
 - iSM バージョンが管理下ノードにインストールされている必要があります。
 - ホストオペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセスが有効になっている必要があります。ホストオペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセスを使用して PowerEdge サーバーを検出する方法の詳細については、<https://www.dell.com/idracmanuals> にある iDRAC7 または iDRAC8 ユーザーズ ガイドの「ホストオペレーティングシステムを介した iDRAC アクセス」セクションを参照してください。

OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用する PowerEdge サーバーの検出

IP アドレスまたは IP 範囲を使用して、**OpenManage Integration Dashboard** から iDRAC WS-Man を使って、Dell EMC PowerEdge サーバーを検出することができます。

OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用して PowerEdge サーバーを検出するには、次のようにします。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC > Dell EMC OpenManage Integration** ビューの順に展開し、**Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** を選択します。
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。

3. OMIMSSC ダッシュボードを表示するための認証情報を入力してから、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. **モニタリング**を選択し、**サーバーの表示**リンクをクリックして PowerEdge サーバーを検出します。
5. **サーバービュー** ページで、**検出**をクリックします。
6. **検出**ダイアログボックスで、検出するサーバーの iDRAC IP アドレスおよびデバイス タイプ認証情報を入力します。IP 範囲を使用してサーバーを検出する場合は、**開始範囲**と**終了範囲**を含むサブネット内の IP (IPv4) の範囲を入力します。
 - a. **IP 範囲または IP アドレス範囲を使用した検出**で、
 - IP アドレスでサーバーを検出する場合は、次のようにします。
 - a. **iDRAC IP アドレス**ボックスに、検出するサーバーの IP アドレスを入力します。
 - IP アドレス範囲で複数のサーバーを検出する場合は、次のようにします。
 - a. IP アドレスの範囲を入力します。
 - b. 特定の IP アドレスが検出されないように除外するには、**除外範囲を有効にする**チェックボックスをオンにして、除外する IP アドレスの範囲を入力します。

一度に最大 250 台のサーバーを検出することができ、1 時間の間隔で検出ジョブが連続してトリガーされます。
7. この**認定資格プロフィールを適用**ドロップダウンメニューから、デバイスの検出に使用する必要がある**デバイス認定資格プロフィール**を選択します。デバイス認定資格プロフィールを作成するには、**新規作成**をクリックします。**OMIMSSC でのデバイス認定資格プロフィールの作成**、p. 34 を参照してください。
8. このジョブのステータスを表示するには、**ジョブリスト**に**移動**チェックボックスをオンにします。
9. この検出タスクのジョブ名を入力します。
10. **終了**をクリックします。
検出ジョブが作成されて開始され、検出されたサーバーが**サーバービュー**ページにリストされます。

メモ: iDRAC の [SNMP トラップと E メール設定] リストの [アラート送信先] フィールドのいずれかを空欄にするようにしてください。これにより、デバイスの検出時に、SNMP トラップ送信先の自動設定が行われます。iDRAC でアラートおよび SNMP トラップを有効にします。SCOM で構成された SNMP モニタリング アカウントを使用すると、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) アラートビューに iDRAC からの SNMP アラートが表示されます。iDRAC トラップの宛先の設定の詳細については、<https://www.dell.com/iDRACmanuals> を参照してください。

SCOM コンソールを使用した PowerEdge サーバーの検出

1. SCOM コンソールの左ペインで、**オーサリング**を選択します。
2. 左ペインで、**モニタリングの追加ウィザード**リンクをクリックして、次のアクションを実行します。
3. [**モニタリングの追加ウィザード**] ダイアログボックスの**モニタリングタイプ**で、**WS-Management**と**SMASH デバイス検出**を選択し、**次へ**をクリックします。
4. [**全般プロパティ**] で、テンプレートの名前と説明を入力します。
 - a. **管理パック**で、**新規**をクリックします。
 - b. **名前**フィールドで管理パックの名前を入力して、**新規**をクリックします。
管理パックの作成の詳細については、Microsoft SCOM のマニュアルを参照してください。
 - c. **作成**をクリックします。
[**管理パック**] ドロップダウンメニューで、作成された**管理パック**が選択されています。
5. **次へ**をクリックします。
6. **ターゲットの指定**ドロップダウンメニューの [**ターゲットの選択**] で、これらのデバイスのモニタリングのためのリソースプールを選択して、**次へ**をクリックします。
7. [**認証情報**] で、**新規**をクリックし、シンプル認証の Run As アカウントを作成します。

メモ: iDRAC 用に AD ドメイン認証情報を使用している場合は、`username@domainname.com` というフォーマットで認証情報を入力してください。
- a. **Run As アカウント**ドロップダウンメニューから作成した Run As アカウントを選択して、**次へ**をクリックします。
8. [**デバイス**] で、**追加**をクリックします。
 - a. [**デバイスの追加**] 画面で、検出するシステムの iDRAC IP (優先検出方法が iDRAC WS-Man の場合) またはホスト IP (優先検出方法がホストオペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセスの場合) アドレスをモニタリング設定に基づいて指定します。システムの優先 IP アドレスは、次の方法で指定できます。
 - 提供した **IP サブネット**をスキャンする。
 - 指定された **IP 範囲**をスキャンする。

- iDRAC IP/ ホスト IP アドレスのリストを含むテキストファイルをインポートする。
詳細については、<https://www.dell.com/idracmanuals> で『Integrated Dell Remote Access Controller7/9 with Lifecycle Controller ユーザーズ ガイド』の「iSM PowerShell スクリプトを使用した設定」を参照してください。
 - b. 詳細オプションをクリックし、**CA チェックを省略**および**CN チェックを省略**オプションを選択して、**OK** をクリックします。
 - c. **デバイスのスキャン**をクリックして、ネットワーク上の Dell EMC PowerEdge サーバーを検索します。
IP アドレスが **使用可能デバイス** にリストされます。
 - d. **追加**をクリックして、監視する IP アドレスのリストを追加し、**OK** をクリックします。
9. [**監視するデバイスの指定**] の下で、**作成** をクリックします。
10. **閉じる** をクリックします。
スキャンした PowerEdge サーバーは、最初に **モニタリング > WS-Management** と **SMASH モニタリング > WS-Management デバイス状況** の下に一覧表示されます。Operations Manager によって自動的にトリガーされた SMASH 検出が完了すると、PowerEdge サーバーが **モニタリング > WS-Management** と **SMASH モニタリング > SMASH デバイス状態** に表示されます。
11. **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング (ライセンス対象) 機能を有効にします。

WS-Man を使用したオブジェクトの検出

- 検出オブジェクト - Dell EMC PowerEdge サーバーの検出
- 説明 - Dell EMC PowerEdge サーバーを分類し、主要な属性およびコンポーネントに入力します。
- 検出オブジェクト - Dell Device Helper の検出
- 説明 - Dell Device Helper をオブジェクトとして検出します。
- 検出オブジェクト - Dell ホスト NIC 関連検出
- 説明 - ホスト NIC インターフェイスと物理インターフェイスを関連させます。

メモ: チェームされたネットワーク インターフェイスは、チーム内の NIC を1つだけ表示します。

PowerEdge サーバーをモニタリングする SNMP Services のインストール

メモ: ホスト オペレーティング システムの機能を使用した iDRAC アクセスで検出されたデバイスからの SNMP アラートを受信できるようにするには、管理対象ノードに SNMP Services をインストールし、さらに SNMP Services で管理サーバーの IP アドレスをトラップの送信先として設定する必要があります。

管理対象ノードに SNMP Services をインストールするには、次の手順を実行します。

1. **Server Manager > 役割と機能 > 機能** をクリックします。
2. SNMP Services をインストールします。
3. 使用可能なサービスのリストから、**SNMP Services** を右クリックし、**プロパティ** を選択します。
4. [**SNMP Services のプロパティ (ローカル コンピューター)**] ウィンドウで、**トラップタブ** をクリックします。
5. **コミュニティ名** ボックスにコミュニティ文字列を設定し、**トラップ送信先** ボックスに管理サーバーの IP アドレスを入力します。
6. **OK** をクリックします。

(実験的な)ホスト オペレーティング システム方式を使用した iDRAC アクセスで iSM から検出されたノードの SNMP トラップが受信されます。**検出されたデバイスの重要度レベル**、p. 84 は、ネットワーク上の PowerEdge サーバーの稼働状態を示します。ここでは、モジュラー型およびモノリス型システムや、サポート対象の Dell Precision ラックおよびそのコンポーネントの稼働状態の定期的なモニタリングなどが行われています。

システムのコンポーネントは **Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング** 機能 (ライセンス不要) によって監視されます。これは **Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)** 機能とは別で、ライセンス不要の機能 (OMSA) によってサーバーの全体的な正常性を表示します。ライセンス対象の機能 (iDRAC WS-Man、ホストオペレーティング システムを使用した iDRAC アクセス、iSM-WMI) によるものとは異なります。こうした問題が発生した場合は、特定のコンポーネントのステータスを分析して、システム コンポーネントの具体的な問題を解決し、サーバーの全体的な正常性を **OK** の状態にします。

SCOM コンソールでの PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング

OMIMSSC アプライアンスは、SCOM コンソールの **Dell EMC** フォルダーの下に、モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションに関する次のタイプのビューを提供します。

- モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラートビュー、p. 41
- モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラムビュー、p. 41
- PowerEdge サーバーのパフォーマンスと電源のモニタリングの表示、p. 42
- PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビューの表示、p. 42

モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラートビュー

アラートビュー オプションは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションからのハードウェアおよびストレージのアラートを管理するために使用することができます。PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、およびサポートされている Dell Precision ラックの Broadcom および Intel ネットワーク インターフェイス カードから受信したイベントのリンクアップおよびリンクダウンアラートは、**Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)** 機能によって表示されます。

モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラートの表示

SCOM コンソールで Dell EMC サーバーおよびラック モニタリング (ライセンス対象) 機能のアラートを表示するには、次の手順を実行します。

1. 左ペインで、**モニタリング**をクリックし、**Dell EMC > Dell EMC アラートビュー**の順に展開します。
次の Dell EMC アラートビューが表示されます。
 - Dell EMC ネットワーク インターフェイス アラートビュー — 検出された NIC からのリンクアップおよびリンクダウンアラートが表示されます。
 - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) アラートビューと、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション アラートビュー - 第 12 世代、第 13 世代、さらに iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、および iDRAC7、iDRAC8、または iDRAC9 搭載の Dell Precision ラックの SNMP トラップが表示されます。
 - Dell EMC ラック型ワークステーションアラートビュー
 - Dell EMC ネットワークインターフェースアラート
 - Dell EMC ラック型ワークステーションアラート
2. **Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) アラートビュー**を選択します。
作業中のペインに、アラートの重要度、解決状態、またはユーザーに割り当てられたアラートなど、指定した条件を満たすアラートが表示されます。
3. アラートを選択すると、そのアラートに関する情報が**アラートの詳細**セクションに表示されます。

モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラムビュー

Dell EMC ダイアグラムビューには、ネットワーク上の PowerEdge サーバーおよび対応 Precision ラック型ワークステーションの階層的な図が表示されます。

サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラムビューの表示

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**をクリックしてから **Dell EMC > Dell EMC ダイアグラムビュー**の順に展開します。
使用可能なダイアグラムビューの詳細については **OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラムビュー**、p. 89 を参照してください。
2. ステータスを表示するサーバーまたはラック型ワークステーションに基づいて、それぞれのダイアグラムビューを選択します。
右側のペインに、選択した Dell EMC サーバまたはラック型ワークステーションの階層的な図が表示されます。

3. デバイスに関する詳細情報を表示するには、ダイアグラム内のコンポーネントを選択します。コンポーネントの詳細は、**詳細ビュー**セクションに表示されます。

PowerEdge サーバーのパフォーマンスと電源のモニタリングの表示

1. SCOM の左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **Dell EMC > Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー**を選択します。
メモ: すべてのパフォーマンス メトリック ルールは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング監視 (ライセンス対象) 機能に対してデフォルトでは無効に設定されています。

使用可能なパフォーマンスおよび電源モニタリング ビューの詳細については、**OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビュー**、p. 92 を参照してください。

3. システム ボードの使用率メトリクスを表示するには、**Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング > Dell EMC システムボードの使用率**を選択します。**OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビュー**、p. 92 を参照してください。
4. 個々のパフォーマンスビューからカウンタを選択し、時間範囲 (必須値) を選択します。収集されるデータは、各システムについて図形式で表示されます。

ユニット モニターは、2 つの連続するサイクルでパフォーマンス カウンターを監視し、それが設定された重要しきい値を超過するかどうかをチェックします。重要しきい値を超過すると、サーバーが状態を変更して重要アラートが生成されます。このユニットモニターはデフォルトで無効になっています。しきい値は、SCOM コンソールの**オーサリング**ペインから上書き (有効化) することができます。ユニット モニターは、ライセンス対象のモニタリング機能の **Dell サーバー** オブジェクトで使用できます。ユニットモニターを有効にして、ユニット モニターのしきい値を設定するには、**パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化**、p. 42 を参照してください。

メモ: 電源モニタリングは、電源モニタリング機能の属性を備えた Dell EMC PowerEdge サーバーにのみ適用されます。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の詳細エディションが存在する場合にのみ有効になります。

メモ: ディスク パフォーマンス ビュー - iSM (%) は、デフォルトでは無効になっており、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の詳細エディションがインストールおよびインポートされた場合にのみ表示されます。

パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化

1. SCOM コンソールの左側のペインで、**オーサリング**をクリックします。
2. **管理**バック オブジェクトを展開し、**モニター**を選択します。
3. 作業中のペインの**検索対象**フィールドで、**パフォーマンス**を検索します。パフォーマンスがモニタリングされているデバイスのリストが表示されます。
4. Dell サーバーが見つかるまで下にスクロールして、**パフォーマンス**を展開します。Dell サーバーに関連付けられているパフォーマンス ユニット モニターのリストが表示されます。
5. 有効にするユニット モニターを右クリックし、**オーバーライド > モニターのオーバーライド > クラスのすべてのオブジェクト: Dell サーバー**をクリックします。
6. **プロパティ**を**オーバーライド**ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。
 - a. **有効行のオーバーライド値**を **True** に設定します。
 - b. **管理**バックセクションで、ドロップダウン リストから**管理**バックを選択します。OMIMSSC の管理バックを作成するには、**新規**をクリックします。
7. **適用**をクリックします。

PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビューの表示

1. SCOM の左側のペインで、**モニタリング**を選択し、**Dell EMC > Dell EMC 状態ビュー**の順に展開します。ネットワーク上で SCOM によって管理されている Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのステータスが表示されます。**OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー**、p. 92 を参照してください。
2. コンポーネントに関するデータを表示するには、コンポーネントを選択します。詳細は [**詳細ビュー**] セクションに表示されます。
メモ: グループの稼働状態は、サブコンポーネントの稼働状態のステータスをロールアップしたものです。

OMIMSSC を使用した Dell EMC シャーシの検出とモニタリング

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2 または FX2s シャーシ、PowerEdge VRTX シャーシ、PowerEdge M1000E シャーシ、Dell OEM Ready シャーシ上の Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise—Modular (CMC/OME-M) の以下を使用した検出とモニタリングをサポートします。

- SNMP および/または WS-Man プロトコル
- Redfish

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、対応する SCOM バージョンの個々のシャーシ コンポーネントの詳細エディション モニタリングもサポートします。

トピック：

- [シャーシの検出と分類](#)
- [OMIMSSC を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出](#)
- [SCOM を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出](#)
- [OMIMSSC のシャーシ モニタリング機能](#)
- [シャーシ モジュラー型サーバー関連機能](#)

シャーシの検出と分類

OMIMSSC アプライアンスは、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2/FX2s、PowerEdge M1000e、PowerEdge VRTX 上の Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise—Modular (CMC/OME-M) を検索して分類することができます。

次の表は、Dell EMC シャーシ モニタリング機能によるハードウェア検出とグループ化の詳細を一覧にしたものです。

表 7. Dell EMC シャーシの検出とグループ化

グループ	ダイアグラムビュー	ハードウェアタイプ
Dell EMC CMC/OME-M	Dell シャーシダイアグラムビュー	ネットワーク上の CMC/OME-M インスタンス、シャーシとそのコンポーネント、シャーシ内で使用されるサーバー モジュール スロット。
Dell EMC PowerEdge M1000e	Dell EMC M1000e シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge M1000e
Dell EMC PowerEdge VRTX	Dell EMC VRTX シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge VRTX
Dell EMC FX2	Dell EMC FX2 シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge FX2
Dell EMC PowerEdge MX7000	Dell EMC MX7000 シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge MX7000

OMIMSSC を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出


Dell EMC OpenManage Integration Dashboard で、IP アドレスまたは IP 範囲を使用して Dell EMC PowerEdge シャーシを検出できます。シャーシを検出するには、シャーシの IP アドレスとデバイス タイプ認証情報を入力します。IP 範囲を使用してシャーシを検出する場合は、範囲の開始と終了を含めることによって、サブネット内の IP (IPv4) の範囲を指定します。

OMIMSSC を使用して Dell EMC PowerEdge シャーシを検出するには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC > Dell EMC OpenManage Integration** ビューの順に展開し、**Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** を選択します。
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. OMIMSSC ダッシュボードを表示するための認証情報を入力してから、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を **domain\username** の形式で入力します。
4. **モニタリング**を選択して、シャーシを検出するための**モジュラー型サーバーの表示リンク**をクリックします。
5. [**モジュラー型システム ビュー**] ページで、**検出**をクリックします。
6. **検出**ダイアログ ボックスで、以下を行います。
 - a. **IP 範囲または IP アドレス範囲を使用した検出**で、
 - IP アドレスを使用してシャーシを検出するには、
 - a. **IP アドレス**ボックスに、検出するシャーシの IP アドレスを入力します。
 - IP アドレス範囲を使用して複数のシャーシを検出するには、
 - a. IP アドレスの**範囲**を入力します。
 - b. 特定の IP アドレスが検出されないように除外するには、**除外範囲を有効にする**チェック ボックスをオンにして、除外する IP アドレスの**範囲**を入力します。
7. この**認定資格プロフィールを適用**ドロップダウン メニューから、デバイスの検出に使用する必要がある**デバイス認定資格プロフィール**を選択します。デバイス認定資格プロフィールを作成するには、**新規作成**をクリックします。[OMIMSSC でのデバイス認定資格プロフィールの作成](#)、p. 34 を参照してください。
8. このジョブのステータスを表示するには、**ジョブ リスト**に**移動**チェック ボックスをオンにします。
9. この検出タスクのジョブ名を入力します。
10. **終了**をクリックします。
検出ジョブが作成および開始され、検出されたシャーシが [**モジュラー型システム ビュー**] ページに一覧されます。

SCOM を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出

シャーシ デバイスは、SCOM コンソールの**管理**セクションでネットワーク デバイスとして検出されなければなりません。SCOM コンソールでシャーシを検出するには、次のアクションを実行します。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**管理**をクリックします。
2. 左ペインで、**検出ウィザード**をクリックします。
3. **ネットワーク デバイス**を選択し、**コンピューターとデバイス管理ウィザード**によってプロンプトが表示されたら、タスクを完了します。詳細については、Microsoft SCOM のマニュアルを参照してください。
 **メモ:** シャーシ デバイスを検出するために作成した Run As アカウントを選択します。
4. **デバイス コンソールの追加画面**で、検出するシャーシの IP アドレスを入力します。
5. SNMP V1 または SNMP V2 **Run As アカウント**ドロップダウン メニューから必要な Run As アカウントを選択します。
6. **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して、シャーシ **モニタリング機能**を有効にします。
OMIMSSC コンソールから Microsoft System Center との同期を実行して、SCOM コンソールで検出されたシャーシ デバイスの検出を完了します。

OMIMSSC のシャーシ モニタリング機能

Operations Manager の**モニタリング**ペインを使用して、検出された Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) デバイスの完全な正常性情報を表示するビューを選択することができます。Dell EMC シャーシ モニタリ

ング機能は、Dell CMC/OME-M デバイスの正常性を検出および監視します。検出されたデバイスの重要度レベル、p. 84 は、ネットワーク上の Dell CMC/OME-M デバイスの正常性を示します。

シャーシ モニタリングには、一定間隔およびイベント発生時の両方における Dell シャーシ デバイスの正常性のモニタリングが含まれます。

メモ: Dell EMC シャーシの詳細モニタリングを実行するには、プロファイル (Dell CMC ログイン アカウント Run as プロファイル) に対して、Dell Modular Chassis クラスまたは各 CMC オブジェクト (異なる CMC/OME-M デバイスで異なる Run As アカウントがある場合) としてのターゲットに Dell CMC へのアクセスに必要な WS-Man 認証情報 Run As アカウントを関連付けます。

SCOM コンソールのモニタリング対象シャーシ ビュー

OMIMSSC アプライアンスは、SCOM コンソールのモニタリング > **Dell EMC** で Dell EMC シャーシを監視するための次のタイプのビューを提供します。

- [モニタリング対象 Dell EMC シャーシのアラートの表示](#)、p. 45
- [シャーシのダイアグラム ビューの表示](#)、p. 45
- [PowerEdge シャーシのパフォーマンスおよび電源モニタリングの SCOM コンソールでの表示](#)、p. 46
- [シャーシの状態ビューの表示](#)、p. 47

モニタリング対象 Dell EMC シャーシのアラートの表示

モニタリング対象シャーシのアラート ビューは、Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) デバイスからのハードウェアおよびストレージ イベントの管理に使用できます。シャーシ デバイスから送信された SNMP トラップは、Dell EMC シャーシ モニタリング機能によって表示されます。

シャーシ モニタリング アラートを表示するには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC > Dell EMC アラート ビュー**を展開します。
次のアラート ビューが表示されます。
 - **Dell EMC シャーシ アラート** - 検出されたシャーシ デバイスからの SNMP トラップが表示されます。
 - **Dell EMC シャーシのアラートビュー**
 - **Dell EMC FX2 シャーシのアラートビュー** — 検出された PowerEdge FX2 シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
 - **Dell EMC M1000E シャーシのアラートビュー** — 検出された PowerEdge M1000E シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
 - **Dell EMC MX7000 シャーシのアラートビュー** — 検出された PowerEdge MX7000 シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
 - **Dell EMC VRTX シャーシのアラートビュー** — 検出された PowerEdge VRTX シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
3. 必要なアラート ビューを選択します。
アラートの重要度、解決状態、またはユーザーに割り当てられたアラートなど、指定した条件を満たすアラートが作業中のペインに表示されます。
4. アラートを選択すると、そのアラートに関する情報が**アラート詳細**セクションに表示されます。

シャーシのダイアグラム ビューの表示

SCOM コンソールのモニタリング対象シャーシのダイアグラム ビューで、次の操作を行います。

1. SCOM コンソールの左側のペインで、**モニタリング**を選択してから、**Dell EMC > Dell EMC ダイアグラム ビュー**の順に展開します。
2. 次のビューの **Dell EMC ダイアグラム ビュー**フォルダーを選択します。
 - [Dell EMC Chassis Management Controllers グループ ダイアグラム ビューの表示](#)、p. 46
 - - Dell EMC FX2 シャーシダイアグラムビュー
 - Dell EMC M1000E シャーシダイアグラムビュー
 - Dell EMC MX7000 シャーシダイアグラムビュー
 - Dell EMC VRTX シャーシダイアグラムビュー

OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー、p.89 を参照してください。

3. 必要なダイアグラム ビューを選択します。
作業中のペインに、選択した Dell EMC シャーシの階層的な図が表示されます。
4. ダイアグラム内のコンポーネントを選択して、**詳細ビュー**セクションに詳細を表示します。

Dell EMC Chassis Management Controllers グループ ダイアグラム ビューの表示

Dell EMC Chassis Management Controllers グループ ダイアグラムビューには、すべての Dell EMC Chassis Management Controllers/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M)、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2、PowerEdge M1000E、および PowerEdge VRTX、およびそのインベントリが図示されます。

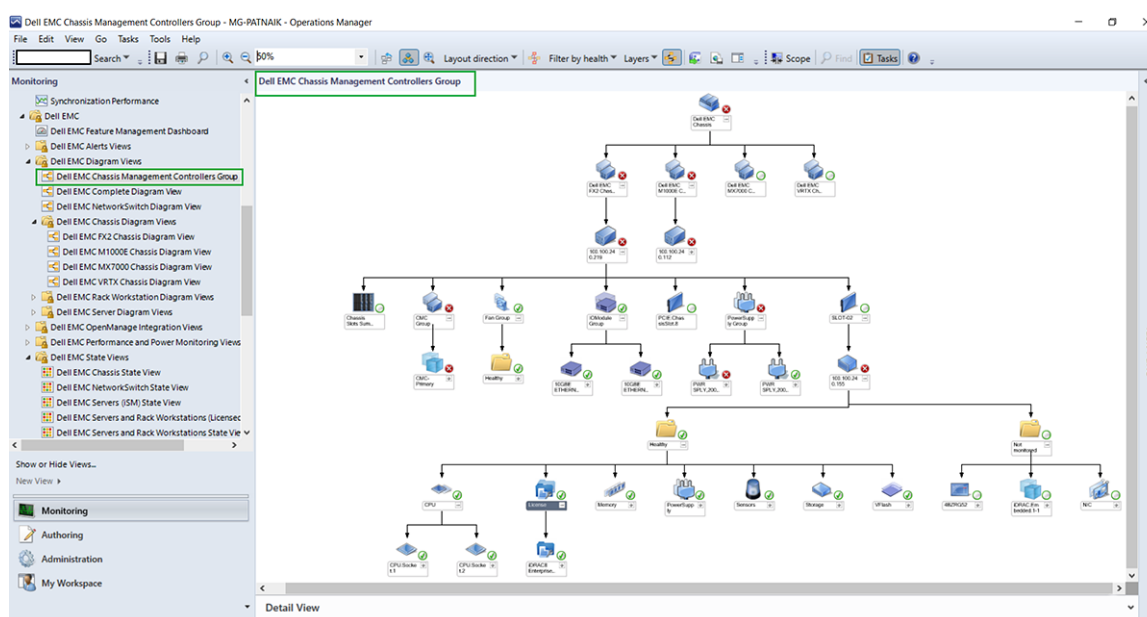


図 7. Dell EMC Chassis Management Controllers グループのダイアグラム ビュー

検出された Dell EMC CMC シャーシについて、以下を表示するために、デフォルトで無効となっているスロット検出を有効にしてください。

- シャーシスロットサマリ 内の使用中および空きスロットのサマリ。
- **ダイアグラムビュー** に反映された、CMC シャーシで変更済みのスロットインベントリの詳細。
- ライセンス対象またはライセンス不要のモニタリング機能を使用して検出された Dell EMC PowerEdge サーバと、**Dell EMC Chassis Management Controllers グループ**ダイアグラムに表示される CMC シャーシのスロットとの相関関係。Dell EMC PowerEdge サーバは、ダイアグラムのスロットの下に表示されます。

メモ: シンプル認証、基本認証、ダイジェスト認証のみを使用した CMC/OME-M スロット検出の **Run As** アカウントを作成します。

メモ: モジュール型システムの iDRAC ファームウェアは、CMC ファームウェアとの互換性を備えている必要があります。互換性がないと、サービス タグが**使用不可**として表示され、シャーシ ブレード相関が不可能となる場合があります。

PowerEdge シャーシのパフォーマンスおよび電源モニタリングの SCOM コンソールでの表示

Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビューは、Dell EMC シャーシ モニタリング機能の詳細機能がインストールされており、メトリック パラメーターのオーバーライド時にメトリック モニタリングを選択しなければ使用できません。メトリック パラメーターのオーバーライドの詳細については、**デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド**、p. 35 を参照してください。

Dell EMC シャーシのパフォーマンスおよび電源モニタリングを表示するには、次のようにします。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC > Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー > Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビュー**の順に展開します。

3. 個々のパフォーマンスビューからカウンタを選択し、時間範囲（必須値）を選択します。収集されたデータが、システムごとにグラフに表示されます。

シャーシの状態ビューの表示

Dell EMC シャーシの状態ビューは、Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) デバイスの正常性を表示するために使用できます。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択してから **Dell EMC > Dell EMC 状態ビュー**の順に展開します。
2. 必要なシャーシグループを選択して、正常性の状態を表示します。次のデバイスのステータスを表示することができます。
 - Dell EMC 状態ビュー
 - Dell EMC シャーシ状態ビュー
 - Dell EMC FX2 シャーシ状態ビュー
 - Dell EMC M1000E シャーシ状態ビュー
 - Dell EMC MX7000 シャーシ状態ビュー
 - Dell EMC VRTX シャーシ状態ビュー

OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー、p. 92 を参照してください。

コンポーネントの正常性は、コンポーネントに関連付けられた未解決のアラートを確認することによって取得されます。**検出されたデバイスの重要度レベル**、p. 84 は、OMIMSSC が対応する重大度レベルで使用しているさまざまな状態コンポーネントを示します。

シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能

シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能は次をサポートします。

- シャーシ スロットでライセンス対象またはライセンス不要のモニタリング機能を使用して検出されたモジュラー型サーバー 関連。
 - ① **メモ:** Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) スロット検出はデフォルトで無効になっています。このため、関連機能を動作させるには、CMC/OME-M スロット検出を有効にします。
- シャーシ共有ストレージコンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバの関連。
 - ① **メモ:** シャーシ共有コンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバとの関連のために、Dell EMC シャーシ詳細モニタリングエディションをインポートします。

シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能を使用して検出されたオブジェクト

- **検出オブジェクト** - Dell EMC シャーシとモジュラー型サーバーとの関連関係を検出します。
- **説明** - Dell EMC シャーシと Dell モジュラー型システムとの関連関係を検出します。
- **検出オブジェクト** - Dell EMC シャーシ ストレージからブレード サーバーへの関連関係を検出します。
- **説明** - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリングによって検出された Dell EMC PowerEdge サーバーで、シャーシ共有コンポーネント間の関連関係を検出します。
- ① **メモ:** 検出された関連モジュラー型サーバーのパフォーマンス グラフは Dell EMC サーバ パフォーマンス ビューと Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビューの両方に表示されます。

OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出とモニタリング

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、M-Series、Z-Series、N-Series、S-Series スイッチなどのネットワーク スイッチの検出とモニタリングをサポートします。Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能では、SNMP ベースの通信が実行されます。

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、サポート対象の SCOM のバージョンの個々のスイッチ コンポーネントの詳細なレベルでのモニタリングも行います。

トピック：

- ネットワーク スイッチの検出と分類
- プロパティを上書きしてネットワーク スイッチの検出プロセスをカスタマイズする
- OMIMSSC 管理ポータルから検出するためのネットワーク スイッチ管理パックのインポート
- OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出
- SCOM を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出
- OMIMSSC のネットワーク スイッチ モニタリング機能

ネットワーク スイッチの検出と分類

ネットワーク スイッチ モニタリング機能によるハードウェア検出とグループ化の詳細は、次のとおりです。

- グループ - Dell EMC ネットワーク スイッチ
- ダイアグラム ビュー - Dell EMC ネットワーク スイッチのダイアグラム ビュー
- ハードウェア タイプ - ネットワーク、スイッチ、およびそのコンポーネント上のスイッチ インスタンス。

プロパティを上書きしてネットワーク スイッチの検出プロセスをカスタマイズする

検出パラメーター、パフォーマンス、および正常性メトリックを上書きすることによって、ネットワーク スイッチの検出をカスタマイズできます。ネットワーク スイッチの検出パラメーターおよび正常性メトリックを上書きするには、[デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド](#)、p. 35 を参照してください。**検出、モニタリング、およびパフォーマンス間隔の上書き** ページで、スイッチ パラメーターを編集するには、**ネットワーク スイッチチェック** ボックスを選択します。

OMIMSSC 管理ポータルから検出するためのネットワーク スイッチ管理パックのインポート

1. Web ブラウザーで OMIMSSC IP アドレスを入力し、OMIMSSC 管理ポータルにログインするためのデフォルトの管理者認証情報を入力します。
2. ログイン をクリックします。
OpenManage Integration for Microsoft System Center - 管理ポータル ページが表示されます。
3. 左ペインで、**設定 > コンソール登録** を選択します。
登録済みコンソールが表示されます。
4. 登録済みコンソールを選択します。
管理パックのインポート ボタンが有効になります。
5. **管理パックのインポート** をクリックします。
デバイスの**管理パックのインポート** ページが表示されます。

6. ネットワーク スイッチ > インストール > **実行** を選択します。

Dell EMC ネットワークスイッチ管理パックがインポートされます。

i **メモ:** 既存の管理パックを再インストールまたは修復する場合は、前述のタスクを実行して、ネットワーク スイッチ管理パックをインポートします。

インポートされた管理パックを削除するには、次の手順を実行します。

1. ネットワーク スイッチ > アンインストール > **実行** を選択します。

Dell EMC ネットワーク スイッチ用にインポートされたすべての管理パックが削除されます。

OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出

前提条件 : OMIMSSC 管理ポータルから SCOM コンソールに Dell EMC ネットワーク スイッチ管理パックをインポートします。

IP アドレスまたは IP 範囲を使用して、スイッチを検出できます。スイッチを検出するには、スイッチの IP アドレスとスイッチのデバイス認定資格プロフィールを指定します。IP 範囲を使用してスイッチを検出する場合は、範囲に開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを含めることによって、サブネット内の IP (IPv4) の範囲を指定します。

OMIMSSC を使用してネットワーク スイッチを検出するには、次のようにします。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング** を選択します。
2. **Dell EMC > Dell EMC OpenManage Integration ビュー** の順に展開し、**Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** を選択します。
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. 資格情報を入力して、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. 左ペインで **モニタリング > ネットワーク スイッチ ビュー** の順に選択し、**検出** をクリックします。
5. **検出** ダイアログ ボックスで次の手順を実行します。
 - **IP 範囲または IP アドレス範囲を使用した検出** で IP アドレスの範囲を使用して、複数のネットワーク スイッチを検出するには、次のようにします。
 - a. IP アドレスの範囲を入力します。
 - b. 特定の IP アドレスが検出されないように除外するには、**除外範囲を有効にする** チェック ボックスをオンにして、除外する IP アドレスの範囲を入力します。
 - IP アドレスを使用してネットワーク スイッチを検出するには、次のようにします。
 - a. **ネットワーク スイッチの IP アドレス** ボックスに、検出するネットワーク スイッチの IP アドレスを入力します。
6. この **認定資格プロフィールを適用** ドロップダウン メニューから、デバイスの検出に使用する必要があるデバイス認定資格プロフィールを選択します。デバイス認定資格プロフィールを作成するには、**新規作成** をクリックします。[OMIMSSC でのデバイス認定資格プロフィールの作成](#)、p. 34 を参照してください。
7. このジョブのステータスを表示するには、**ジョブリストに移動** チェック ボックスをオンにします。
8. この検出タスクのジョブ名を入力します。
9. **終了** をクリックします。
検出ジョブが作成および開始され、検出されたネットワーク スイッチが [**ネットワーク スイッチ ビュー**] ページに表示されます。

SCOM を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出

前提条件 : OMIMSSC 管理ポータルから SCOM コンソールに Dell EMC ネットワーク スイッチ管理パックをインポートします。

Dell EMC ネットワーク スイッチは、SCOM コンソールでネットワーク デバイスとして検出できます。

SCOM を使用してネットワーク スイッチを検出するには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**管理** をクリックします。
2. 左ペインで、**検出ウィザード** をクリックします。
3. **ネットワーク デバイス** を選択し、**コンピューターとデバイス管理ウィザード** によってプロンプトが表示されたら、タスクを完了します。詳細については、Microsoft Operations Manager のマニュアルを参照してください。

- SNMP V1 または V2 の **Run As アカウント** ドロップダウン メニューから必要な Run as アカウントを選択します。
- ネットワーク スイッチ管理パックが OMIMSSC 管理ポータルからインポートされている場合は、ネットワーク スイッチ モニタリング機能は有効です。
メモ: OMIMSSC コンソールから Microsoft System Center との同期を実行して、SCOM コンソールで検出されたネットワーク スイッチの検出を完了します。

OMIMSSC のネットワーク スイッチ モニタリング機能

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、Dell EMC ネットワーク スイッチの稼働状態を検出してモニタリングします。SCOM コンソールの **モニタリング** ペインで、検出された Dell EMC ネットワーク スイッチの完全な稼働状態情報を表示するビューを選択できます。 **検出されたデバイスの重要度レベル**、p. 84 は、ネットワーク上の Dell EMC ネットワーク スイッチの稼働状態を示しています。

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、Dell EMC ネットワーク スイッチに対して、一定間隔でのモニタリングと稼働状態に変更が発生した場合のモニタリングの両方を行います。

- メモ:** ネットワーク スイッチの稼働状態のモニタリング中、SNMP モニタリング アカウントにコミュニティ文字列 Run As アカウントを関連付けます。SNMP モニタリング アカウントは、Dell EMC ネットワーク スイッチのクラスまたは各スイッチ オブジェクト (異なるネットワーク スイッチ デバイスで異なる Run As アカウントがある場合) を対象にしています。

SCOM コンソールのモニタリング対象ネットワーク スイッチ ビュー

OMIMSSC アプライアンスは、SCOM コンソールの **モニタリング** > **Dell EMC** で Dell EMC ネットワーク スイッチを監視するための次のタイプのビューを提供します。

- モニタリング対象 Dell EMC ネットワーク スイッチのアラートの表示**、p. 50
- ネットワーク スイッチのダイアグラム ビューの表示**、p. 50
- ネットワーク スイッチの状態ビューの表示**、p. 51

モニタリング対象 Dell EMC ネットワーク スイッチのアラートの表示

このアラートの表示は、Dell EMC ネットワーク スイッチからのハードウェアの管理に使用できます。検出されたネットワーク デバイスまたはスイッチを介して送信された SNMP トラップが、Dell EMC ネットワーク スイッチ アラート ビューに表示されます。

次の手順に従って、ネットワーク スイッチのモニタリング アラートを表示します。

- SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
- Dell EMC** > **Dell EMC アラート ビュー**を展開します。
事前に定義された基準を満たしたアラートと、ネットワーク スイッチに割り当てられたアラートが表示されます。
- アラートを選択すると、そのアラートに関する情報が **アラート詳細** セクションに表示されます。

ネットワーク スイッチのダイアグラム ビューの表示

Dell EMC ダイアグラム ビューには、検出されたすべての Dell EMC ネットワーク スイッチの階層的な図が表示されます。SCOM コンソールにネットワーク スイッチ モニタリング機能の図を表示するには、次のようにします。

- SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
- Dell EMC** > **Dell EMC アラート ビュー**の順に展開します。
- 次のように、表示する **ダイアグラム ビュー** フォルダーを選択します。
 - 完全ダイアグラムビュー
 - Dell EMC ネットワーク スイッチのダイアグラムビュー**OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー**、p. 89 を参照してください。
- 必要なダイアグラム ビューを選択します。
- ネットワーク スイッチ グループを展開して、検出されたサポートおよび未サポート スイッチを表示します。
- ダイアグラムビューのスイッチコンポーネントをさらに展開して、**基盤**となるコンポーネントを表示できます。**詳細ビュー**セクションで、詳細を表示するコンポーネントを選択します。

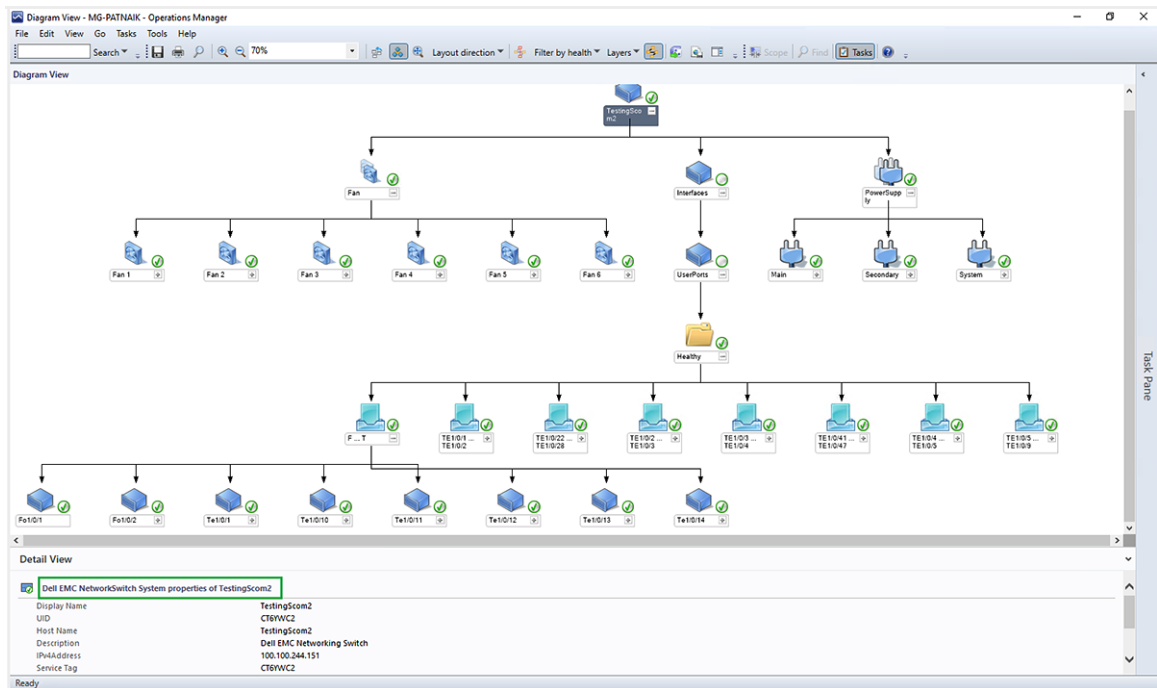


図 8. Dell EMC ネットワーク スイッチのダイアグラム ビュー

ネットワーク スイッチの状態ビューの表示

SCOM コンソールで検出された Dell EMC ネットワーク スイッチの稼働状態を表示するには、次の手順に従います。

1. SCOM コンソールの左側のペインで、**モニタリング**を選択してから、**Dell EMC > Dell EMC 状態ビュー**の順に展開します。
2. **Dell EMC ネットワーク スイッチ状態ビュー**を選択します。
検出されたすべてのネットワーク スイッチの稼働状態が表示されます。OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー、p. 92 を参照してください。
メモ: グループの稼働状態は、すべてのサブコンポーネントの稼働状態のステータスをロールアップしたものです。
3. **詳細ビュー**セクションに詳細を表示するには、[Dell EMC ネットワーク スイッチ状態ビュー] でコンポーネントを選択します。

OMIMSSC アプライアンスを使用した Dell EMC デバイスの管理

トピック：

- OMIMSSC を使用して登録された SCOM で検出されたデバイスのデータを同期する
- OMIMSSC からの Dell EMC デバイスの削除

OMIMSSC を使用して登録された SCOM で検出されたデバイスのデータを同期する

前提条件：

OMIMSSC との同期を実行する前に、認定資格プロフィールを作成します。

OMIMSSC と同期する予定のデバイスのタイプに基づいて、ドロップダウンメニューから、デフォルトプロファイルを iDRAC、CMC、またはネットワークスイッチに設定します。デフォルトでは、デバイスは6時間ごとに同期されます。OMIMSSC アプライアンスを使用してデバイスを同期するには、次の手順を実行します。


1. SCOM の左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **Dell EMC > Dell EMC OpenManage Integrations ビュー > Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** の順にクリックします。
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. 資格情報を入力して、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. **モニタリング**を選択して、同期するデバイスタイプに対応するリンクをクリックします。
 - PowerEdge サーバーを同期するには、**サーバーの表示**をクリックします。
 - CMC またはシャーシを同期するには、**モジュラー型システムの表示**をクリックします。
 - ネットワークスイッチを同期するには、**ネットワークスイッチの表示**をクリックします。
5. **<デバイスタイプ>の表示**ページでデバイスを選択し、**MSSC との同期**をクリックします。
6. 確認のメッセージが表示されたら、**はい**をクリックします。

ジョブが作成され、登録された SCOM 内の選択したデバイスのデータが OMIMSSC と同期されます。

OMIMSSC からの Dell EMC デバイスの削除

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **Dell EMC OpenManage Integration ビュー > OpenManage Integration Dashboard** の順にクリックします。
3. 管理者として OMIMSSC にログインします。
4. **モニタリング**を選択して、削除するデバイスタイプを選択します。たとえば、サーバーを削除するには、**サーバーの表示**をクリックします。
OMIMSSC によって監視されているデバイスのリストが表示されます。
5. **<デバイスタイプ>の表示**ページで、デバイスを選択します。
6. **削除**をクリックします。
7. 確認のメッセージが表示されたら、**はい**をクリックします。

OMIMSSC からデバイスを削除するジョブが開始されます。ジョブのステータスを表示するには、**ジョブおよびログ** ページを参照してください。削除処理には数分かかります。

 **メモ:** 削除操作が SCOM コンソールからトリガーされた場合、オブジェクトを削除するには1回の検出サイクルが必要です。

OMIMSSC 管理ポータルと OpenManage Integration Dashboard でのジョブの表示

OMIMSSC で開始されたタスクに関するすべての情報と、ジョブの進行状況のステータスを表示できます。また、ジョブおよびログ ページでサブタスクを表示できます。ジョブをフィルタリングして、特定カテゴリのジョブを表示することもできます。OMIMSSC 管理ポータルと OpenManage Integration Dashboard のジョブを表示できます。

ジョブ名はユーザーから提供されるか、システムによって生成され、サブタスクは管理対象サーバーの IP アドレスに応じて命名されます。サブタスクを展開して、そのジョブのアクティビティ ログを表示します。ジョブには次の 4 つのカテゴリがあります。

OMIMSSC で定義されるジョブには、次のようにさまざまな状態があります。

- キャンセル済み：手動でキャンセルされたか、OMIMSSC が再起動したため、ジョブはキャンセルされました。
- 成功：ジョブは正常に完了しました。
- 失敗：ジョブを正常に実行できませんでした。
- 進行中：ジョブは実行中です。
- スケジュール：ジョブは将来の時刻に開始するようにスケジュールされています。
- 待機中：ジョブは実行開始のためのキュー内にあります。
- 繰り返し：ジョブは一定の時間間隔で繰り返し実行されます。

メモ: 複数のジョブが同時に同じサーバーに送信されると、ジョブは失敗します。そのため、時間を分けてジョブをスケジュールしてください。

トピック:

- [OMIMSSC でのジョブのステータス](#)
- [OMIMSSC でのジョブの表示](#)
- [OMIMSSC でのアプライアンス関連のログの表示](#)
- [OMIMSSC での汎用ログの表示](#)
- [OMIMSSC ジョブのキャンセル](#)

OMIMSSC でのジョブのステータス

- 実行中 - 現在実行中であるか進行中の状態であるジョブを示します。
- 履歴 - 過去に実行されたジョブとそのジョブのステータスを示します。
- スケジュール - 将来の日時にスケジュールされているジョブを示します。また、スケジュールされたジョブをキャンセルすることもできます。
- 汎用ログ - サブタスクに固有ではない OMIMSSC アプライアンス固有の共通ログ メッセージ、およびユーザー名とコンソール FQDN を指定して各ユーザーのその他のアクティビティを示します。
- Dell EMC OMIMSSC 管理ポータル - すべての OMIMSSC ユーザーから開始されたジョブを示します。
- OMIMSSC - ユーザーおよびコンソールに固有のジョブを示します。


OMIMSSC でのジョブの表示

OMIMSSC 管理ポータルまたは OpenManage Integration Dashboard を使用して (SCOM コンソール自体で表示可能)、さまざまなタイプのジョブのステータス (実行中、スケジュール、完了 (履歴)) を表示できます。ジョブのステータスを表示するには、OMIMSSC ページで次の手順を実行します。

1. 管理者として OMIMSSC アプライアンスにログインします。
2. 左ペインで、**ジョブとログセンター**をクリックします。
3. Dell EMC OMIMSSC コンソールで、**ジョブおよびログセンター**をクリックします。
4. 実行中、スケジュール済み、履歴などのジョブの特定のカテゴリを表示するには、それぞれのタブをクリックします。


選択したカテゴリの下にジョブのリストが表示されます。ジョブは、OMIMSSC によって監視されるデバイスに基づいて分類されます。

5. デバイスで実行されているジョブに関する情報を表示するには、ジョブ名を展開します。さらに展開すると、ジョブのログメッセージが表示されます。
6. (オプション) さまざまなカテゴリのジョブを表示するには、フィルターを使用します。ステータス列にステータスを表示することもできます。

 **メモ:** ジョブに関連する一般的なログメッセージはすべて、**汎用**タブにリストされ、[実行中] または [履歴] タブにはリストされません。

OMIMSSC でのアプライアンス関連のログの表示

アプライアンス ログ - OMIMSSC の再起動など、すべての OMIMSSC アプライアンス固有のログメッセージを表示します。

 **メモ:** アプライアンスログメッセージは、管理ポータルからのみ表示できます。

OMIMSSC での汎用ログの表示

汎用ログ - [実行中]、[履歴]、および [スケジュール] タブでリストされるジョブ全体に共通するすべてのログメッセージが表示されます。これらのログは、コンソールとユーザーに固有です。

OMIMSSC ジョブのキャンセル

ジョブがスケジュール済み状態であることを確認します。OMIMSSC ジョブをキャンセルするには、次のようにします。

1. OMIMSSC で、次のいずれかを実行します。
 - ナビゲーションペインで、**メンテナンスセンター** をクリックし、**ジョブの管理** をクリックします。
 - ナビゲーションペインで、**ジョブとログセンター** をクリックし、**スケジュール** をクリックします。
2. キャンセルするジョブを選択し、**キャンセル** をクリックし、確定するには **はい** をクリックします。


OMIMSSC モニタリング機能用の SCOM コンソールでのタスクの実行

トピック：

- SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行
- OMIMSSC モニタリング機能を使用した Dell EMC デバイス上で実行されるタスク

SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC** を展開します。
3. **ダイアグラム ビュー**、**状態ビュー**、または**アラート ビュー**のいずれかを展開します。
4. タスクを実行するデバイスを選択します。
デバイスによって使用されるモニタリング機能を使用して実行可能なタスクのリストが、SCOM コンソールの**タスク**ペインに表示されます。
5. **タスク**ペインで、実行するタスクをクリックします。
タスクが開始され、タスクが正常に実行されると、タスクの概要が表示されます。

 **メモ:** 一部のタスクには、正常に実行するための前提条件があります。

OMIMSSC モニタリング機能を使用した Dell EMC デバイス上で実行されるタスク

デバイスまたはコンポーネントを選択すると、関連するタスクが SCOM コンソールの**タスク**ペインに表示されます。これは、OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能を使用して Dell EMC デバイス上で実行できるタスクのリストです。

SCOM コンソールで実行される OMIMSSC タスク	OMIMSSC モニタリング機能		
	サーバーおよびラック型ワークステーション (iDRAC WS-Man)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
ノード インターフェイスの確認	はい	はい	いいえ
保証情報の取得	はい	いいえ	いいえ
Dell OpenManage Server Administrator(モノリス型サーバー)の起動	はい	いいえ	いいえ
Dell EMC Remote Access Console の起動	はい	いいえ	いいえ
Remote Desktop (モノリス型サーバー)の起動	はい	いいえ	いいえ
iDRAC ハードリセット	いいえ	いいえ	いいえ
ESM ログのクリア	いいえ	いいえ	いいえ

SCOM コンソールで実行される OMIMSSC タスク	OMIMSSC モニタリング機能		
	サーバーおよびラック型ワークステーション (iDRAC WS-Man)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
Dell EMC CMC Console の起動	いいえ	はい	いいえ
電源管理関連のタスク			
電源ステータスのチェック	いいえ	いいえ	いいえ
強制電源オフ	いいえ	いいえ	いいえ
パワーサイクル	いいえ	いいえ	いいえ
正常電源オフ	いいえ	いいえ	いいえ
電源オン	いいえ	いいえ	いいえ
電源リセット	いいえ	いいえ	いいえ
LED 識別表示オン	いいえ	いいえ	いいえ
LED 識別表示オフ	いいえ	いいえ	いいえ

SCOM コンソールでモニタリング機能ベースのタスクを実行するには、SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行、p. 55 を参照してください。

ノードへの接続の確認


ノード インターフェイスの確認タスクを実行することで、選択した Dell EMC デバイスまたは DRAC/iDRAC とそれに対応するインターフェイスが到達可能かどうかを確認できます。タスクが正常に実行されると、サーバーとインターフェイスへの到達可能性のサマリーが表示されます。

PowerEdge サーバーの保証情報の表示

保証情報の取得タスクを実行することで、Dell EMC デバイスの保証ステータスを表示できます。

SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでの OMSA の起動

Dell OpenManage Server Administrator の起動タスクを実行することで、Dell OMSA アプリケーションを起動できます。


 **メモ:** Internet Explorer を使用している場合は、Dell EMC Server Management Pack Suite (DSMPS) タスクがリモート コンソールを開きます。

SCOM コンソールを使用した iDRAC の起動

Dell EMC Remote Access Console の起動タスクを実行することで、Dell iDRAC アプリケーションを起動できます。

SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでのリモート デスクトップの起動

Dell EMC リモート デスクトップの起動タスクを実行することで、Dell EMC モノリス型サーバーでリモート デスクトップを起動できます。

 **メモ:** Dell EMC リモート デスクトップは、Windows オペレーティング システムがインストールされており、管理下ノードでリモート デスクトップが手動で有効化されている場合のみ起動できます。

リモート iDRAC のハード リセット 操作の実行

サーバーのオペレーティングシステムをシャットダウンせずに、iDRAC をリモートでリセットできます。このタスクは、WMI を使用して iDRAC Service Manager (iSM) を介して検出された PowerEdge サーバーでのみ使用可能です。リモートで iDRAC をリセットするには、まずホスト オペレーティングシステムで管理者権限があることを確認する必要があります。

iDRAC をリモートでリセットするには、SCOM コンソールで次の手順を実行します。

1. 左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **Dell EMC > Dell EMC 状態ビュー > Dell EMC サーバー (iSM) 状態ビュー**の順にクリックします。
状態情報が表示され、WMI を使用して iSM を通じて検出されたサーバーが作業中のペインに一覧されます。
3. リモートで iDRAC をリセットするサーバーを選択します。
右ペインの [タスク] セクションに、選択したサーバーで実行できるタスクが表示されます。
4. **iDRAC のハード リセット**をクリックします。
[タスクの実行 - iDRAC のハード リセット] ウィンドウが表示されます。
5. **実行**をクリックします。
[タスクステータス - iDRAC のハード リセット] ウィンドウがリセットの状態が表示されます。
6. **閉じる**をクリックします。
iDRAC は、サーバー オペレーティングシステムをシャットダウンせずに正常にリセットされます。

Embedded Server Management (ESM) ログのクリア

ハードウェア ログとも呼ばれる Server Administrator Embedded Server Management (ESM) ログは、エラー修正コード (ECC)、システムのリセットと起動、およびブローブしきい値の変更など、ハードウェアによって生成されるすべてのシステム イベントのリストを維持します。ハードウェアエラーが表示されたときやシステムが正しく機能しないときに、このログを参照できます。

ESM ログのクリア タスクを実行するには、次の手順を実行します。

1. 左ペインで、**モニタリング**をクリックします。
2. **Dell EMC**を展開します。
3. **ダイアグラム ビュー**、**状態ビュー**、または**アラート ビュー**のいずれかを展開します。
4. タスクを実行するデバイスを選択します。
デバイスによって使用されるモニタリング機能を使用して実行可能なタスクのリストが、SCOM コンソールの**タスクペイン**に表示されます。
5. **タスクペイン**で、**Dell EMC Windows Server タスク > ESM ログのクリア**を選択します。
[タスクの実行] ウィンドウが表示されます。
6. **実行**をクリックします。
選択したデバイスの ESM ログが削除されます。

メモ: ESM ログのクリア タスクを実行すると、タスク実行画面には、開始しているタスクの結果のみが表示されます。たとえば、ESM ログがクリアされていない場合でも、タスク実行画面には、成功したという結果が表示されることがあります。これは、ESM ログのクリア タスクの開始が成功したことを表しています。

電源管理関連のタスク

- Dell EMC PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの電源ステータスを確認する - ライセンス不要バージョンの DSMPs によって監視されているサーバーでのみこのタスクを実行できます。電源ステータスの確認タスクを実行することで、電源ステータスを確認し、IPMI シェルを使用して電源制御タスクを管理することができます。
- オペレーティングシステムをシャットダウンせずに PowerEdge サーバーの電源を切る - 強制電源オフ タスクを実行することで、オペレーティングシステムをシャットダウンせずに、PowerEdge サーバーの電源をオフにすることができます。
- PowerEdge サーバーの電源を入れ直す - 電源サイクル タスクを実行することで、PowerEdge サーバーの電源をオフにしてから、遅延後に再度電源をオンにすることができます。
- PowerEdge サーバーの電源を正常にオフにする - 正常電源オフ タスクを実行することで、オペレーティングシステムをシャットダウンし、その後、PowerEdge サーバーの電源をオフにすることができます。

- PowerEdge サーバーの電源をオンにする - 電源がオフ状態の場合に、電源オン タスクを実行することで、PowerEdge サーバーの電源をオンにすることができます。
- PowerEdge サーバー電源のリセット - 電源がオフ状態の場合に、電源リセット タスクを実行することで、PowerEdge サーバーの電源をオンにすることができます。
- 識別 LED を有効にすることで OMSA ベースのサーバーを識別する - LED 識別表示オン タスクを実行することで、点滅する LED を使用してサーバーを識別する機能を有効にすることができます。同様に、LED 識別表示オフ タスクを実行すると、点滅する LED を使用してサーバーを識別する機能が無効になります。

① **メモ:** アドバンス電源制御 を有効にするには、BMU をデフォルトのパスにインストールします。BMU がデフォルトのパスにインストールされていない場合は、コンソール タスクを作成します。コンソール タスクの作成方法の詳細については、「[識別 LED 使用したデバイスとデバイス電源ステータスの識別](#)」を参照してください。

Dell CMC コンソールの起動

Dell EMC CMC コンソールの起動タスクを実行することで、Dell EMC シャーシにインストールされている Chassis Management Controller (CMC) アプリケーションを起動できます。

OMIMSSC アプライアンスのアップグレード

OMIMSSC アプライアンスは、次の 2 通りの方法で最新バージョンにアップグレードできます。

- デル・テクノロジーズ サポート サイトで入手可能なサービス パックを使用する。
- OMIMSSC アプライアンス データ (設定と構成を含む) をバックアップしてから、最新バージョンの OMIMSSC アプライアンスでバックアップしたファイルを復元する。

トピック :

- サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョンのアップグレード
- OMIMSSC アプライアンス データのバックアップと復元
- OMIMSSC データのリストア

サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョンのアップグレード

OMIMSSC を導入してセットアップした後、必要な重大な欠陥の修正または機能の追加が利用可能になったサービス パックのアップデートが利用可能な場合は、OMIMSSC でサービス パックのアップデート機能を使用してアップグレードすることができます。サービス パックの主なメリットは次のとおりです。

- サービス パック ファイルは、任意の HTTP サーバーに直接保存して、サービス パックのファイルを使用してアップデートを行うことができます。
- これらのサービス パックは段階的に適用することができます。ただし、一度アップデートした場合、ロールバックはできません。
- サービス パックは累積的です。つまり、最新のサービス パックには、以前のすべてのリリースの修正が含まれています。

メモ: サービス パック アップデート機能を使用した、旧バージョンの OMIMSSC から OMIMSSC バージョン 7.2 への OMIMSSC アプライアンスのアップグレードはサポートされていません。旧バージョンの OMIMSSC をアップグレードするには、現在のバージョンのデータのバックアップを作成し、OMIMSSC バージョン 7.2 アプライアンスでそのバックアップを復元します。バックアップファイルの作成と OMIMSSC アプライアンス データの復元の詳細については、本書の「バックアップと復元」の項を参照してください。

サービス パックを使用して OMIMSSC アプライアンスのバージョンをアップグレードするための一般的な手順

1. OMIMSSC をアップグレードするための前提条件 : ジョブが実行されていないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、完了するまで待ちます。
2. 使用可能な最新の OMIMSSC サービス パックのアップデートがないか確認します。
 - a. OMIMSSC 管理ポータルで、[サービス パックとアップデートの適用] ページに移動します。
 - b. アップデートのチェックをクリックします。
 - c. [サービス パック アップデート] ページには、現在の OMIMSSC バージョンに関するデータと、アップデートされた OMIMSSC アプライアンスのバージョン情報 (存在する場合) が表示されます。
3. サポート サイトからサービス パックをダウンロードします。
4. ダウンロードした Service Pack アップデートをリポジトリにコピーします。詳細については、[OMIMSSC サービス パックのリポジトリへの保存](#)、p. 60 を参照してください。
5. Service Pack アップデートをインストールします。[オフラインまたはオンラインで保存されたサービス パックを使用した OMIMSSC のアップグレード](#)、p. 60 を参照してください。

OMIMSSC サービス パックのリポジトリへの保存

OMIMSSC 管理ポータルで、OMIMSSC バージョンをアップグレードするための最新のサービス パックが入手可能であることを確認した後、次の手順を実行して、サービス パックをアップグレードに使用できるようにオフラインに保存します。

1. ダウンロードした Service Pack をリポジトリに保存します。
2. ダウンロードしたサービス パックをダブルクリックして、ファイルを解凍します。
3. サービス パックのファイル形式が HTTP サーバーでサポートされていることを確認します。サポートされていない場合は、HTTP 管理者に問い合わせてサポートを追加してください。

次のファイル形式がサポートされています。

- RPM
- XML
- TXT
- BZ2。BZ2 ファイル形式を有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. リポジトリ ファイルが保存されているサーバーで、IIS マネージャーを起動します。
 - b. ホスト名を展開します。サイト > デフォルト Web サイトをクリックします。
 - c. アクションペインで、追加をクリックします。
 - d. ファイル名拡張子を BZ2、MIME タイプを APP または BZ2 として入力します。
 - e. OK をクリックします。

オフラインまたはオンラインで保存されたサービス パックを使用した OMIMSSC のアップグレード

1. OMIMSSC 管理ポータルにログインして、設定 > サービス パック アップデートを選択します。
2. サービス パックとアップデートの適用ページのリポジトリ URL ボックスで、次の手順を実行します。
 - オフラインで保存されたサービス パックを使用してアップグレードするには、次の形式で URL 情報を入力します。
https://<servername>:<portname>/<repository path>
 - オンラインで保存されたサービス パック (linux.dell.com/repo/omimssc-scom) を使用してアップグレードするには、次の形式で URL 情報を入力します。**https://<servername>:<portname>/<repository path>**例: **https://linux.dell.com/repo/omimssc-scom/latest/**。リポジトリ URL にアンダースコア (_) を入力しないでください。

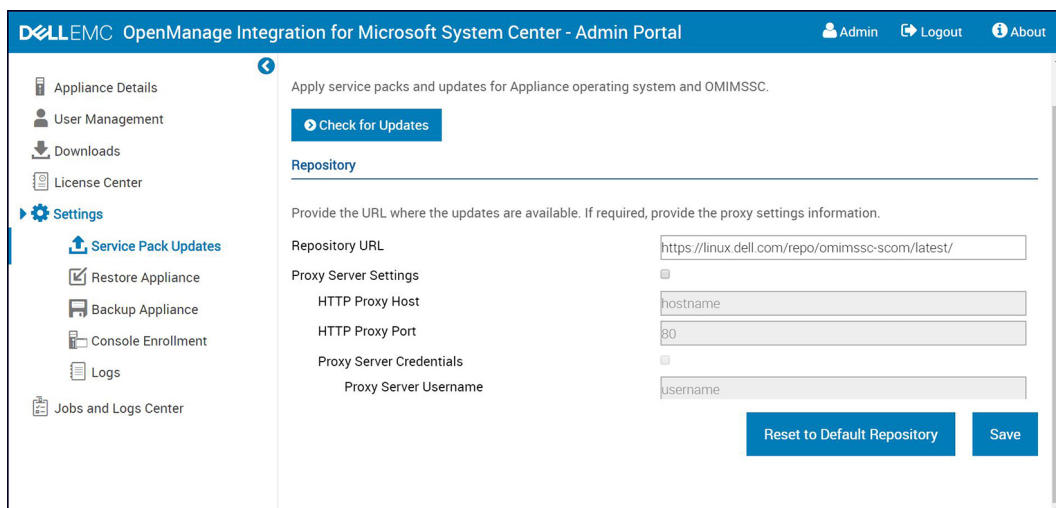


図 9. サービス パック アップデート ウィザード

3. デフォルトのリポジトリの宛先パスをリセットするには、デフォルトのリポジトリにリセットをクリックします。
4. 必要に応じて、プロキシ サーバー設定チェック ボックスを選択し、プロキシ サーバー情報と、サーバーにアクセスするための認証情報を入力します。
5. アップデートのチェックをクリックします。
現在のバージョンの OMIMSSC および Service Pack が表示されます。

6. 適用、OK の順にクリックします。
7. 左ペインで**設定** > **ログ**の順にクリックします。
8. アップグレード ログ ディレクトリーで、サービス パックのアップグレードのログ ファイルを表示またはダウンロードするには、次の手順を実行します。
 - a. <service pack version number>ディレクトリーを選択します。
たとえば、**7.1.1.2035** ディレクトリーを使用して、サービス パックのアップグレードのログ ファイルを表示またはダウンロードすることができます。
9. OMIMSSC 管理ポータルにログインして、ブラウザー キャッシュの履歴を削除します。
10. サービス パックのアップデートが完了したら、OMIMSSC アプライアンスを手動で再起動します。

OMIMSSC アプライアンス データのバックアップと復元

OMIMSSC のバックアップ機能は、登録済みのすべての SCOM コンソール、検出されたデバイスとライセンス情報、OMIMSSC ダッシュボードで実行中のジョブ、認定資格プロフィール、構成設定項目に関する情報を保存します。OMIMSSC アプライアンスをアップグレードするには、バックアップされたファイルを OMIMSSC アプライアンスの最新バージョンで復元します。

- ① メモ:** サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョン 7.2 へのアップグレードはサポートされていません。アップグレードを実行するには、アプライアンスのバックアップ ファイルを作成し、OMIMSSC バージョン 7.2 アプライアンスでそのバックアップ ファイルをリストアします。詳細については、このガイドの OMIMSSC のバックアップとリストアに関するそれぞれのセクションを参照してください。

OMIMSSC 7.1 および OMIMSSC 7.1.1 のデータのバックアップ

バックアップ機能は、OMIMSSC バージョン 7.1 および 7.1.1 からデータをバックアップして、バックアップ ファイルを作成します。OMIMSSC ダッシュボードに実行中のジョブがある場合は、ジョブが完了するまで待ってから、アプライアンス データをバックアップします。

OMIMSSC アプライアンス データのバックアップは、次のようにして作成します。

1. OMIMSSC アプライアンス VM を起動します。
テキストベース ユーザー インターフェイス (TUI) が表示されます。
2. 管理パスワードを入力して、Enter を押します。
アプライアンス構成オプションが表示されます。
3. 矢印キーで**アプライアンス データのバックアップ**に移動して、Enter を押します。

OMIMSSC 管理ポータルを使用した OMIMSSC 7.2 のデータのバックアップ

動作条件：

CIFS 共有フォルダーが作成されていることを確認してください。

バックアップ機能により、バージョン 7.2 からアプライアンス データがバックアップされ、カスタム CIFS 共有の場所にバックアップ ファイルが作成されます。

OMIMSSC バージョン 7.2 アプライアンスのデータのバックアップは、次の手順に従って行います。

1. パスワードを入力して、デフォルトの管理者として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
[管理ポータル] ログイン ページが表示されます。
2. 左側のペインで、**設定** > **バックアップ アプライアンス**の順に選択します。
[バックアップの設定と詳細] ウィザードが表示されます。

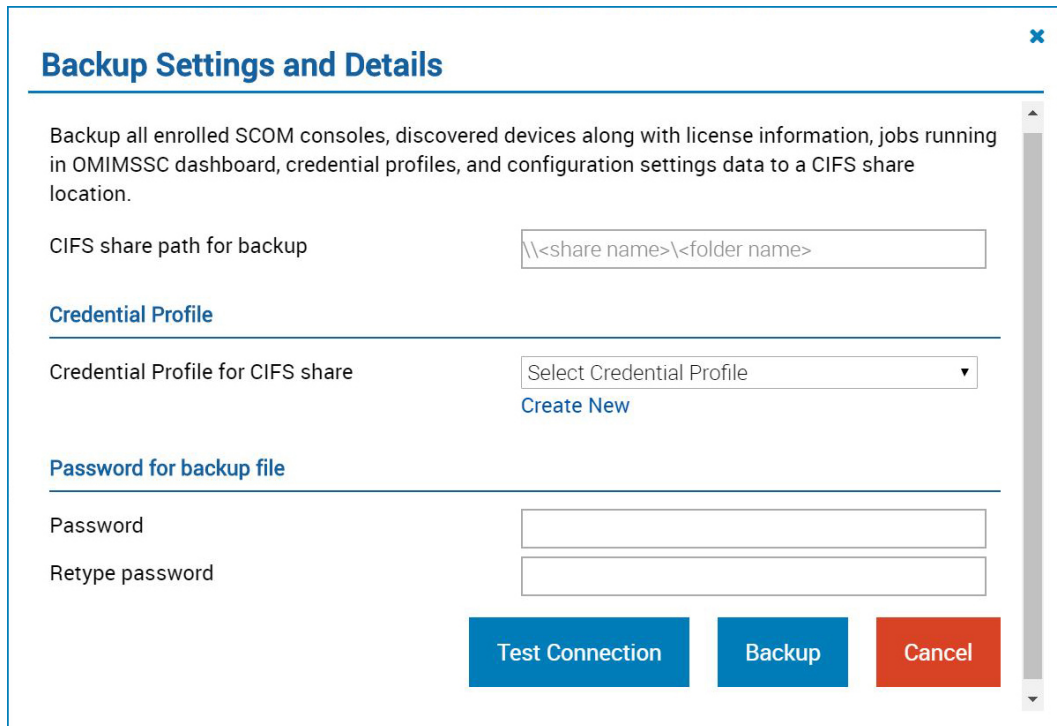


図 10. [OMIMSSC アプライアンスのバックアップ] ウィザード

3. バックアップ用の **CIFS 共有** パスボックスに、バックアップファイルの CIFS 共有ファイル フォルダーのパスを入力します。
 - ① **メモ:** バックアップ用の CIFS フォルダーは、SCOM 管理サーバーと同じドメインにあるようにしてください。
4. **CIFS 共有の認定資格プロファイル** ドロップダウン メニューで、共有パスにアクセスするための認定資格プロファイルを選択します。

Windows 認定資格プロファイルを作成するには、**新規作成** をクリックします。
5. バックアップ ファイルを暗号化するには、強力なパスワードを入力して再度確認します。
6. **テスト接続** をクリックします。

CIFS 共有に問題なく接続できると、メッセージが表示されます。
7. **バックアップ** をクリックします。

バックアップ操作が完了したことを示すメッセージが表示されます。

 - ① **メモ:** バックアップ ファイルは、指定された CIFS 共有に ZIP ファイルとして保存されます。
8. **閉じる** をクリックします。

OMIMSSC データのリストア

登録済みのすべての SCOM コンソール、検出されたデバイスとライセンス情報、OMIMSSC ダッシュボードで実行中のジョブ、認定資格プロファイル、デバイス検出設定の設定項目、プロキシ管理サーバーに関する情報がリストアされます。OMIMSSC データをリストアするには、次の手順を実行します。

1. デフォルトの管理者として、OMIMSSC にログインします。
2. 左ペインで、**設定 > アプライアンス** をリストアの順に選択します。

[**アプライアンスをリストア**] ウィザードが表示されます。
3. 情報とアラート メッセージを読みます。
4. 次の OMIMSSC アプライアンスがリストアされます。
 - [IP アドレスを使用した OMIMSSC 7.1 および 7.1.1 バージョンのデータのリストア](#)、p. 63。
 - [CIFS 共有を使用した OMIMSSC 7.2 のデータのリストア](#)、p. 63

IP アドレスを使用した OMIMSSC 7.1 および 7.1.1 バージョンのデータのリストア

1. アプライアンス アドレスボックスに、バックアップ データが保存されている OMIMSSC 7.1 または 7.1.1 アプライアンスの IP アドレスを入力します。
2. **登録済み SCOM MS FQDN** ボックスに、OMIMSSC に登録されている SCOM 管理対象サーバーの FQDN を入力します。登録済み SCOM 管理サーバーの FQDN の取得、p. 64 を参照してください。

Restore Appliance

previous appliance. This will ensure seamless restore of the appliance data.

When you click Restore, the current OMIMSSC Admin Portal session is closed, and the OMIMSSC Appliance restarts. To view the status, log in to OMIMSSC Admin Portal after sometime, and view the log files.

Restore Using an IP Address or Custom Path

Restore Appliance using an IP Address

Restore Appliance from a custom CIFS share

Appliance IP Address

Enrolled SCOM MS FQDN (Recommended)

Restore Cancel

図 11. IP アドレスを使用したアプライアンスのリストア

メモ: 登録済み SCOM 管理サーバーの FQDN パラメーターが未入力であるか誤って入力されると、Dell EMC Feature Management Dashboard で矛盾が発生する可能性があります。リストア処理が完了したら、Dell EMC Feature Management Dashboard にインストールされているすべての機能について、使用可能なバージョンをアップデートします。

3. リストアを選択します。
OMIMSSC 7.1 または OMIMSSC 7.1.1 のデータがリストアされ、アプライアンスが自動的に再起動します。リストア操作のステータスを表示するには、[OMIMSSC アプライアンス データのリストア ステータスの表示](#)、p. 65 を参照してください。

CIFS 共有を使用した OMIMSSC 7.2 のデータのリストア

1. **CIFS 共有内のバックアップ ファイルの場所** ボックスに、次の形式で CIFS 共有ファイルの場所 (バックアップを保存した場所) を入力します。 \\<CIFSsharepath>\<backupfilename>.tar.gz

メモ: CIFS 共有内のバックアップ ファイルの場所は、SCOM 管理サーバーと同じドメインにあるようにしてください。

2. **CIFS 共有の認定資格プロファイル** ドロップダウン メニューで、OMIMSSC が共有パスにアクセスするために使用する必要がある認定資格プロファイルを選択します。Windows 認定資格プロファイルを作成するには、**新規作成** をクリックします。

図 12. カスタム CIFS 共有を使用したアプライアンスのリストア

- パスワードボックスに、暗号化されたバックアップファイルのパスワードを入力します。

メモ: バックアップされたファイルは、パスワードで暗号化されます。したがって、パスワードが正しくないと、リストア処理は失敗します。

- テスト接続をクリックします。
接続が正常に開始されると、メッセージが表示されます。
- リストアをクリックします。
リストア処理が完了したことを示すメッセージが表示されます。

When you restore an OMIMSSC appliance, the current OMIMSSC admin portal session is closed, and the OMIMSSC appliance restarts. To view the status, log in to the OMIMSSC admin portal after approximately 30 minutes, and view the log files

- 続行するには、はいをクリックします。
OMIMSSC 7.2 のデータがリストアされ、アプライアンスが自動的に再起動します。リストア処理のステータスを表示するには、[OMIMSSC アプライアンス データのリストア ステータスの表示](#)、p. 65 を参照してください。

登録済み SCOM 管理サーバーの FQDN の取得

- SCOM コンソールを起動します。
- 左側のペインで、オーサリングを選択します。
- 管理バック オブジェクトをクリックして、オブジェクトの検出をダブルクリックします。
- 検索対象ボックスで、Dell EMC 機能管理ホスト検出を検索します。
- 右クリックして、オーバーライド > サマリー > クラスのすべてのオブジェクト：管理サーバーの順に選択します。
オーバーライド サマリー ウィザード ダイアログボックスが表示されます。
- クラス=オブジェクトの検出、パラメーター=FMP ホスト FQDN を探し、対応する MS FQDN 名の有効な値を探します。

OMIMSSC アプライアンス データのリストア ステータスの表示


OMIMSSC アプライアンス データをリストアしたら、すべてのサービスが開始されるまで 15 分間ほど待ってから、ログインしてください。アプライアンスのデータのリストアのために OMIMSSC で実行されているジョブのステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. デフォルトの管理者として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. リストアのログを表示するには、**設定を選択** > **ジョブとログ センター**をクリックします。
3. **汎用ログ** > **アプライアンス ログ**をクリックします。

i **メモ:** OMIMSSC アプライアンスのバージョン 7.1 と 7.1.1 からリストアする場合は、すべての管理バックが OMIMSSC 7.2 バージョンにアップデートされるまで待ちます。また、Feature Management Dashboard がアップデートされ、アプライアンスが自動的に再起動されたことを確認します。1 時間ほど待ってから、アップデートされたダッシュボードを表示します。

i **メモ:** OMIMSSC データをリストアしたら、データがバックアップされていた旧バージョンの OMIMSSC アプライアンスの VM の電源をオフにします。

OMIMSSC に登録されている管理サーバーの登録解除 (登録解除)

1. デフォルトの管理者として管理ポータルにログインします。
2. 左側のペインで、**設定**を展開して、**コンソール登録**をクリックします。
登録済みのすべての管理サーバーが表示されます。
 **警告:** 管理グループの管理サーバーを登録解除する前に、いずれかの管理サーバーで OMIMSSC アプライアンスの共有の場所を開いている場合はそれを閉じます。
3. 登録解除する SCOM コンソール (管理サーバー) を選択して、**登録解除**をクリックします。

登録解除の開始時に SCOM コンソールにアクセスできないと、この処理を実行する前にコンソールをオンラインにすることを推奨するメッセージが表示されます。登録解除を続行するには、ユーザーによって明示的に登録された SCOM コンソールをクリーンアップします。詳細については、[登録解除中にアクセスできなくなった SCOM コンソールの手動クリーンアップ](#)、p. 70 を参照してください。

管理グループ内に SCOM コンソールが複数ある場合、このプロセスではアプライアンスから管理グループ内のすべてのコンソールの登録が解除されます。登録の解除が完了すると、アプライアンスを使用してモニタリングされているすべての Dell 管理パックと Dell EMC デバイスが、SCOM コンソールから削除されます。

トピック：

- [SCOM コンソールの登録解除ステータスの表示](#)

SCOM コンソールの登録解除ステータスの表示

OMIMSSC 管理ポータルから SCOM コンソールを登録解除した後、登録解除のステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. アプライアンス ログを表示します。
3. **ジョブとログセンター**を選択します。
4. **履歴**をクリックします。

SCOM が設定されている構成管理パックに適用された変更は、元に戻りません。適用される変更の詳細については、[Dell EMC OMIMSSC Configuration Management Pack のダウンロード](#)、p. 28 を参照してください。

OMIMSSC VM の削除

OMIMSSC アプライアンス VM を削除する前に、1つまたは複数の登録済み管理サーバーの登録解除を実行したことを確認します。OMIMSSC アプライアンス VM を削除するには、次の手順を実行します。

1. Windows サーバーの Hyper-V Manager で、OMIMSSC を使用している VM 上で、**アプライアンス VM** を右クリックして、**オフにする**をクリックします。
2. **アプライアンス VM** を右クリックして、**削除**をクリックします。

トラブルシューティング

トピック：

- OMIMSSC アプライアンスの導入後、OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられない
- OMIMSSC アプライアンスを導入した後、OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録が失敗するか、管理パックが正常にインストールされない
- SCOM コンソールで OpenManage Integration Dashboard を起動できない
- OMIMSSC アプライアンスに接続できない
- ローカル アカウントとドメイン アカウントのユーザー名は一致しているにもかかわらずパスワードが異なる場合に発生した問題
- OMIMSSC による Dell EMC デバイスのデータ同期の問題の解決
- 登録解除中にアクセスできなくなった SCOM コンソールの手動クリーンアップ
- OMIMSSC と SCOM コンソール間の接続ができない
- Mozilla Firefox ブラウザーを使用して OMIMSSC 管理ポータルにログインできない
- デバイスを検出するために OMIMSSC で実行しているジョブが 5 時間を過ぎても進行状態のままになる
- OMIMSSC の再起動後にデバイスを検出および監視できない
- イベント ID 33333 : SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する
- Dell EMC Feature Management Dashboard での問題の解決

OMIMSSC アプライアンスの導入後、OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられない

アプライアンスを作成して操作すると、コマンドライン インターフェイス (CLI) で IP アドレスが割り当てられなかったり表示されなかったりします。

対策：物理スイッチにマップされている仮想スイッチの設定が正しいことを確認してから、OMIMSSC アプライアンスに接続します。

OMIMSSC アプライアンスを導入した後、OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録が失敗するか、管理パックが正常にインストールされない


対策：

- OMIMSSC アプライアンスの導入中に、VM のゲスト時間とホストを同期するオプションが有効になっていることを確認します。
- OMIMSSC VM ネットワークの設定中に、IPv4 構成で固定 IP アドレスを割り当てる場合は、IP アドレスを入力して変更を保存します。CLI で **ネットワークの設定** オプションを再度開いて、ホスト名を変更します。[OMIMSSC VM のネットワーク設定](#)、p. 24 を参照してください。

SCOM コンソールで OpenManage Integration Dashboard を起動できない

登録後に、OpenManage Integration Dashboard が SCOM コンソールにロードされない場合、または OMIMSSC アプライアンスの IP に変更がある場合。

回避策 - ユニット モニターで OMIMSSC アプライアンスの IP をアップデートします。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**オーサリング**を選択します。
2. **オーサリング > 管理パック オブジェクト > モニター**の順に選択します。
3. **検索対象**フィールドで、管理サーバーの下にある **Dell EMC SDK Override Appliance IP**を検索します。
4. **Dell EMC SDK Override Appliance IP** を右クリックし、**オーバーライド > モニターのオーバーライド > クラスの全オブジェクト**の順にクリックします。
プロパティの**オーバーライド**ウィザードが表示されます。
5. パラメーター名で **Dell EMC Appliance IP** を選択します。
6. **オーバーライド**値を更新し、**OK** をクリックします。
 **メモ:** 他の上書きパラメーターを選択していないことを確認します。

OMIMSSC アプライアンスに接続できない

OMIMSSC アプライアンスを導入して、OMIMSSC アプライアンス アイコンをダブルクリックすると、次のメッセージが表示されます。

```
Connection to server failed.
```

対策：

- OMIMSSC アプライアンスの IP および FQDN を信頼できるサイトとして追加します。
- DNS で、**前参照ゾーン**と**逆引き参照ゾーン**にアプライアンスの IP および FQDN を追加します。
- C:\ProgramData\VMMLogs\AdminConsole ファイルにエラーメッセージがないか確認します。

ローカル アカウントとドメイン アカウントのユーザー名は一致しているにもかかわらずパスワードが異なる場合に発生した問題

管理サーバーまたはプロキシ管理サーバーで、ドメイン ユーザー アカウントとローカル ユーザーのユーザー名が同じでパスワードが異なると、次のような問題が発生します。

- OMIMSSC アプライアンスと SCOM コンソールの間の接続を正常にテストできない。
- Dell EMC OpenManage Integration Dashboard で検出ジョブを正常に実行しても、それぞれの Dell EMC デバイスの状態ビューとダイアグラム ビューに SCOM オブジェクトが検出されない。
- SCOM コンソールで検出されたデバイスが、Dell EMC デバイスの状態ビューとダイアグラム ビューでモニタリングされていない状態のままになる。

例：

- ドメイン ユーザー アカウント：domain\user1、pwd1
- ローカル ユーザー アカウント：user1、Pwd2

ユーザーがこのドメイン ユーザー アカウントで登録しようとしても、テスト接続操作がうまくいきません。

回避策：OMIMSSC アプライアンスに SCOM コンソールを登録するときに、ドメイン ユーザー アカウントとローカル ユーザー アカウントに別のユーザー名を使用するか、1つのユーザー アカウントをローカル ユーザーとして使用します。

Dell EMC デバイスを検出する前に、管理サーバーとプロキシ管理サーバーで、ドメイン ユーザー アカウントの設定を変更するようにします。

OMIMSSC による Dell EMC デバイスのデータ同期の問題の解決

認証情報、HTTPS ポート番号、SNMP ポート番号、またはコミュニティ文字列が無効であるために、SCOM で検出されたデバイスが OMIMSSC と同期されないことがあります。その場合、OMIMSSC はデバイスを検出できないため、各デバイスは IP アドレスでリストされます。同期のエラーを解決するには、関連認証情報を入力する必要があります。

同期のエラーは、次の手順に従って解決します。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**モニタリング**を選択します。
2. **Dell EMC OpenManage Integrations ビュー > OpenManage Integration Dashboard** を選択します。
3. 管理者として OMIMSSC にログインします。
4. **モニタリング > 同期エラーの解決**を選択します。
同期に失敗したデバイスの IP アドレスのリストが表示されます。
5. デバイスを選択して、デバイスの認定資格プロフィールを選択します。
デバイス認定資格プロフィールを作成するには、**新規作成**をクリックします。[OMIMSSC でのデバイス認定資格プロフィールの作成](#)、p. 34 を参照してください。
6. ジョブ名を入力し、必要に応じて**ジョブリストに移動**チェックボックスを選択すると、ジョブが送信された時点で自動的にジョブのステータスが表示されます。
7. **終了**をクリックします。

登録解除中にアクセスできなくなった SCOM コンソールの手動クリーンアップ

登録解除中に SCOM コンソールにアクセスできなくなり、強制的に登録解除すると、アクセスできなくなったコンソールにはインストールされていた管理パックが残ります。SCOM コンソールでインストールされている管理パックを削除するには、次のようにします。

1. SCOM コンソールの左ペインで、**オーサリング**を選択します。
2. グループのリストを表示するには、**グループ**を選択します。
3. グループのリストで **DellProxyMSGGroup** を選択します。
4. グループに追加された明示的なメンバーがないか確認し、削除します。
5. グループを右クリックして、**削除**をクリックします。
DellProxyMSGGroup が削除されます。
6. 左側のペインで**管理**を選択します。
7. SCOM 2016 以降でインストールされている管理パックのリストを表示するには、**管理 > 管理パック > インストール済み管理パック**を選択します。
8. コンソールから管理パックを削除するには、次の順序で管理パックを右クリックして**削除**をクリックします。
 - Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連ユーティリティ
 - Dell EMC Managed Server iSM Management Pack
 - Dell EMC Server OpenManage Integration Dashboard ビュー
 - Dell EMC Windows Server (拡張可能エディション)
 - Dell EMC Feature Management Task Refresher
 - Dell EMC Feature Management Override
 - Dell EMC Managed Server Model Library
 - Dell EMC グループ作成
 - Dell EMC Server Operations Library
 - Dell EMC 機能管理
 - Dell EMC シャーシ CMC ビュー
 - Dell EMC シャーシ CMC モデル
 - Dell EMC CMC Operations Library
 - Dell EMC サーバ表示
 - Dell EMC SDK ApplianceIP Override
 - Dell EMC Server Model
 - Dell EMC Server View Library
 - Dell EMC Server Model Library
 - Dell EMC CMC モデル
 - Dell EMC AgentResource 0 Override
 - Dell EMC NetworkSwitch ビュー
 - Dell EMC NetworkSwitch
 - Dell EMC PerformanceThreshold Monitor Override
 - Dell EMC Base Hardware Library
 - Dell EMC Operations Library Common

- Dell EMC Appliance Information Management Pack
 - Dell EMC Configuration Management Pack
- すべての管理バックとオーバーライドが削除されます。

9. 次のパスたどって、ローカル ドライブにある Dell Management Pack フォルダを削除します。 %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\
10. レジストリー エディターで Dell Server Management Pack Suites のレジストリー エントリーを削除するには、次の手順に従います。
 - a. **HKEY_LOCAL_MACHINE** > **ソフトウェア** > **Dell** の順に選択します。
 - b. **Dell Server Management Pack suite** を右クリックして、レジストリー エントリーを削除します。

OMIMSSC と SCOM コンソールの間の接続ができない

OMIMSSC が導入されているサーバーを再起動すると、OMIMSSC アプライアンスと SCOM コンソールの間の接続が切れます。これは、ユーザーの SCOM コンソールの実行ポリシーがアクティブになっていないためです。SCOM コンソールのユーザー アカウントを使用して SCOM コンソール サーバーにログインして、実行ポリシーをアクティブにします。ただし、ログイン後も、次のタスクが完了するまで接続は復元されません。

1. PowerShell 実行ポリシーを次のように設定します。
 - ローカル システム = RemoteSigned
 - SCOM コンソール アカウント = 制限なし

ポリシー設定の詳細については、次の Microsoft のマニュアルを参照してください。

 - PowerShell 実行ポリシー : https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_execution_policies?view=powershell-7
 - PowerShell グループ ポリシー : https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_group_policy_settings?view=powershell-7
2. 実行ポリシーを設定したら、SCOM コンソール サーバーを再起動します。

Mozilla Firefox ブラウザーを使用して OMIMSSC 管理ポータルにログインできない

Mozilla Firefox ブラウザーを使用して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスすると、次の警告メッセージが表示されます。

Secure Connection Failed

回避策 - ブラウザーの Admin portal の前回のエントリーから作成された証明書を削除します。


デバイスを検出するために OMIMSSC で実行しているジョブが 5 時間を過ぎても進行状態のままになる

OMIMSSC から実行されたデバイス検出ジョブが 5 時間を過ぎても実行中のタスク リストにスタックしたままです。

対策 : 同じ IP アドレス セットのデバイス検出ジョブを新たに作成して実行します。

OMIMSSC の再起動後にデバイスを検出および監視できない

OMIMSSC を再起動すると、SCOM コンソールと OMIMSSC アプライアンスとの間の接続が切断されます。アプライアンスが起動された後、次の検出およびモニタリング サイクルの間に、Dell EMC デバイスのすべての検出およびモニタリング機能が復元されます。

 **メモ:** 検出およびモニタリング サイクルのデフォルトは 24 時間です。

24 時間のサイクルより前に Dell EMC デバイスの検出およびモニタリングを開始するには、オーバーライド値を変更してください。

オーバーライド値を変更するには、次の操作を行います。

1. OMIMSSC にログインします。
2. **プロファイルおよび設定 > 設定** の順に選択します。
3. **編集** タブをクリックし、オーバーライド値を編集するデバイスを選択します。
4. 検出間隔列で、オーバーライド値を編集して、**適用** をクリックします。
オーバーライド値を変更すると、ただちに検出が再度トリガーされます。
(オプション) **ジョブとログセンター > スケジュールジョブ** を選択すると、適用された変更が表示されます。

イベント ID 33333 : SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する

iSM 管理パックがプロキシ エージェントを検出しようとする時、管理サーバーでイベント ID 33333 の警告イベントが生成されます。このイベントが発生しないようにするには、プロキシ エージェントをターゲットとする iSM 検出を無効にする必要があります。

プロキシ エージェントで実行される iSM 検出を無効にし、イベント ID 33333 が再度生成されないようにするには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールにログインします。
2. 左ペインで、**オーサリング > 管理パック オブジェクト** を選択し、**オブジェクト検出** をダブルクリックします。
3. **検索対象** フィールドで、**iSM** を検索します。
4. **検出タイプ : Dell サーバー > Dell サーバーの検出** を選択します。
5. **Dell サーバーの検出** を右クリックして、**オーバーライド > オブジェクト検出のオーバーライド > 特定のグループの順** にクリックします。
オブジェクトの選択 ウィザードが表示されます。
6. **DellProxyMSGGroup** グループを選択し、**OK** をクリックします。

Dell EMC Feature Management Dashboard での問題の解決

OMIMSSC でリストア機能を使用すると、Dell EMC Feature Management Dashboard で次のような問題が発生することがあります。

FQDN を間違えて指定したり、FQDN を指定しなかったりすると、OMIMSSC のバージョンが 7.1 と表示される

OMIMSSC 管理ポータルでのリストア操作時に、間違った管理サーバー FQDN を指定したり、管理サーバー FQDN を指定しなかったりすると、Dell EMC Feature Management Dashboard に、モニタリング機能に使用できるアプライアンスのバージョンは 7.1 と表示されます。

1. リストア操作が完了したら、SCOM コンソールで**オーサリング**を選択します。
2. **管理パック オブジェクト** を展開します。
3. **オブジェクトの検出** をダブルクリックします。
4. **検索対象** フィールドで、「**Dell Feature Management ホスト検出**」を探します。
5. **Dell Feature Management ホスト検出** を右クリックして、**オーバーライド > オブジェクト検出のオーバーライド > クラスのすべてのオブジェクト : 管理サーバーの順** にクリックします。
6. **FMP ホスト FQDN** を選択して、リストア操作時に使用される管理サーバーの FQDN の値にオーバーライド値を設定します。
FMP ホストの FQDN 名は次の手順で取得できます。
 - a. OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
 - b. **ジョブとログセンター > 汎用ログ > アプライアンス ログ** を選択します。
 - c. [アクティビティ ログ] に次のようなメッセージが表示されます。

Information: The Dell registry entry on the MS with FQDN <name> has been updated.

7. **OK** をクリックします。

Feature Management Dashboard に、残りの管理サーバーに関する情報が表示されない

OMIMSSC 管理ポータルでの登録に使用する管理サーバーが SCOM 管理グループから削除されると、Dell EMC Feature Management Dashboard に残りの管理サーバーに関する情報が表示されなくなります。Feature Management Dashboard の機能をリカバリーするには、次の手順を実行します。

1. サービス パックをアップデートします。
2. 管理グループから削除された管理サーバーを起動します。
3. [コマンド プロンプト] ウィンドウで、次のコマンドを実行します。Run **reg export HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Dell\Dell Server Management Pack Suites c:\Export.txt**
4. 管理グループの管理サーバーのどれかを起動します。
5. エクスポートされた C:\Export.txt ファイルを管理サーバーにコピーします。
6. [コマンド プロンプト] ウィンドウで **reg import c:\Export.txt** を実行します。
7. 「**FQDN を間違えて指定したり、FQDN を指定しなかったりすると、OMIMSSC のバージョンが 7.1 と表示される**」セクションの手順 1~6 を実行してください。
8. **OK** をクリックします。

Feature Management Dashboard で、サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能とシャーシ モニタリング機能に異なる OMIMSSC バージョンが表示される

Feature Management Dashboard に、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能と Dell EMC シャーシ モニタリング機能の 2 つの OMIMSSC バージョンのエントリが利用可能と表示されます。例えば、サーバーのモニタリングはバージョン 7.1 に、シャーシの方はバージョン 7.2 になっていたりします。Feature Management Dashboard から使用可能なバージョンが 7.1 になっているモニタリング機能を削除するには、次の手順を実行します。

1. [コマンド プロンプト] ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
Run reg export HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Dell\Dell Server Management Pack Suites C:\Export.txt
```

2. エクスポート後に、次のコマンドを実行します。

- **reg delete HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Dell**

レジストリー エントリを完全に削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- **reg delete HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Dell (Yes/No)?**

削除する場合は「**Y**」、しない場合は「**N**」と入力します。

メモ: 登録されている管理サーバー FQDN を取得する場合は、このガイドの「**OMIMSSC アプライアンスのリストア**」セクションを参照してください。

レジストリー エントリの削除後、使用可能な OMIMSSC のバージョンのアップデートが Feature Management Dashboard に反映させるまで 10~15 分間かかります。

メモ: バージョン 7.1 のレジストリー エントリを表示するには、以前に登録されていた管理サーバーでレジストリー エディターを起動するようにしてください。

メモ: 次の場合にも、OMIMSSC の 2 つの異なるバージョン番号が表示されます。

- バージョンのアップグレード時に、Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能および DRAC モニタリング機能をインポートしなかった場合。
- リストアの実行後にインポートを行った場合。

リファレンストピック

トピック：

- OMIMSSC でサポートされているモニタリング機能
- Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC のモニタリング機能の設定
- 検出されたデバイスの重要度レベル
- OMIMSSC での PowerEdge サーバーのライセンス対象モニタリングの主要機能
- OMIMSSC によって監視されているサーバーおよびラック型ワークステーションのハードウェア コンポーネント
- OMIMSSC によるモニタリング対象シャーシのハードウェア コンポーネント
- OMIMSSC によって監視されるネットワーク スイッチのハードウェア コンポーネント
- OMIMSSC モニタリング機能によって提供される表示オプション
- OMIMSSC のユニット モニター
- OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって使用されるイベント ルール

OMIMSSC でサポートされているモニタリング機能

このセクションでは各項で、SCOM 対応 OMIMSSC アプライアンスでサポートされるモニタリング機能について説明します。

Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能

Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能は、次のデバイスに対する指定検出方法に基づく詳細あるいは拡張性のあるインベントリーを作成し、モニタリングを行います：

- 第 12 世代、第 13 世代、iDRAC 9 ベースの PowerEdge サーバー
- PowerVault サーバー
- Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーと、Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェア モニタリング。
- Dell Precision ラック

これらのデバイスのインベントリーおよびモニタリングは、モニタリング設定に基づいて、次の方法のいずれかで管理下の Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションにインストールされた iDRAC または iDRAC サービス モジュール (iSM) から実行できます。

- WS-Man を使用した iDRAC
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- WMI を使用した iSM

これは、ライセンス付きの機能です。iSM の対応プラットフォームのリストについては、サポート サイトの『iDRAC サービス モジュール インストール ガイド』を参照してください。

管理パック

表 8. Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library	ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> • Dell.Connections.HardwareLibrary.mp • Dell.OperationsLibrary.Server.mp モニタリング対象管理パック

表 8. Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
	<p>拡張性のある管理パックと詳細な管理パック</p> <p>C:\PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Server Monitoring</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● iSM-WMI で検出された Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションの場合： <ul style="list-style-type: none"> ○ Dell.ManagedServer.iSM.mp ○ Dell.ManagedServer.Model.mp ○ Dell.View.Server.mp ● iDRAC-WS-MAN で検出された Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションの場合： <ul style="list-style-type: none"> ○ Dell.Model.Server.mp ○ Dell.OperationsLibrary.Server.mp ○ Dell.Server.OOB.mp ○ Dell.View.Server.mp ● Dell.Model.Server.mp ● Dell.Server.SDK.mp ● Dell.Server.SDKServer.mp ● Dell.View.Server.mp

設定の前提条件

- iSM がインストールされていること
 - iSM-WMI からデバイスを検出する WMI 機能が有効に設定されていること
 - ホスト OS からの iDRAC アクセスによってデバイスを検出するために [ホスト OS からの iDRAC アクセス] が有効に設定されていること
- iDRAC に対する WS-MAN (WS-Management) 接続性があること。
- ファイアウォールで SNMP ポートが有効になっていること。
- Dell Device Helper がインストールされていること。
- WinRM 設定で MaxEnvelopeSizekb の値が高めになっていること (Windows Server 2008 R2 の場合のみ)。

管理サーバー (MS) の要件

- Microsoft System Center—Operations Manager 2012 以降：Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能は、Operations Manager 2012 以降を実行している管理サーバーでのみ使用できます。
- Microsoft の SMASH ライブラリー MPB：Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能で Dell EMC PowerEdge サーバーを検出するには、Microsoft の SMASH ライブラリー MPB が必要です。[Web Services Management \(WS-Man\)](#) と [SMASH デバイス テンプレートのインストール](#)、p. 103 を参照してください。

管理下システム要件

- 必要な iSM バージョンが Dell EMC デバイスにインストールされています。モニタリング要件に基づいて、iDRAC コンソールから次の機能を有効にする必要があります。
 - iSM-WMI から監視する Windows Management Instrumentation (WMI) 機能
 - ホスト IP を使用して iDRAC から監視するホスト OS からの iDRAC アクセス (試験的機能)
- iDRAC7 以降
 - ① **メモ:** iDRAC ファームウェアバージョン 2.40.40.40 以降を使用している場合は、Transport Layer Security (TLS) バージョン 1.1 以降がデフォルトで有効に設定されています。Microsoft System Center Configuration Manager 向け Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.2 をインストールする場合は、<https://www.support.microsoft.com/en-us/kb/3140245> で TLS アップデートの詳細情報を参照してください。お使いの Web ブラウザに基づいて、TLS 1.1 以降のサポートを有効にする必要があります。

機能管理タスク

次の表に、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用可能な Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能のタスクを示します。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能をインポートしないと表示されません。

メモ: イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、**Dell EMC Feature Management Dashboard** がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。

表 9. 機能管理タスク

タスク	説明
エージェントプロキシの有効化	対応する iSM バージョンを実行している Dell EMC PowerEdge サーバ用のエージェントプロキシを有効にし、これらのサーバの検出も始動させます。
拡張可能機能 (ライセンス対象) への設定	システムで詳細機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard はこのモニタリング方法のために詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。
詳細機能 (ライセンス対象) への設定	システムで拡張可能機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard はこのモニタリング方法のために拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。
優先モニタリング方法 (ライセンス対象) として設定	デバイスが Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能と Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能の両方から監視されている場合、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能を、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションの優先モニタリング方法として有効にします。
イベント自動解決を有効にする	イベント自動解決機能を有効にします。
イベント自動解決を無効にする	イベント自動解決機能を無効にします。
Run-As アカウントの関連付け	このタスクでは、SMASH 検出に使用される Run As アカウントを、稼働状態のモニタリングに必要なすべての Dell サーバーオブジェクトに関連付けます。詳細については、 Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能 、p. 103 を参照してください。
モニタリング機能 (ライセンス対象) の削除	Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能を削除します。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 メモ: ダッシュボードの更新 タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。
ノード数の更新	この機能を使用して、監視されるサーバーのノード数を更新します。

Dell EMC シャーシ モニタリング機能

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2/FX2s シャーシ、PowerEdge VRTX シャーシ、PowerEdge M1000E シャーシ、および Dell OEM Ready シャーシ上の Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modulation (CMC/OME-M) の検出とモニタリングについて、次を使用してサポートします。

- SNMP および/または WS-Man プロトコル
- RedFish

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、対応する Microsoft System Center - Operations Manager の個々のシャーシ コンポーネントの詳細モニタリングもサポートします。

管理パック

表 10. Dell EMC シャーシ モニタリング機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC シャーシ モニタリング	<p>ライブラリ</p> <p>%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library</p> <p>モニタリング対象管理パック</p> <p>%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Chassis Monitoring</p>	<p>ライブラリ</p> <ul style="list-style-type: none"> • Dell.Connections.HardwareLibrary.mp • Dell.OperationsLibrary.Common.mp <p>モニタリング対象管理パック</p> <ul style="list-style-type: none"> • Dell.CMC.SDK.mp • Dell.Model.CMC.mp • Dell.CMC.Sync.mp • Dell.View.SDKCMC.mp

設定の前提条件

- ファイアウォールで SNMP ポートが有効になっていること。
- Dell Device Helper がインストールされていること。
- 管理サーバーと管理下ノードの間に WS-Man 接続があること。

Dell EMC シャーシ モニタリングの要件

- スロット検出と相関を機能させるには、Dell Device Helper Utility がインストールされていることを確認してください。
- シャーシコントローラ、IO モジュール、IO モジュールグループ、電源装置、および電源装置グループコンポーネントを監視します。
- シャーシ デバイスの正常性を監視するには、コミュニティ文字列 Run As アカウントを Dell Modular Chassis クラス、またはそれぞれのシャーシ オブジェクト(異なるシャーシ デバイスに異なる Run As アカウントがある場合)をターゲットとして、SNMP モニタリング アカウントと関連付けます。
- Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) のシャーシ スロットおよびシャーシ スロット サマリーを検出するには、Run As アカウントを作成し、そのアカウントを Dell CMC ログイン アカウント Run As プロファイルに関連付けます。また、SCOM コンソールから CMC スロット検出も有効にします。
- シャーシ詳細モニタリングを実行するには、Dell EMC CMC/OME-M へのアクセスに必要な WS-Man 資格情報で Run As アカウントを作成し、そのアカウントをプロファイル (Dell CMC ログイン アカウント Run As プロファイル) に関連付けます。

メモ: Dell EMC CMC/OME-M 用に AD ドメイン資格情報を使用している場合は、**username@domainname.com** というフォーマットで資格情報を入力してください。

サーバー モジュールとシャーシ スロット サマリーを相関させるための Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) 機能の設定

サーバモジュールを相関させるために Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) 機能を設定するには、Run As アカウントを作成してそれを Run As プロファイルに関連付け、シャーシスロットサマリーの自動入力を行います。

1. シャーシの CMC/OME-M に接続する権限のある、簡易認証タイプの Run As アカウントを作成します。また、ユーザー資格情報を設定するには、ベーシックまたはダイジェストの Run As アカウントタイプを使用します。

2. 特定の管理サーバーに対して選択的に設定を適用できるようにするため、Run As アカウント設定で、高セキュリティまたは低セキュリティ オプションを選択します。
3. 作成した Run As アカウントを Dell CMC ログインアカウントのプロファイルに関連付け、プロファイル上で設定できる適切なクラス、グループ、またはオブジェクトを選択します。

CMC/OME-M のスロットサマリ検出を有効にするには、Dell CMC スロット検出 で有効化プロパティを True にオーバーライドします。これは、デフォルトでは無効になっています。

- ① **メモ:** サーバー管理アクション アカウントを SCOM 管理者グループに追加します。
- ① **メモ:** スロット検出後、RunAs アカウント と RunAs プロファイル 間のリンクを削除、またはスロット検出ワークフローを無効化すると、検出されたスロットには古いデータが残ります。

機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用可能な Dell EMC シャーシ モニタリングのタスクを一覧にしたものです。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC シャーシ モニタリング機能をインポートした後にのみ表示されます。

- ① **メモ:** イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、**Dell EMC Feature Management Dashboard** がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ① **メモ:** Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して別のタスクを実行する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 11. 機能管理タスク

タスク	説明
拡張可能モニタリングの設定	システムで詳細機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard は詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。
詳細モニタリングの設定	システムで拡張可能機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard は拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。
ノード数の更新	ノード数を更新します。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 ① メモ: ダッシュボードの更新タスクはダッシュボードをただちに更新しない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかる場合があります。

Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連機能

シャーシ モジュラー型サーバー関連機能は次をサポートします。

- シャーシ スロットでライセンス対象またはライセンス不要のモニタリング機能を使用して検出されたモジュラー型サーバー関連。
① **メモ:** Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) スロット検出はデフォルトで無効になっています。このため、関連機能を動作させるには、CMC/OME-M スロット検出を有効にします。
- シャーシ共有ストレージコンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバの関連。
① **メモ:** シャーシ共有コンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバとの関連を示すために、Dell EMC シャーシ詳細モニタリングをインポートします。

管理パック

表 12. Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連モニタリング機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library モニタリング対象管理パック %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\ChassisModular ServerCorrelation	ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> Dell.Connections.HardwareLibrary.mp Dell.OperationsLibrary.Common.mp モニタリング対象管理パック <ul style="list-style-type: none"> Dell.ChassisModularServer.Correlation.mp

管理サーバー (MS) の要件

分散型 SCOM 環境におけるシャーシ ブレード関連

プロキシエージェントを有効化するには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールで**管理**をクリックします。
2. **管理**ペインで、**管理 > デバイス管理 > 管理サーバー**を展開します。
3. シャーシデバイスを検出した管理サーバーを選択します。
4. 右クリックして、**プロパティ**を選択します。
5. **管理サーバプロパティ**で、**セキュリティ**をクリックします。
6. このサーバを**プロキシ**として動作させて、**他のコンピュータの管理下オブジェクトを検出する**を選択します。
7. **OK**をクリックします。

機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用可能な Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連機能のタスクを一覧にしたものです。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連のモニタリング機能をインポートした後にのみ表示されます。

- ① **メモ:** イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、**Dell EMC Feature Management Dashboard** がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ① **メモ:** Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して別のタスクを実行する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 13. 機能管理タスク

タスク	説明
ノード数の更新	ノード数を更新します。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 ① メモ: ダッシュボードの更新タスクはダッシュボードをただちに更新しない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかる場合があります。
シャーシ モジュラー型サーバー関連機能のアップグレード	Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連機能を最新バージョンにアップグレードします。
シャーシ モジュラー型サーバー関連機能の削除	Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連機能を削除します

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、M シリーズ、Z シリーズ、N シリーズ、S シリーズ スイッチなどのネットワーク スイッチを検出して監視します。ネットワーク スイッチ モニタリング機能では、SNMP ベースで通信が行われます。

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、サポート対象の Microsoft System Center—Operations Manager の個々のスイッチ コンポーネントの詳細レベルでのモニタリングも行います。

管理パック

表 14. Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library モニタリング対象管理パック %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\NetworkSwitch Monitoring	ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> Dell.Connections.HardwareLibrary.mp Dell.OperationsLibrary.Common.mp モニタリング対象管理パック <ul style="list-style-type: none"> Dell.NetworkSwitch.mp Dell.View.NetworkSwitch.mp

機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用できる Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング タスクの表です。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、ネットワーク スイッチ モニタリング機能をインポートするまで表示されません。

- i **メモ:** イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、**Dell EMC Feature Management Dashboard** がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- i **メモ:** Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して別のタスクを実行する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 15. 機能管理タスク

タスク	説明
ノード数の更新	ノード数を更新します。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 i メモ: ダッシュボードの更新タスクはダッシュボードをただちに更新しない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかる場合があります。
拡張可能モニタリングの設定	システムで詳細エディションが実行されている場合、Dell EMC Feature Management Dashboard は拡張エディションに切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。
詳細モニタリングの設定	システムで拡張エディションが実行されている場合、Dell EMC Feature Management Dashboard は詳細エディションに切り替わります。

表 15. 機能管理タスク (続き)

タスク	説明
	以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。

Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC のモニタリング機能の設定

Dell EMC Feature Management Dashboard には、OMIMSSC アプライアンスを使用してさまざまな Dell EMC デバイスを監視するためのモニタリング機能を設定するオプションが用意されています。これらのデバイスには、PowerEdge サーバー、PowerEdge Storage Spaces Direct Ready ノード、Dell EMC Precision ラック、Dell Remote Access Controller (DRAC)、Dell EMC ネットワークスイッチ、Dell EMC OEM サーバー、および PowerEdge FX2、PowerEdge VRTX、PowerEdge M1000E、PowerEdge MX7000 を含む Dell EMC シャーシなどが含まれます。Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して、モニタリング機能をインポート、アップグレード、および削除することが可能です。

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のインポート

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用すると、使用可能な OMIMSSC モニタリング機能を表示し、機能に必要な管理パックのインポート、アップグレード、および削除のために、それらを自動的に設定することができます。

モニタリング機能をインポートするには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールを起動します。
2. 左ペインで、モニタリングを選択します。
3. **Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** の順に展開します。

Dell Technologies Feature Management Dashboard ページでは、インストールされている Dell EMC モニタリング機能、現在使用中のバージョン、アップグレード可能なバージョン、モニタリングレベル、現在のライセンスで使用されているノードの合計数、必要なライセンス (存在する場合) のリストを表示することができます。

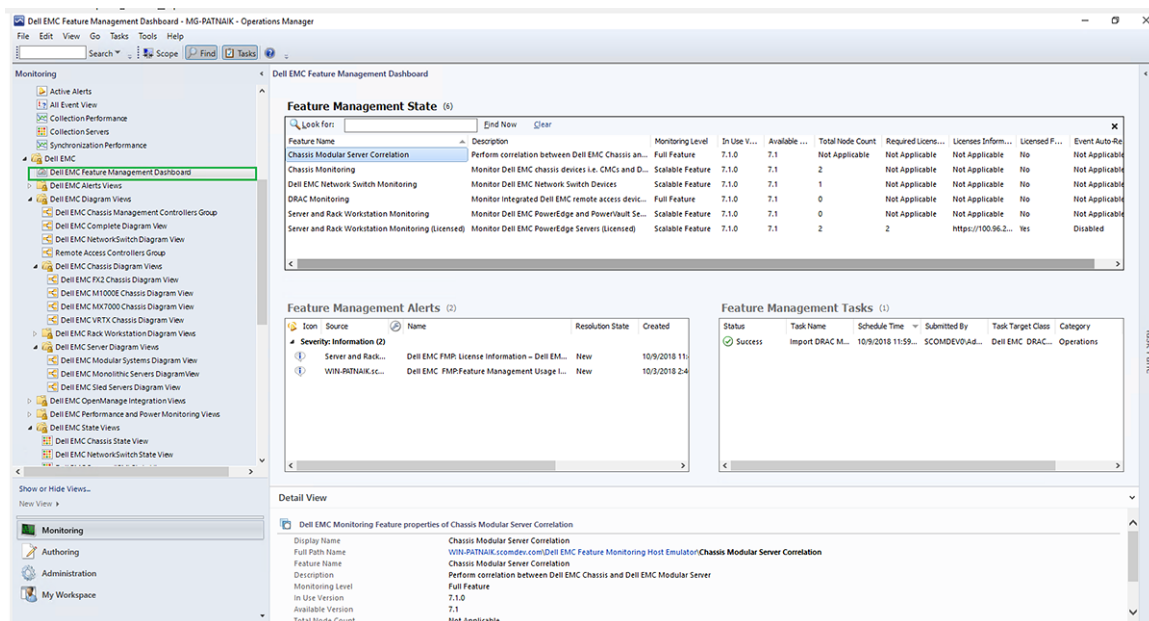


図 13. Dell EMC Feature Management Dashboard

4. インストールするモニタリング機能を選択します。
5. タスクペインで **Dell EMC モニタリング機能タスク** を展開します。
6. タスクをクリックして、機能をインポートします。

7. タスクの実行画面で、事前定義された **RunAs** アカウントの使用を選択します。
8. **実行** をクリックします。
9. タスクが正常に完了したら、**閉じる** をクリックします。

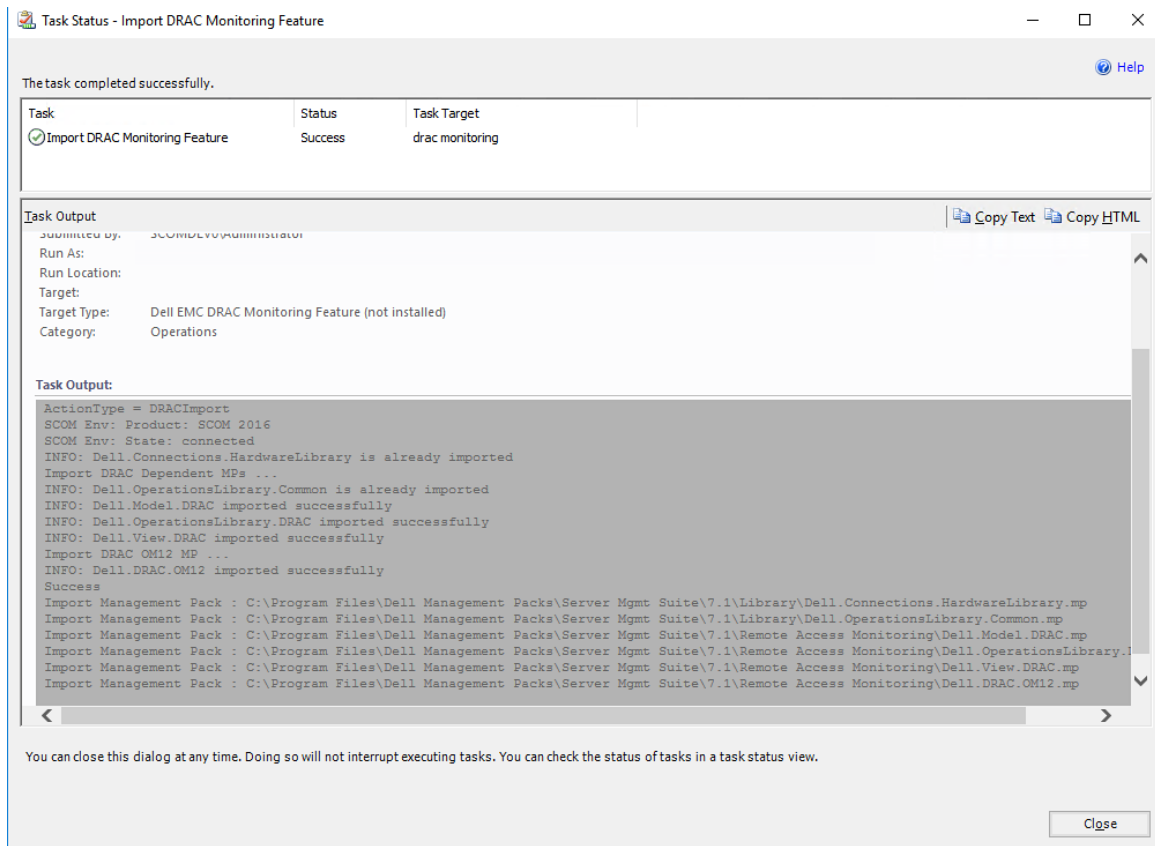


図 14. モニタリング機能のインポートのタスク ステータス

10. 有効にする各モニタリング機能について手順3~8を繰り返します。

メモ: **Dell Technologies Feature Management Dashboard** を使用して別のタスクを実行する前に、現在のタスクが完了するまで待ちます。

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のアップグレード

OMIMSSC アプライアンスの最新のモニタリング機能を利用するには、リリースされるごとに最新のモニタリング機能にアップグレードする必要があります。Feature Management Dashboard でモニタリング機能をアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールを起動します。
2. モニタリングを選択します。
3. **Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** の順に展開します。
4. アップグレードするモニタリング機能を選択します。
5. タスクペインで **Dell EMC モニタリング機能タスク** を展開して、アップグレード タスクを選択します。
6. タスクの実行アップグレード画面で、事前定義された **Run As** アカウントの使用を選択します。
7. **実行** をクリックします。

注意: データロスにつながるオーバーライドを行う必要がある依存関係または関連付けがある場合、タスクは完了できず、適切なメッセージが表示されます。タスクを続行するには、オーバーライドをクリックして、警告/エラーの自動解決のオーバーライドを **True** に設定します。

8. タスクを完了したら、**閉じる** をクリックします。

拡張可能エディションおよび詳細エディション対応の Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のカスタマイズ

表 16. Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC モニタリング機能のカスタマイズ - 拡張可能エディションと詳細エディション


機能	拡張可能エディション	詳細エディション
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング	サーバーおよびコンポーネント グループレベルでのインベントリおよび正常性モニタリング	コンポーネント (メモリー、プロセッサ、センサー、ネットワーク インターフェイス、ストレージ コントローラー、ディスク、ボリューム) の詳細なインベントリおよびモニタリング。BIOS 情報も表示。
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)	<ul style="list-style-type: none"> 個々のコンポーネントまでのインベントリ。 サーバー、ラック型ワークステーション、コンポーネント グループレベルでの正常性モニタリング。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々のコンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。 電力、温度、ネットワークインターフェースカードのプロセッサ、メモリ、1秒あたりのコンピュータの使用量 (CUPS)、PCIe SSD の摩耗レベルのメトリックと、IO パフォーマンスのメトリックを表示。
Dell EMC シャーシ モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> シャーシインベントリ シャーシスロットサマリ シャーシの正常性モニタリング 	個々のシャーシ コンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。
DRAC モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> iDRAC インベントリ iDRAC の正常性モニタリング 	適用なし。
Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー 相関	モジュラー型サーバーとシャーシを相関 (モジュラー型サーバー内にあるシャーシからコンポーネントまでのインベントリと正常性を表示)。	適用なし。
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク スイッチ インベントリ ネットワーク スイッチの正常性モニタリング 	個々のネットワーク スイッチ コンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能の削除


モニタリング機能を削除または無効にするには、**Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用します。いずれかのモニタリング機能を削除する前に、開いているすべてのアラートを閉じるか解決します。モニタリング機能を削除する際に、**Dell EMC Feature Management Dashboard** は、すべてのオーバーライド参照をインストール フォルダーのバックアップとしてエクスポートします。ただし、カスタム グループ情報およびオーバーライド インスタンス レベル情報は将来再使用できません。

モニタリング機能を削除するには、次の手順を実行します。

- SCOM コンソールを起動し、**モニタリング**を選択します。
- モニタリングペインで、**Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** を展開します。
Dell EMC Feature Management Dashboard ペインには、SCOM コンソールで現在使用可能なモニタリング機能のリストが表示されます。
- 削除するモニタリング機能を選択します。
- タスクペインの下にある **Dell EMC モニタリング機能タスク** を展開します。
- モニタリング機能を削除するには、**機能の削除** をクリックします。
たとえば、**Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション** のモニタリング機能を削除するには、**タスクペインでモニタリング機能の削除** をクリックします。
- タスクの**実行 - 機能の削除**画面で、**事前定義された Run As アカウントの使用** をクリックします。
- 実行** をクリックします。






 **注意:** データ ロスにつながるオーバーライドを行う必要がある依存性または関連付けがある場合、タスクを正常に実行できません。タスクを続行するには、オーバーライドをクリックして、[警告/エラーの自動解決] のオーバーライドを [True] に設定します。

8. タスクを完了したら、**閉じる** をクリックします。

 **メモ:** カスタム グループまたはインスタンスで参照されるオーバーライドがある場合、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で **モニタリング機能の削除** タスクを実行すると失敗することがあります。このような場合は、カスタム グループに関連付けられたオーバーライドまたはインスタンスを削除してください。

検出されたデバイスの重要度レベル

SCOM コンソールで検出された Dell EMC デバイスの重要度レベルを示す記号。


-  - 正常/OK - コンポーネントは正常に動作しています。
-  - 重要/故障/エラー - コンポーネントが故障しているか、故障しそうな状態です。コンポーネントに対する迅速な対応が必要で、交換が必要な場合もあります。データ喪失が発生している可能性があります。
-  - 警告/非重要 - プローブまたはその他のモニタリング装置が、許容レベルを超えたまたは下回ったコンポーネントの読み取り値を検出しました。コンポーネントが引き続き動作している場合もありますが、故障する可能性があります。また、障害のある状態でコンポーネントが動作している可能性もあります。
-  - 正常性の状態は特定のコンポーネントに適用されません。
-  - サービスを使用できません。

OMIMSSC での PowerEdge サーバーのライセンス対象モニタリングの主要機能

iDRAC9 PowerEdge サーバーのシステム設定ロックダウン モード

システム設定ロックダウン モード機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーで使用でき、ファームウェア アップデートを含むシステムの設定をロックします。システム設定ロックダウン モードを有効にした後：

- システムの設定を変更することはできません。この機能は、システムが誤って変更されないようにするためのものです。iDRAC コンソールを使用して、システム設定ロックダウン モードを有効または無効にできます。
- サーバーでトラップの宛先情報を設定することはできません。したがって、アラートはモニタリング用に生成されません。このような場合は、システム設定ロックダウン モードが有効になっていること、およびアラートのトラップの宛先情報が設定されていないことを示す重大なアラートによって通知されます。

 **メモ:** デル・テクノロジーズでは、サーバー検出間隔を更新または変更した直後に、[Dell OM : システム設定ロックダウン アラートルール間隔] を更新することを推奨しています。この推奨事項により、一定の間隔でサーバー検出が完了した後に、システムロックダウン モードのアラートが生成されるようになります。

システム設定ロックダウン モードについては、Dell EMC ダイアグラム ビューの [詳細ビュー] ペインで確認できます。この機能の詳細については、サポート サイトで入手可能『iDRAC9 バージョン 3.00.00.00 ユーザーズ ガイド』を参照してください。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能の iDRAC および iSM の両方の方法で検出されたサーバーで使用できます。

iDRAC9 PowerEdge サーバーの iDRAC グループ マネージャー

iDRAC グループ マネージャー機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーで利用でき、同じローカル ネットワーク上の iDRAC およびその関連サーバーの基本的な管理を簡素化します。グループ マネージャー機能により、別のアプリケーションを必要とせずに対

多くのコンソールを使用できるようになります。iDRAC グループ マネージャーを使用して、サーバー障害の目視検査などの手動方式よりも強力な管理が可能になり、ユーザーは一連のサーバーに関する情報を確認することができます。

ダイアグラム ビューの [詳細ビュー] ペインで、iDRAC オブジェクトの下にある iDRAC グループ マネージャー、iDRAC グループ マネージャーのステータス、および iDRAC グループ名に関する情報を確認できます。この機能の詳細については、サポート サイトで入手可能な『iDRAC9 バージョン 3.00.00.00 ユーザーズガイド』を参照してください。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能の iDRAC および iSM の両方の方法で検出されたサーバーで使用できます。

イベント自動解決

このセクションでは、イベント自動解決機能を使用した Dell デバイス イベントの自動解決または確認について説明します。

Dell EMC Server Management Pack Suite は、Dell デバイスからイベントを受信して処理します。これらのイベントは、問題、情報、および解決イベントとして幅広く分類できます。これらのイベントはすべて、手動で閉じるまでコンソールに残ります。ノードで問題が解決された後でも、問題イベントと対応する解決イベントは、手動で確認されるまでコンソールに残ります。イベント自動解決機能は、このような Dell デバイス イベントを自動的に解決または確認します。

イベントの自動解決は、次のように分類できます。

- 問題から問題 - 1つの問題イベントが別の問題イベントを解決します。たとえば、温度センサーは、警告しきい値を超えたときに警告イベントを送信します。アクションがない場合、特定の時間が経過すると、同じセンサーは重要イベントを超えたときに重要イベントを送信します。この場合、警告イベントは存在しないため、警告イベントの重要性はありません。警告イベントは確認され、コンソールには重要イベントだけが表示されます。
- 問題から解決 - 1つの解決イベントまたは正常イベントが問題イベントを解決します。たとえば、温度センサーは、警告しきい値を超えたときに警告イベントを送信します。管理者が適切なアクションを実行すると、同じセンサーが、一定時間の経過後に、解決イベントまたは通常イベントを送信します。この場合、警告イベントは存在しないため、警告イベントの重要性はありません。警告イベントは確認され、コンソールには通常イベントだけが表示されます。

この機能は、iDRAC WS-Man を介して検出されたサーバーでのみ使用できます。デフォルトでは、イベント自動解決は無効になっています。イベント自動解決の有効化タスクを使用して、この機能を有効にします。イベント自動解決の有効化やイベント解決の無効化などのタスクは、**Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard > Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) > Dell EMC モニタリング機能タスク** で実行できます。

iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーの容量計画

Dell サーバー容量チェック ユニット モニターを使用して、サーバーの使用率が設定された容量しきい値を超えたかどうかを監視できます。ユニット モニター - Dell サーバー容量チェックでは、各サーバーの最後の1日のシステムまたは CUPS の平均使用率を、設定されている容量しきい値と比較して監視します。このユニット モニターはデフォルトでは無効に設定されています。Dell サーバー容量チェック ユニット モニターを有効にするには、**パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化**、p. 42 を参照してください。

最小しきい値は1で、最大しきい値は99です。デフォルトのしきい値は60です。しきい値は、指定された範囲内で設定できます。つまり、1~99です。指定した範囲以外のしきい値を指定すると、そのしきい値はデフォルト値にリセットされます。

最後の1日のシステムまたは CUPS の平均使用率が設定されたしきい値を超えると、サーバごとに警告イベントが生成されます。最後の1日のシステムまたは CUPS の平均使用率が設定されたしきい値内に戻ると、警告イベントが自動的に解決されます。

警告アラートの詳細は、[モニタリング] の下の [アラート詳細] ペインで確認できます。

障害が発生した CMC または OpenManage Enterprise-Modular のステータスの検出と復元

「iDRAC による障害が発生した Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) の検出」機能を使用すると、ラックスタイル管理 (RSM) が有効になっているモジュラー型サーバーの iDRAC が、障害のあるまたは使用できない CMC を検出します。この機能を使用することで、障害が発生した Dell EMC CMC/OME-M を通常の状態に戻す迅速な修復アクションを実行できます。

Dell シャーシコントローラセンサーは、Dell EMC CMC/OME-M の有無または障害を示します。[センサー] の下で **Dell EMC ダイアグラム ビュー > Dell シャーシコントローラセンサー** をクリックして、ユニット モニターから取得された正常性状態を確認できます。

メモ:

- Dell シャーシコントローラセンサーは、拡張可能管理パックおよび詳細管理パックの両方のエディションで使用できます。

- iDRAC による障害が発生した Dell EMC CMC/OME-M の検出は、YX3X および iDRAC9 ベースの PowerEdge FX2 シャーシでサポートされています。

iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーのポート接続情報

メモ: この機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーでのみサポートされています。

サーバーポート接続情報機能では、スイッチポートからサーバーポートへの物理マッピング、および iDRAC 専用ポート接続に関する情報が提供されます。この機能は、サーバーのネットワークポートに接続されているスイッチポートと iDRAC 専用ポートを特定することで、ケーブルエラーのデバッグを減らすのに役立ちます。サーバーポート接続に関する情報は、Dell EMC ダイアグラムビューの [詳細ビュー] ペインの iDRAC NIC および NIC オブジェクトの下で確認できます。各 NIC のインベントリ情報とともに、スイッチのシャーシ ID 情報とポート ID 情報が入力されます。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションモニタリング (ライセンス対象) 機能の iDRAC および iSM の両方の方法で検出された Dell EMC PowerEdge サーバーで使用できます。

OMIMSSC によって監視されているサーバーおよびラック型ワークステーションのハードウェアコンポーネント

次の表は、OMIMSSC で、iDRAC-WS-Man を介して検出された Dell EMC デバイスの拡張可能機能および詳細機能でサポートされる、モニタリング対象ハードウェアコンポーネントの情報を示しています。

表 17. モニタリング対象ハードウェアコンポーネント — 拡張可能機能および詳細機能 (iDRAC-WS-Man)

ハードウェアコンポーネント	拡張性	詳細
BIOS	いいえ	いいえ
バッテリーセンサーグループ	いいえ	はい
バッテリーセンサー	いいえ	はい
電流センサーグループ	いいえ	はい
電流センサー	いいえ	はい
ファンセンサーグループ	いいえ	はい
ファンセンサー	いいえ	はい
ホスト NIC グループ	いいえ	はい
ホスト NIC	いいえ	はい
iDRAC ネットワークインタフェース	はい	はい
iDRAC	いいえ	いいえ
インテリジェンセンサーグループ	いいえ	はい
インテリジェンセンサー	いいえ	はい
ライセンスグループ	はい	いいえ
ライセンス	いいえ	はい
メモリ	はい	いいえ
メモリインスタンス	はい	はい
物理ネットワークインタフェース	いいえ	はい
物理ネットワークインタフェースグループ	はい	はい
プロセッサグループ	はい	いいえ
プロセッサ	はい	いいえ

表 17. モニタリング対象ハードウェア コンポーネント — 拡張可能機能および詳細機能 (iDRAC-WS-Man) (続き)

ハードウェアコンポーネント	拡張性	詳細
電源装置グループ	はい	はい
電源装置	いいえ	はい
PCIe SSD エクステンダ	いいえ	はい
PCIe SSD バックプレーン	いいえ	はい
PCIeSSD 物理ディスク	いいえ	はい
サーバーセンサー	いいえ	はい
サーバーストレージ	はい	はい
ストレージコントローラコネクタ	いいえ	はい
ストレージコントローラ	いいえ	はい
ストレージコントローラセンサー	いいえ	はい
ストレージコントローラバッテリーグループ	いいえ	はい
ストレージコントローラバッテリー	いいえ	はい
ストレージ仮想ディスクグループ	いいえ	はい
ストレージ仮想ディスク	いいえ	はい
ストレージコントローラ物理ディスクグループ	いいえ	はい
ストレージコントローラ物理ディスク	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ EMM	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャファンセンサーグループ	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャファンセンサー	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ電源装置グループ	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ電源装置	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ温度センサーグループ	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ温度センサー	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャセンサー	いいえ	はい
SD カードグループ	いいえ	はい
SD カード	いいえ	はい
温度センサーグループ	いいえ	はい
温度センサー	いいえ	はい
電圧センサーグループ	いいえ	はい
電圧センサー	いいえ	はい

OMIMSSC によるモニタリング対象シャーシのハードウェアコンポーネント

次の表は、拡張可能機能および詳細機能でサポートされる、モニタリング対象ハードウェアコンポーネントの情報を示しています。

表 18. モニタリング対象シャーシのハードウェア コンポーネント - 拡張可能機能および詳細機能のサポート。

ハードウェアコンポーネント	PowerEdge MX7000		PowerEdge M1000e		PowerEdge FX2		PowerEdge VRTX	
	拡張性	詳細	拡張性	詳細	拡張性	詳細	拡張性	詳細
CMC/OME-M スロット情報	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
CMC/OME-M スロット	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ファングループ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
IO モジュールグループ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
電源装置グループ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ファン	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
IO モジュール	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
電源装置	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
PCIe デバイスグループ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
PCIe デバイス	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
保管時	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい
ストレージコントローラー	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ仮想ディスクグループ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ仮想ディスク	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ物理ディスクグループ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ物理ディスク	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージエンクロージャ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい

OMIMSSC によって監視されるネットワーク スイッチのハードウェア コンポーネント

次の表は、拡張可能機能および詳細機能でサポートされる、モニタリング対象ネットワーク スイッチ ハードウェア コンポーネントの情報を示しています。

表 19. モニタリング対象のネットワーク スイッチ ハードウェア コンポーネント — 拡張可能機能および詳細機能

ハードウェアコンポーネント	検出モード	
	拡張性	詳細
スイッチ	はい	はい
ファングループ	はい	はい
ファンユニット	いいえ	はい
電源装置グループ	はい	はい
電源供給ユニット	いいえ	はい
インタフェース	はい	いいえ
ユーザーポートグループ	はい	いいえ
ユーザーポートインスタンス	いいえ	はい

OMIMSSC モニタリング機能によって提供される表示オプション

ビュータイプ	OMIMSSC モニタリング機能		
	サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
アラート ビュー	はい	はい	はい
ダイアグラムビュー	はい	はい	はい
パフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー	はい	はい	はい
状態ビュー	はい	はい	はい

OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー

表 20. OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー

SCOM コンソールに表示されるダイアグラム ビュータイプ	OMIMSSC モニタリング機能		
	サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
完全ダイアグラムビュー	はい	いいえ	はい
ラック型ワークステーションのダイアグラム ビュー	はい	いいえ	いいえ
モジュラー型サーバーのダイアグラム ビュー	はい	いいえ	いいえ
モノリス型サーバーのダイアグラム ビュー	はい	いいえ	いいえ
Sled サーバーのダイアグラム ビュー	はい	いいえ	いいえ
ユニットのダイアグラム ビュー	はい	いいえ	いいえ
Remote Access Controller グループのダイアグラム ビュー	いいえ	いいえ	いいえ
CMC グループのダイアグラム ビュー	いいえ	はい	いいえ
シャーシのダイアグラム ビュー	いいえ	はい	いいえ
ネットワークスイッチのダイアグラムビュー	いいえ	いいえ	はい

OMIMSSC でサポートされている完全ダイアグラム ビュー

Dell EMC 完全ダイアグラム ビューには、SCOM コンソールで監視されているすべての Dell EMC デバイスがグラフィック表示されます。図では、個々のデバイスとそのコンポーネントのステータスを展開して確認できます。

DSMPs のモニタリング機能によって表示される完全ダイアグラム ビューには、次に関する情報が含まれます。

- Dell EMC モジュラー型およびモノリス型サーバー
- Dell EMC Sled グループ
- Dell EMC ラック型ワークステーショングループ
- Dell EMC ラック型ワークステーション (DSMPS ライセンス バージョンのみ)
- Chassis Management Controller
- Remote Access Controller
- Dell EMC 管理対象外システム

DSMPS でサポートされるラック型ワークステーションのダイアグラム ビュー

Dell EMC ラック型ワークステーションのダイアグラム ビューでは、サポートされているすべての Dell EMC ラック型ワークステーションがグラフィック表示され、ダイアグラム内の個々のデバイスやそれらのコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。ダイアグラム内のラック型ワークステーションを選択して、**詳細ビュー**セクションに詳細を表示します。

モジュラー型およびモノリス型システムのダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ

Dell EMC モジュラー型システムのダイアグラム ビューと Dell EMC モノリス型サーバーのダイアグラム ビューには、次のコンポーネントに関する情報が表示されます。

表 21. モジュラー型およびモノリス型システムのダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ

モジュラー型およびモノリス型のダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ	OMIMSSC モニタリング機能
	サーバーおよびラック型ワークステーション(ライセンス対象)
物理ネットワークインタフェース	はい
メモリ	はい
PSU	はい
センサー	はい
プロセッサ	はい
ストレージ コンポーネント	はい
BIOS (インベントリのみ)	はい
BIOS	いいえ
iDRAC NIC	はい
ホスト NIC	はい
SD カード	はい
ネットワークインタフェースグループ	いいえ
ライセンス	はい
メモリグループ	いいえ
PSU グループ	いいえ
センサー グループ	いいえ
プロセッサグループ	いいえ
ストレージ コンポーネント グループ	いいえ
ホスト NIC グループ	いいえ
iDRAC	いいえ
iDRAC ライセンスグループ	いいえ

表 21. モジュラー型およびモノリス型システムのダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ (続き)

モジュラー型およびモノリス型のダイアグラム ビューに表示される コンポーネント データ	OMIMSSC モニタリング機能
	サーバーおよびラック型ワークステーション(ライセンス対 象)
PCIe/ SSD グループ	いいえ
SD カードグループ	いいえ

OMIMSSC でサポートされているモジュラー型システムのダイアグラム ビュー

モジュラー型システムのダイアグラム ビューは、すべての Dell EMC モジュラー型システムをグラフィック表示します。このビューでダイアグラム内の個々のデバイスやコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。

OMIMSSC でサポートされているモノリス型サーバーのダイアグラム ビュー

Dell EMC モノリス型サーバーのダイアグラム ビューは、すべてのモノリス型システムをグラフィック表示します。このビューでダイアグラム内の個々のデバイスやコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。

OMIMSSC でサポートされている Sled サーバーのダイアグラム ビュー

Dell EMC Sled サーバーのダイアグラム ビューは、すべての Sled サーバーをグラフィック表示します。このビューでダイアグラム内の個々のデバイスやコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。ダイアグラム内の Sled サーバーを選択して、**詳細ビュー**セクションに詳細を表示します。

OMIMSSC でサポートされている PowerEdge サーバー ユニットのダイアグラム ビュー

Dell EMC モジュラー型システム ビューまたは Dell EMC モノリス型サーバー ダイアグラム ビューから Dell EMC PowerEdge サーバーを選択して、その特定のシステムに固有のダイアグラムを表示します。システム固有のダイアグラムは、OMIMSSC モニタリング機能によってサポートされているコンポーネントのステータスを図示しています。

OMIMSSC でサポートされる Remote Access Controller グループのダイアグラム ビュー

Remote Access Controller グループ ダイアグラムビューには、すべての iDRAC6、iDRAC7、および iDRAC8 デバイスが図示されます。ダイアグラム内のコンポーネントを選択して、**詳細ビュー**セクションに詳細を表示します。

ストレージ コントローラーのコンポーネント階層

ハード ドライブ、コネクタ、VD、コントローラー、センサー、エンクロージャなどのコンポーネントのステータスと正常性を表示するには、任意の Dell EMC システム インスタンス ダイアグラム ビューでストレージコンポーネントを展開します。

OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー

表 22. OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー

SCOM コンソールに表示される状態ビュータイプ	OMIMSSC モニタリング機能		
	サーバーおよびラック型ワークステーション(ライセンス対象)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ
管理対象ラック型ワークステーションの状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ
FM サーバーの状態ビュー	はい	いいえ	いいえ
スレッド サーバーの状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ
サーバー (iSM) の状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ
スレッド サーバー (iSM) の状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ
DRAC の状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ
サーバーおよびラック型ワークステーション(ライセンス対象)の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ
管理対象ワークステーション(ライセンス対象)の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ
スレッド サーバー(ライセンス対象)の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ
管理対象外サーバー(ライセンス対象)の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ
FX2 シャーシの状態ビュー	いいえ	はい	いいえ
MX1000E シャーシの状態ビュー	いいえ	はい	いいえ
MX7000 シャーシの状態ビュー	いいえ	はい	いいえ
VRTX シャーシの状態ビュー	いいえ	はい	いいえ
ネットワーク スイッチの状態ビュー	いいえ	いいえ	はい

OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビュー

パフォーマンス ビューでは、パフォーマンス オブジェクトとカウンターから収集されたパフォーマンス データを表示する方法をカスタマイズできます。これには、履歴および現在の動作データをまとめて表示する機能が含まれます。[結果] ペインのグラフ内のルールからデータを表示するには、[詳細] ペインで [表示] を選択する必要があります。

PowerEdge サーバーおよびワークステーションの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能のパフォーマンス モニタリング ビューおよび電源モニタリング ビュー

PowerEdge サーバーおよびワークステーションでは、次の OMIMSSC パフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビューが表示されます。

- Dell パフォーマンスビュー
- ディスク パフォーマンス - iSM

メモ: デフォルトでは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能のすべてのパフォーマンス メトリック ルールが無効になっています。

サーバーとラック型ワークステーションの OMIMSSC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビューの一部として、次のシステム ボード使用状況ビューが表示されます。

- CPU 使用率 (%)
- IO 使用率 (%)
- メモリ使用率 (%)
- システム全体の使用率 (%)

メモ:

- システム ボードの使用率メトリクスは、第 13 世代の PowerEdge サーバーの一部でのみサポートされます。デフォルトでは、Dell サーバのパフォーマンスルールは無効に設定されています。
- Dell EMC パフォーマンスビューには、CPU のパフォーマンスインデックス、メモリおよび I/O の使用率インデックス、およびシステムレベルの CUPS インデックスがグラフィック形式で表示されます。

シャーシの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能のパフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー

Dell EMC シャーシでは、次の OMIMSSC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビューが表示されます。

- Dell EMC シャーシパフォーマンスビュー

メモ: Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビューは、Dell EMC シャーシ モニタリング機能の詳細機能がインストールされていて、メトリック パラメーターをオーバーライド時に [メトリック モニタリング] を [はい] として選択した場合にのみ使用できません。

OMIMSSC のユニット モニター

ユニット モニターは、パフォーマンス カウンターを 2 サイクル連続して監視し、しきい値を超えているかどうかを確認します。しきい値を超えると、Dell EMC PowerEdge サーバーの状態が変化し、アラートが生成されます。このユニット モニターはデフォルトで無効になっています。SCOM コンソールの **オーサリング** ペインで、しきい値を (有効に) オーバーライドできます。ユニット モニターは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の Dell Windows Server オブジェクトで使用できます。ユニット モニターのしきい値を有効にするには、**パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化**、p. 42 を参照してください。Dell ユニット モニターはモニタリング対象のオブジェクトで発生するさまざまな状況を評価します。この評価の結果が、対象の正常性状態を決定します。

Dell ユニット モニターには以下が含まれます。

- イベント モニター — このモニターは Dell 計装が Windows イベント ログに記録するイベントによってトリガーされ、対応するオブジェクトの稼働状態を示します。
- 定期モニター — 秒間隔で設定された定期的なポーリングによってトリガーされます。

PowerEdge サーバーとワークステーションの OMIMSSC および DSMPS のライセンス対象モニタリング機能のユニット モニター

OMIMSSC のライセンス バージョン (iDRAC WS-Man) によって提供される次のすべてのユニット モニターは、**定期**タイプです。

- Dell EMC PowerEdge サーバ
 - Dell サーバー Run As アカウント関連
 - Dell サーバー ユニット モニター

- Dell サーバー電源装置
 - Dell サーバー電源供給ユニット
- Dell サーバープロセッサグループ
 - Dell サーバープロセッサグループ
- Dell サーバシャーシコントローラセンサー
 - Dell サーバシャーシコントローラセンサー
- Dell ストレージコントローラ
 - Dell サーバーストレージコントローラ
- Dell サーバーコントローラバッテリー
 - Dell サーバーコントローラバッテリーユニット
- Dell バッテリセンサー
 - Dell サーバーバッテリーセンサーの正常性
- Dell バッテリセンサーグループ
 - Dell サーバーバッテリーグループセンサーの正常性
- Dell 電流センサー
 - Dell サーバー電流センサーの正常性
- Dell ファンセンサー
 - Dell サーバーファンセンサーの正常性
- Dell ファンセンサーグループ
 - Dell サーバーファングループセンサーの正常性
- Dell イントルージョンセンサー
 - Dell サーバーイントルージョンセンサーの正常性
- Dell モジュラー型ブレード サーバー (オペレーティング システムあり)
 - Dell サーバー Run As アカウント関連
 - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell モジュラー型ブレード サーバー (オペレーティング システムなし)
 - Dell サーバー Run As アカウント関連
 - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell モノリス型サーバー (オペレーティング システムあり)
 - Dell サーバー Run As アカウント関連
 - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell モノリス型サーバー (オペレーティング システムなし)
 - Dell サーバー Run As アカウント関連
 - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell ネットワークインタフェースグループ
 - Dell サーバーネットワークインタフェースグループ
- Dell iDRAC ネットワークインタフェース
 - Dell サーバー iDRAC ネットワークインタフェースユニット
- Dell サーバ容量しきい値チェック
 - Dell サーバ容量しきい値チェック
- Dell サーバーホスト NIC
 - Dell サーバーホスト NIC
- Dell サーバーライセンス
 - Dell サーバーライセンス
- Dell サーバーライセンスグループ
 - Dell サーバーライセンスグループ
- 物理ネットワークインタフェース
 - Dell サーバーネットワークインタフェースユニット
- PCIe SSD バックプレーン
 - Dell サーバー PCIeSSD バックプレーン
- PCIe SSD エクステンダ
 - Dell サーバー PCIe SSD エクステンダ
- PCIe SSD 物理ディスク
 - Dell サーバー PCIe SSD 物理ディスクの予測障害ディスク
 - Dell サーバー PCIe SSD 物理ディスクのプライマリステータス
- Dell サーバー SD カード
 - Dell サーバー SD カード

- Dell サーバー SD カードグループ
- Dell サーバーコネクタエンクロージャ
 - Dell サーバーコネクタエンクロージャ
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ EMM
 - Dell サーバーエンクロージャ EMM
- Dell ストレージコントローラエンクロージャファンセンサー
 - Dell サーバーエンクロージャファンセンサー
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ物理ディスク
 - Dell サーバーエンクロージャ外部物理ディスク
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ電源装置
 - Dell サーバーエンクロージャ電源装置
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ温度センサー
 - Dell サーバー温度センサー
- Dell ストレージコントローラ内部物理ディスク
 - Dell サーバー内部物理ディスクユニット
- Dell ストレージコントローラ物理ディスク
 - Dell サーバーコントローラダイレクトアタッチド物理ディスク
- Dell ストレージグループ
 - Dell サーバーストレージ
- Dell ストレージ仮想ディスク
 - Dell サーバーコントローラ仮想ディスクユニット
- Dell 温度センサー
 - Dell サーバー温度センサーの正常性
- Dell 温度センサーグループ
 - Dell サーバー温度センサグループの正常性
- Dell 電圧センサー
 - Dell サーバー電圧センサーの正常性
- Dell 電圧センサーグループ
 - Dell サーバーセンサー電圧グループ

Dell EMC シャーシ モニタリング機能のためのユニット モニター

シャーシのシャーシ モニタリング機能によって提供される次のユニット モニターはすべて、**定期タイプ**です。

- Dell EMC CMC/OME-M
 - Dell シャーシ Run As アカウントの関連付け
 - Dell CMC ステータス
- Dell シャーシ正常性全般
 - Dell シャーシ正常性全般ユニット モニター
- Dell シャーシ I/O モジュール
 - Dell シャーシ I/O モジュール正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell モジュラー型シャーシ ファン
 - Dell シャーシ ファン正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型コントローラ
 - Dell シャーシ CMC 正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型コントローラ グループ
 - Dell シャーシ CMC グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型電源装置
 - Dell シャーシ電源装置正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型電源装置グループ
 - Dell シャーシ電源装置グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型 PCIe デバイス
 - Dell シャーシ PCIe デバイス正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージエンクロージャ
 - Dell シャーシ ストレージ エンクロージャ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラ
 - Dell シャーシ ストレージ コントローラ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター

- Dell シャーシストレージコントローラ バッテリー正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラ仮想ディスク
 - Dell シャーシストレージ仮想ディスク正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラエンクロージャ内部物理ディスク
 - Dell シャーシストレージ内部物理ディスク プライマリー正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター
 - Dell シャーシストレージ内部物理ディスクの予測障害正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラエンクロージャ外部物理ディスク
 - Dell シャーシストレージ外部物理ディスク プライマリー正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター
 - Dell シャーシストレージ外部物理ディスクの予測障害正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能のユニット モニター

ネットワーク スイッチ モニタリング機能によって提供される次のユニット モニターはすべて、**定期タイプ**です。

- Dell EMC ネットワークスイッチ
 - Dell EMC ネットワークスイッチのステータス
- Dell EMC ネットワークスイッチファングループ
 - Dell EMC ネットワーク スイッチ ファン グループ正常性全般ユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチファンユニット
 - Dell EMC ネットワーク スイッチ ファン正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチユーザーポートグループ
 - Dell EMC ネットワーク スイッチ ユーザー ポート グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチユーザーポートユニット
 - Dell EMC ネットワーク スイッチ ユーザー ポート正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワーク スイッチの電源供給ユニット
 - Dell EMC ネットワーク スイッチ電源正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチの電源グループ
 - Dell EMC ネットワーク スイッチ電源グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチインタフェース
 - Dell EMC ネットワーク スイッチ インターフェイス正常性全般ユニット モニター

OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって使用されるイベントルール

SCOM コンソールを使用するデータセンター管理者は、システムで実行されているルールやモニタリングについて把握しておく必要がある場合があります。OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能が使用するイベントルールによって、関連するイベントルールの情報が管理者に提供されます。

PowerEdge サーバーおよびワークステーションの OMIMSSC のライセンス対象 (iDRAC WS-Man) モニタリング機能によって処理されるイベントルール

Dell システム イベント処理のルール

OMIMSSC は Dell EMC PowerEdge サーバーからのルールを処理します。

iDRAC-WS-Man を介した Dell EMC PowerEdge サーバー

Dell EMC サーバーおよびラック モニタリング (ライセンス対象) 機能を使用して検出された Dell EMC PowerEdge サーバーに対するすべての情報、警告、および重大 SNMP トラップには、対応する SNMP トラップルールがあります。これらの各ルールは、次の条件に基づいて処理されます。

- ソース名 = Dell サーバー IP
- OID = トラップイベントの実際のトラップ ID
- データプロバイダ = SNMP トラップイベントプロバイダ

OMIMSSC のライセンス対象シャーシ モニタリング機能によって処理されるイベント ルール

- Dell システム イベント処理ルール：Dell EMC Server Management Pack Suite は、シャーシ トラップからのルールを処理します。
 - Dell EMC シャーシ デバイス：シャーシ デバイスのすべての情報、警告、重大 SNMP トラップには、対応する SNMP トラップルールがあります。これらの各ルールは、次の条件に基づいて処理されます。
 - ソース名 = DRAC/CMC の名前または IP
 - OID = DRAC または CMC SNMP トラップ イベントの実際のトラップ ID
 - データプロバイダ = SNMP トラップ
- i** **メモ:** 情報アラートはデフォルトでオフになっています。これらのアラートを受信するには、情報アラート管理パックをインポートします。

追加リソース

表 23. 追加リソース

文書	説明	入手先
『Dell EMC Server Management Pack Suite for Microsoft System Center - Operations Manager ユーザーズガイド』	DSMPS のインストール、設定、使用およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。	1. Dell.com/esmmanuals にアクセスします。 2. Microsoft System Center Operations Manager 向け Server Management Pack バージョンを選択し、必要なアプリケーションバージョンを選択します。
『System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center リリースノート』	OMIMSSC および DSMPS の新機能、既知の問題、回避策に関する情報が記載されています。	3. ドキュメント タブを選択して、以下のドキュメントにアクセスします。
『System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) による拡張性』テクニカル ホワイト ペーパー	OMIMSSC 環境にプロキシ管理サーバーを追加することにより、モニタリング機能を拡張する方法について説明します。	

Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス

直接リンクを使用して Dell EMC サポート サイトに移動するか、検索エンジンを使用して、一連のシステム管理ツールに関連するサポート コンテンツにアクセスします。

- 直接リンク：
 - Dell EMC エンタープライズ システム管理および Dell EMC リモート エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/esmmanuals>
 - Dell EMC 仮想化ソリューション：<https://www.dell.com/SoftwareManuals>
 - Dell EMC OpenManage：<https://www.dell.com/openmanagemanuals>
 - iDRAC：<https://www.dell.com/idracmanuals>
 - Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement>
 - Dell EMC Serviceability Tools：<https://www.dell.com/serviceabilitytools>
- Dell EMC サポート サイト：
 1. <https://www.dell.com/support> にアクセスします。
 2. **すべての製品の参照** をクリックします。
 3. **すべての製品** ページで **ソフトウェア** をクリックして、次に必要なリンクをクリックします。
 4. 必要な製品をクリックして、必要なバージョンをクリックします。

検索エンジンを使用する場合は、検索ボックスにドキュメントの名前とバージョンを入力します。

デル・テクノロジーズへのお問い合わせ

デル・テクノロジーズでは、オンラインおよび電話によるサポートとサービス オプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国または地域、および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。

メモ: アクティブなインターネット接続がない場合は、ご購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデル・テクノロジーズ製品カタログで連絡先をご確認いただけます。

デル・テクノロジーズのセールス、テクニカル サポート、またはカスタマー サービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. Dell.com/support にアクセスします。
2. ページの右下で、リストから希望の国または地域を選択します。
3. サポートへのお問い合わせをクリックして、該当するサポート リンクを選択します。

用語集

表 24. 本ガイドで使用する用語

用語	説明
AMSRP	All Management Server Resource Pool
CMC/ OME-M	Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise—Modular
DSMPS	Dell EMC Server Management Pack Suite for Microsoft System Center—Operations Manager
DRAC/ iDRAC	特に指定のない限り、Dell EMC PowerEdge サーバー、Dell ブランド OEM サーバー、Dell OEM Ready サーバーの Dell Remote Access Controller/ integrated Dell Remote Access Controller です。
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング	データセンターで、サポート対象の Windows オペレーティングシステムを実行している PowerEdge サーバー、PowerVault モノリス型およびモジュラー型システム、Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックを、サポートされている OpenManage Server Administrator (OMSA) を使用して検出およびモニタリングする OMIMSSC のライセンスが不要の機能です。
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)	データセンターで、第 12 世代、第 13 世代、および iDRAC 9 ベースの PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックを検出およびモニタリングする OMIMSSC のライセンスベース機能です。Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーと Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェア モニタリング機能もサポートされています。
FMD	Dell EMC Feature Management Dashboard
iSM	iDRAC サービス モジュールは、サーバーで実行される軽量ソフトウェアであり、オペレーティングシステムからのモニタリング情報を使用して iDRAC を補完します。iSM とサポート対象プラットフォームの詳細については、 Dell.com/support の『iDRAC サービス モジュール インストール ガイド』を参照してください。
MS	管理サーバー
MP	管理バック
OMIMSSC	Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft System Center—Operations Manager
プロキシ MS	プロキシ管理サーバー (今後は Dell EMC Alert Relay Server と呼ばれます) は、OMIMSSC 環境でのモニタリング機能の拡張に有効です。
PowerEdge サーバー	特に指定がない限り、PowerEdge モノリス型サーバー、PowerEdge モジュラー型サーバー、PowerVault デバイス、サポート対象ラック型ワークステーション、Dell ブランド OEM サーバー、Dell OEM Ready サーバー。
SCOM	Microsoft System Center for Operations Manager。
VM	仮想マシン

追加トピック

トピック：

- トラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするための SCOM の設定
- SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成
- 複数の Run As アカウントの関連付け
- Web Services Management (WS-Man) と SMASH デバイス テンプレートのインストール
- Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能

トラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするための SCOM の設定

SCOM でトラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするには、次の手順を実行します。


1. SCOM コンソールを起動し、**管理**を選択します。
2. **管理**ペインで、**Run As 設定** > **プロファイル**と移動します。
3. 使用可能なプロファイルのリストから、**SNMP モニタリング アカウント**を右クリックし、**プロパティ**をクリックします。はじめに画面が表示されます。
4. **次へ**をクリックします。
Run As プロファイルの一般プロパティの指定画面が表示されます。
5. **次へ**をクリックします。
Run As アカウント画面が表示されます。
6. **追加**をクリックします。
7. デバイスを検出するには、**Run As アカウント**ドロップダウン メニューからコミュニティ文字列を選択します。
 - ① **メモ:** Run As アカウントのコミュニティ文字列を使用できない場合は、それを作成します。「[SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成](#)」を参照してください。
 - ① **メモ:** デバイスの検出に複数の Run As アカウントを使用している場合は、各デバイスをそれに関連する Run As アカウントに関連付けます。詳細については、「[複数 Run As アカウントの関連付け](#)」を参照してください。
8. **OK**をクリックします。
9. ウィザードの指示に従ってタスクを完了した後、**閉じる**をクリックします。

SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成

1. SCOM コンソールを起動し、**管理**を選択します。
2. **管理**ペインで、**Run As 設定** > **アカウント**の順にクリックします。
3. **アカウント**を右クリックして、**Run As アカウントの作成**をクリックします。はじめに画面が表示されます。
 - ① **メモ:** ネットワーク モニタリングのための Run As アカウントの詳細については、[Microsoft のマニュアル](#)を参照してください。
4. **次へ**をクリックします。
一般プロパティ画面が表示されます。
5. **Run As アカウントのタイプ**ドロップダウン メニューから、コミュニティ文字列を選択します。
6. **表示名**ボックスに、コミュニティ文字列名を入力し、**次へ**をクリックします。
7. **コミュニティ文字列**ボックスに、コミュニティ文字列を入力し、**次へ**をクリックします。
配布セキュリティ画面が表示されます。
8. **低セキュリティ - 管理下コンピューターのすべてに資格情報を自動配布する**オプションを選択して、**作成**をクリックします。

9. ウィザードの指示に従ってタスクを完了した後、**閉じる**をクリックします。

複数の Run As アカウントの関連付け


1. 「**トラップとトラップベースのユニット モニターのための運用マネージャーの設定**」のステップ 1~6 を実行します。
2. **Run As** アカウントの追加画面で、**選択したクラス、グループ、またはオブジェクト オプション**を選択します。
3. **選択 > クラス** をクリックします。
クラス検索画面が表示されます。
 **メモ:** また、コミュニティ文字列の Run As アカウントを、オブジェクトおよびグループに関連付けることもできます。詳細については、www.docs.microsoft.com にある SCOM に関するマイクロソフトのマニュアルを参照してください。
4. **フィルター (オプション)** ボックスにクラス名を入力します。デバイスのタイプに基づいて、「**Dell EMC サーバー**」、「**Dell CMC/OME-M**」、または「**Dell EMC DRAC/MC**」を入力します。
5. **検索** をクリックします。
6. **使用可能なアイテム** で、追加するクラスを選択します。
7. **OK** をクリックします。
8. **Run As** アカウントの追加画面で、**OK** をクリックします。
9. 管理する各クラスタイプについて、ステップ 2~8 を繰り返します。
10. **保存** をクリックします。
11. ウィザードの指示に従ってタスクを完了した後、**閉じる**をクリックします。

Web Services Management (WS-Man) と SMASH デバイステンプレーートのインストール

1. www.microsoft.com/en-in/download/confirmation.aspx?id=29266 から、次の SMASH ライブラリー MPB ファイルを一時的な場所である `WS-ManagementAndSMASHDeviceDiscoveryTemplate.msi` にダウンロードします。
2. SMASH ライブラリー MPB ファイルをユーザーまたはデフォルトの場所にコピーするには、MSI ファイルを実行します。
3. SCOM コンソールを起動します。
4. 左ペインで、**管理**を選択します。
5. **管理** パックを選択して、作業中のペインで**管理** パックをインポートを選択します。
6. **追加 > ディスクから追加**を選択します。
7. Microsoft SMASH ライブラリー MPB ファイルをダウンロードした場所の詳細を入力するか、場所を参照します。
8. MPB ファイルを選択して**開く**をクリックします。
管理パックのインポート画面が表示され、インポート リストにテンプレートが表示されます。
9. **インストール** をクリックします。

Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能

[Run As アカウントの関連付け] タスクでは、SMASH 検出に使用される Run As アカウントを、正常性モニタリングに必要なすべての Dell サーバー オブジェクトに関連付けます。このタスクは、オブジェクトレベルの関連付けを実行するオプションとして使用できます。

 **警告:** [Run As アカウントの関連付け] タスクは、必要な場合のみ実行してください。このタスクは、すべての Dell サーバー オブジェクトの設定に影響します。Dell サーバー Run As アカウント関連付けユニット モニターは、オブジェクトレベルの関連付けを自動的に実行します。